

# 九州地区大学図書館協議会誌

第 57 号

2014

九州地区大学図書館協議会

## 目 次

### 【巻 頭 言】

大分大学における図書館情報リテラシー育成の取り組み . . . . 宮町 良広 . . . . 1

### 【寄 稿 論 文】

新聞アーカイブシステム KENBUN . . . . . 中島 誠 . . . . 5

情報検索講座を通じて見えてきた新たな課題  
ー北九州市立大学・北方キャンパスの場合ー . . . . . 山城 若菜 . . . . 9

### 【図 書 館 紹 介】

福岡教育大学学術情報センター図書館 . . . . . 14

鹿児島大学附属図書館 . . . . . 18

福岡女子大学学術情報センター（図書館） . . . . . 20

【加盟館ニュース】 . . . . . 23

【Library Lovers' キャンペーン 2014 実施報告】 . . . . . 44

【図書館活動報告】 . . . . . 50

【事務局報告】 . . . . . 63

【協議会総会記録】 . . . . . 65

### 【資 料】

九州地区大学図書館協議会会則 . . . . . 77

九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則 . . . . . 78

九州地区大学図書館協議会入会に関する細則 . . . . . 79

九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規 . . . . . 83

九州地区大学図書館協議会表彰規程 . . . . . 83

研修会の補助に関する申合せ . . . . . 88

副幹事館の役割 . . . . . 90

九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について . . . . . 90

加盟館一覧 . . . . . 92

役員館一覧 . . . . . 96

総会当番館一覧 . . . . . 100





## 大分大学における図書館情報リテラシー育成の取り組み

大分大学学術情報拠点長 宮町良広

学術情報拠点というのは何ともわかりにくい名称である。本学の学術情報拠点<sup>i</sup>は、図書館と情報処理センターを統合した組織であるが、本稿では図書館に焦点をあてることとしたい。大分大学図書館は、耐震改修によって、ラーニングコモンズなどを備えた新図書館として、2012年10月に再開館した。ただ耐震工事休館中に利用者の図書館離れが進んだせいも、再開館後も入館者数の低迷に悩んでいた。しかし、2014年度には、各種の取り組みを行った結果、4～9月期の入館者数が10万人を超え、前年度比で15%の増加を達成した。本稿では、入館者増加に寄与した各種の取り組み、とりわけ学生の学習支援機能の充実や図書館情報リテラシーの育成に関する取り組み内容について報告する。

本取り組みの企画実施母体となったのは、「拡大学術情報室」といわれる内部組織である。拡大学術情報室とは、協力教員6名を構成員として設置されていた「学術情報室」に、学術情報拠点長や図書館職員複数名が加わってきた新しい組織であり、2014年1月以降、月1回のペースで会議を開催している。本室の特徴は、職員の積極的な参加によって、高いレベルの「教職協働」を実現した点にあると筆者は考えている。拡大学術情報室の設置当初は、「入館者数の増加策を考える」という漠とした目的しかなかったが、会議をする中で、3つの論点、すなわち学生の学習支援に重点をおくこと、入館者数は副次的指標であること、低学年生とりわけ1年生にターゲットを絞ることに意見がまとまった。その

後の取り組みは、毎月の議論の成りゆきによって行きつ戻りつしてきたが、開始後10ヶ月を経て、表1のように整理されていった。

表1は、長澤多代氏（三重大学）の議論を参考にして、図書館情報リテラシー教育の枠組みを5つのレベルに分けて整理したものである<sup>ii</sup>。本稿でいう図書館情報リテラシー教育とは、自律した図書館利用者の育成を目的として学生を主たる対象として行う情報リテラシー教育である。まず第1レベルは、図書館の存在や役割を伝達する「印象づけ」である。本学では従来から、新入生ガイダンス等で図書館オリエンテーションを実施してきたが、その内容や方法は学部によってまちまちで必ずしも効果的とはいえなかった。そこで本年度からは、入学式直後に、新入生ガイダンスを学部単位で同じ形式で行うこととし、さらに学生の記憶に残るように伝達内容を厳選した。また学生が親しみやすいように猫のキャラクターを使った資料を配付した。これら業務は専ら図書館職員が担当した。

図書館の存在を知っても、学生が利用するとは限らない。そこで図書館の設備やサービスの内容を実際に見てもらい、第2レベルの「サービス案内」が必要となる。本学では、学部・学科によっては、1年生向けの演習授業などで図書館ツアーが実施されているので、上記の新入生ガイダンスとの関係を意識しつつ、「現場を見て体験する」ことを重視してツアー内容を見直した。図書館のある旦野原キャンパスの新入生の半数程度が授業中に行われる図書館ツアーに参加したが、図書館ツ

アーを授業に組み込んでいない学部・学科も存在する。そこで、これら学部・学科の新入生を対象として、希望者向けの図書館ツアーを4月中に2回ほど実施した。チラシの配布や掲示、教員からの声かけなど複数の広報手

段に訴えたが、こちらのツアー参加者数は少なかった。また従来からある『行列のできない図書館便り』というやや自虐的な名前の広報誌も活用した。

表1 大分大学図書館における図書館情報リテラシー教育の枠組み

レベル	タイトル	伝達内容	媒体	担当	実施内容
1	印象づけ	図書館の存在・役割・機能	ポスター、パンフ、ちらし、オリエンテーション	職員	入学式直後の新入生ガイダンスで紹介（伝達内容の見直し）
2	サービス案内	設備の配置、サービスの種類	見学ツアー、館内サイン、広報誌	職員	図書館ツアー（1年生向け授業に組み込み、授業に組み込めない学部は希望者向けに別途実施） 広報誌（行列のできない図書館便り）
3	情報探索力育成	情報資源の探索、情報の評価	講習会、コンシェルジュ、独習用チラシなど	教職協働	選書ツアー 利用講習会（一部授業に組み込み）
4	情報整理力育成	要約・引用、記録・発想法、著作権	科目関連指導（授業・ゼミ）、独立科目、講習会、パスファインダー、独習用ツール、テキストブックなど	教員	Sを目指す！レポート講習会 ビブリオバトル POP作成 教養科目授業
5	情報表現力育成	レポート、口頭発表			

三重大学・長澤多代氏（2014）大分県大学図書館協議会発表資料を改変

原資料 日本図書館協議会・図書館利用教育委員会（2003）

ここまでは、どの図書館でも行ってきたいわば従来型の業務である。切り開くべき領域はレベル3以上となる。まずレベル3は「情報探索力育成」である。本学では、青ベレー帽をかぶった図書館職員が週2回ほどフロアに出て学生の資料探しを支援する「コンシェルジュ」というユニークな取り組みを実施している。また備え付けの各種機器を使って授業外の学習支援を行う「科目別学習支援ブース」の設置や、授業に関連する参考図書やWebサイトなどの情報源をリスト化した授業資料ナビゲータの

提供を行っている。さらに教員の要請に応じて授業内で資料検索を実習する「利用講習会」を実施している。これら事業は教職協働で開発したものだが、残念ながら利用状況は芳しくない。

そこで、まずは学生が主体的に情報探索することを重視して、ここ数年ほど実施が見送られていた「選書ツアー」を復活させることにした。行き先は市内中心部の大型書店、1人あたり購入予算は2万円としたが、選書した中から数冊分のPOP<sup>iii</sup>作成を新たな作業として加えた。チラシやポスターで

広報してみたが、当初、学生の反応は鈍かった。そこで関係教職員が本好きの学生に個別に声をかけたところ、卒論等の資料を求めている上級生を中心に 8 名の学生が応募してきた。実施後のアンケートはたいへん高い評価で、学生の主体性を引き出したことがわかった。聴き取りによれば、半数の参加者（女性）は POP 作成自体に関心があったと答えた。POP を作成するには、図書の内容を整理し、それを 1 枚の紙に表現することが必要である。すなわちレベル 4 の情報整理力とレベル 5 の情報表現力が同時に育成できるといえる。選書ツアーは年 1 回の実施であるため、それを補う目的で「購入希望図書リクエスト制度」を設けているが、こちらの利用は活発とはいえない。選書ツアーとリクエスト制度の連動をいかにして図るかが課題となっている。

次のレベル 4 は資料の引用や要約などに関わる「情報整理力育成」、レベル 5 はレポートの作成や口頭発表に関わる「情報表現力育成」である。レポート作成などの実際において両レベルの能力はきわめて密接に関連するといつてよい。また本学の取り組みは発展途上であり、2 つを区分できるだけの実績がないことから、両能力をあわせて考えることとしたい。本学では、図書館活用をテーマとした教養教育科目が 2013 年度から行われているが、僅か 1 科目であり、十分とはいえない。したがって「拡大学術情報室」の会議を重ねる中で新たな事業が必要であることが共通理解となった。そこで前期授業のレポート課題が出題される 7 月初旬に狙いを定めて、「S を目指す！ レポートの書き方講習会」を実施することとした。ターゲットは初めてレポートを書く 1 年生やレポートに自信のない学生に定めた。1 年生は履修授業が多く、空き時間が少ない

ため、昼休み等の時間を使って所要 30 分で講習するとの広報を出した。当初は、1 回あたりの受講者数 20 名で 2 回（計 40 名）行う計画であったが、申し込み者が予想を大きく上回ったため、急遽、1 回あたりの受講者数および実施回数を増やし、30 名×3 回の計 90 名に受け入れ枠を拡大して実施した。講習内容は、時間が短いことおよび多くの学生が不得手としている点を考慮して、出典明記と引用作法に限定した。実施後の参加者アンケートによれば、受講者の 8 割近くが 1 年生であり、2 年生を加えると 9 割に達したので、企画側のもくろみが的中した。また総合評価を 3 点満点で換算したところ、もっとも評価の高かった回が 2.91 点で、低い回でも 2.85 点を記録した。異なる内容での次回開催を希望する声が少なくない受講者から出たことから、本講習会は成功したといつてよいだろう。次の講習会の実施について検討中である。

もう一つの新たな取り組みとして、他大学図書館での実施例に触発されて、ビブリアバトルを行うこととした。実施日は大学開放イベントおよび大学祭と同日の文化の日とした。また初めての実施で、主催側にも不安があったため、予選を行う計画を立てた。全学生数を上回る大量のチラシを印刷し、授業ガイダンスなど学生が集まる機会を利用して配布するとともに、ポスターや HP などを使い、本学図書館としては前のめりで大々的な広報を展開した。また豪華な副賞も用意したので、相当数の申し込みがあるものと期待していた。しかしながら、ふたを開けてみると、申し込みどころか問い合わせも僅かしかない。そこで選書ツアー時と同様に、教職員が学生個人に声をかけたところ、「しぶしぶ」といった学生を含めて、13 名がバトラーに申し込んでくれ

た。10月下旬、2会場に分かれて予選を実施し、それぞれ上位3名の計6名が本選に勝ち残った。各バトラーの顔には緊張の様子が色濃く出ていたが、入念に準備して発表に望んだことがよくわかった。何よりも自分が選んだ本のエッセンスをしっかりとらえ（情報整理力）、会場の聴衆に伝えよう（情報表現力）とする熱意が伝わってきた。筆者にとってもビブリオバトルはほぼ初めての経験であったが、率直におもしろいと感じた。また予選終了後のバトラーの目の輝きや放送部のインタビューにハキハキと答える様子から、レベル4および5で育成すべき2つの力が、学生の中に能動的に形成されたことが明らかに看取できた。試合直後に、予選で惜しくも敗退した学生が「来年必ずリベンジしたい」という声をあげたのは、勝敗にかかわらずビブリオバトルが学生の心に響くことを示している。

予選を突破した6名のバトラーは、きわめて自発的に一層の準備をすすめ、本選でも力を発揮した。ただし聴衆が余り多く集まらなかった。総数は30名ほどであったが、主催者がターゲットとしていた学生聴衆は半数以下に止まった。大学祭と同日開催であったため、学生は模擬店やイベント等で忙しかったと思われるが、本に関心をもつ

学生の輪を広げることの困難さを再認識せざるを得なかった。むしろビブリオバトルは一般の方々の関心を引いたようであった。地元新聞社は取材依頼をしなかったにもかかわらず、予選、本選と2回も大きな記事を掲載してくれた。

以上のような小さな取り組みの積み重ねの結果、図書館の入館者数（4～9月期）は前年度比15%の増加を記録した。とりわけ1年生（17%）および2年生（32%）の伸びが顕著であることから、「拡大学術情報室」の意図は達成されたと見て大過ないであろう。しかしながら、多くの課題が残っている。確かに核となる学生は育ってきているが、その数は少なく、学生の輪に広がっているとはいえない。そのためには、これまで取り組んできた「教職」協働だけでなく、学生サポーター制度を作るなどして、「教職学生」協働が重要になると思われる。それらの成果を測る指標として、入館者数に加え、学生の学習利用度に直結する貸出冊数が重要になってくるだろう。今後は、「拡大学術情報室」が目指している学習支援充実の輪をその他の教職員に広げることを考えている。

---

i 現在は、図書館、医学図書館、情報基盤センター、医学情報センターの4施設から構成される。

ii 筆者は経済地理学者であり、図書館情報学については初学者である。そこで本学図書館職員が長澤氏の資料を教示してくれた。記して感謝したい。

iii Point of Purchase の略。元来は「販売促進のための広告媒体」を意味するが、書店等での手書きの紙広告が人気を博したことから、図書館等では「本を紹介する手書きの紙媒体」の意味で使われるようになった。



## 新聞アーカイブシステム KENBUN

中島 誠

### 1. はじめに

新聞アーカイブシステム KENBUN は、大分大学が大分県立図書館と協同で開発した、古い新聞記事のブラウジングを提供するシステムである。2012年3月に大分県立図書館、2013年4月に中津市立小幡記念図書館に導入した後、2014年9月に大分大学学術情報拠点(図書館)(以下、簡単に大分大学図書館と記す)に導入した(図1)。KENBUNでは、大分県立図書館がマイクロフィルムで保存している新聞紙面のデジタル画像(約16万頁分)を、図書館で書棚の間を眺め回しながら書籍を探すブラウジングのように、記事を眺め回しながら探して読むことができる。

近年、欧米を中心に構築中の多くの新聞アーカイブシステム[1, 2, 3]は、利用者による質問用語(キーワード)に対応した結果を提示する、検索を主体とする。KENBUNが主体としたブラウジングでは、質問用語をうまく思いつかなくとも記事へのアクセスが可能で、予期せぬ発見も得られるという利点がある[4]。以下、本稿では、KENBUN構築に至る背景、その実現方法、ならびにこれまでの利用状況を紹介する。

### 2. 開発背景

新聞は、発行当時の社会情勢や出来事などを伝える歴史的資料としての側面をもつ。特に全国紙では取り上げられないような地域の記事を掲載した古い地方新聞の多くは、発行部数が少ないため、その希少価値は高い。このような古い新聞を保存し、提供する役割の多くは、地域の公立図書館や大学図書館が担う。

古い新聞の紙面は、新聞紙の耐久年数の関係から、通常はマイクロフィルムに転写されて保存さ



図1 KENBUN(大分大学学術情報拠点(図書館))

れる。近年、マイクロフィルムからスキャンニングによりデジタル画像化した紙面にPC上で容易にアクセスできるアーカイブシステムの構築が進められている。しかしながら、検索を主体としたシステムでは、構築に際し、画像からテキストを抽出したのち索引を作成することが必須となる。多くの場合、OCR技術の利用で対処するが[5, 6]、抽出精度の問題から、修正に非常に多くの人的、金銭的コストを要する。

大分県立図書館は、平成23年度図書館振興財団の助成を受け、マイクロフィルムで保有する新聞紙面のデジタル画像化に着手した[7]。その際、低コストかつ短期間に実現できるアーカイブシステムの構築について、大分大学へ協力依頼があった。大分大学では、以前より公立図書館の子ども室に設置する絵本のブラウジングシステムを開発してきた[8]。子どもたちが、友人や保護者と一緒に絵本(冊子体や電子絵本)を探して読めるシステムである。ここで得た知見をもとに、大量の新聞紙面を一覧しながら望む記事を探せるブラウジング主体のアーカイブシステムを構築することとした。当初対象としたのは、発行後50年以上を経過した、明治9年から昭和34年までに大分県内やその近隣

表 1 主な新聞の収蔵期間と紙面数

新聞社名	収蔵期間*	頁数
大分新聞	明治 31 年 7 月～明治 32 年 12 月, 大正 7 年 1 月～昭和 16 年 10 月	59,058
大分合同新聞	昭和 17 年 4 月～昭和 36 年 12 月	41,738
豊州新報	大正 15 年 12 月～昭和 17 年 3 月	39,364
臼杵新聞	明治 34 年 5 月～明治 45 年 12 月	3,126
日田新報	明治 26 年～明治 37 年	1,920
田舎新聞	明治 9 年 12 月～明治 14 年 12 月	925

\*一部欠号あり

で発行された 25 新聞社の新聞である。表 1 にその主な内訳を示す。

### 3. KENBUN の概要

新聞は時間の流れに沿ってほぼ毎日発刊されるが、人間は、時間を年、月、日といった単位にまとめこれらを順に並べて捉えている[9]。また、政治や社会といった同じ主題の記事は 1 枚のあるいは連続した紙面に、そして 1 つの記事は紙面ごとの段組み構成に沿ってまとめて配置されている。KENBUN では、新聞に関連した、時間と空間に関する知識を基に、アーカイブされる紙面が多くなった場合でも効率よくブラウジングできるような紙面の画像の配置法を勘案した。

#### 3.1 紙面の画像の配置とブラウジング

図 2 に KENBUN の初期画面を示す。30 インチディスプレイ上（解像度 2,560×1,600 pixels）での表示を前提に設計してある。紙面の画像を配置する 2 次元空間は、発刊年の古いものが左上、新しいものが右下に、同じ発刊年のものでは、1 月が最左端、12 月が最右端に配置されるようにしてある。配置の際、時間の流れを明確にするため、1 月から 12 月へ向けて、白色から黒色へ明度を月ごとに段階的に下げたラベルを上部につけてある。ラベルは、各月の区切りとなり、1 月と 12 月の明度の差が年の区切りとなる。また、日本では、社会現象などが和暦と合わせて論じられる点を考慮して、元号ごとに月の背景色を変えて、時代を分かりやすくしてある。画面左端には行ごとの配置した年を表示し、マウスクリックで和暦と西暦の切



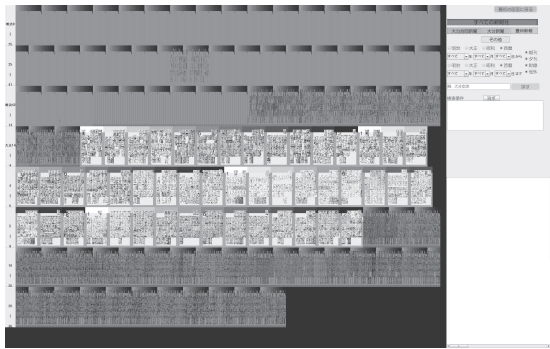
図 2 KENBUN の初期画面（紙面の画像の配置）

り替えが可能である。

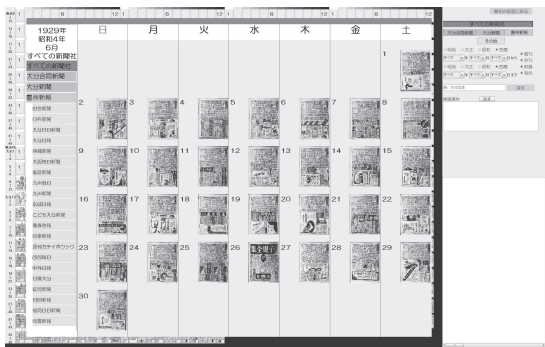
同じ発刊年月の紙面の画像は、1 ヶ月分のカレンダー様で配置してある（図 2 では、1,056 ヶ月分が表示されている）。同じ発刊日のものは、新聞ごとに第 1 面が一番上、第 2 面がその下になるように束ねてある。配置位置の左上から右下まで、そして同じ月内でも左上から右下まで、順に表示された各紙面の画像をめくっていくことで、時間の流れに沿ったブラウジングが可能となる。

図 3 (a) は、特定の年の行が選択された状態で、当該年のすべての月が拡大表示され、他の月の表示が縮小されている。図 3 (b) は、特定の月が選ばれてさらに拡大された状態である。カレンダーは、複数の新聞社分を重ねて表示してあるが、特定の新聞社の記事を最前面に表示するため、カレンダーの左に選択可能な新聞社名のリストを表示してある。

記事にその内容を示すタグとしての用語が付加されており、利用者が望む記事に関する用語を特定できれば、より限定された 2 次元部分空間内のブラウジングで済むようになり利用者にとっても効率性が増す。2 次元空間の右側には、図 3 (a) のようにその限定用のズームフォームを用意した。図 4 は、ズームフォームを利用した 2 次元空間の限定の例である。ズームフォームでは、紙面数の多い上位 3 社とその他の選択、発刊期間の入力、刊区分選択および記事に関する用語の入力ができ、部分空間を限定するための同時



(a) 年の拡大表示



(b) 月の拡大表示

図3 年と月の拡大表示

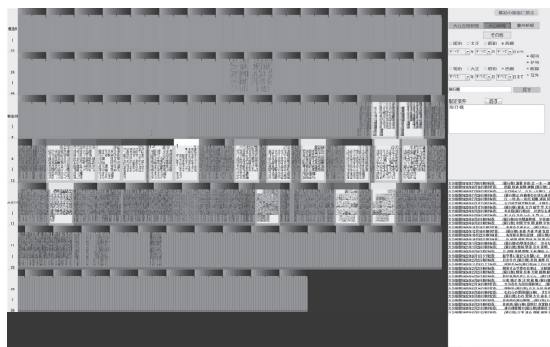


図4 2次元空間の限定(“飛行機”で限定)

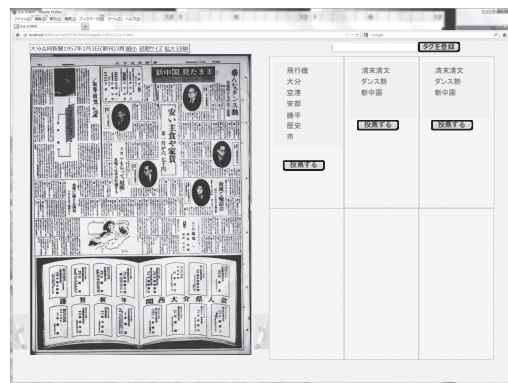
メニューとなっている。図では、用語として“飛行機”が入力され、左側の2次元空間で、これをタグとして有する紙面がある月をハイライトして部分空間を構成している。該当しない月は、縮小表示されている。

### 3.2 記事リーダーとソーシャルタギング

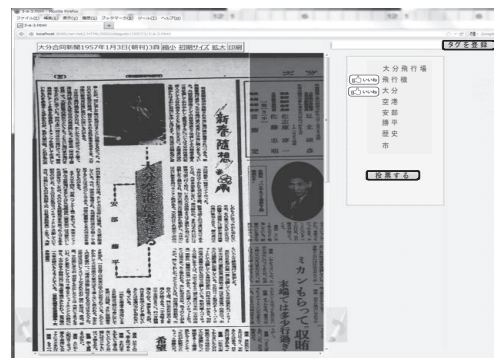
上記の様に2次元空間を限定するには、記事の内容を示すタグの付加は不可欠である。多数の利用者の多様な要求に対応するには、集合知を利用したソーシャルタギングが有効とされるが[10]、タギングには、簡便さが求められる。KENBUN

では、紙面を矩形に分割して表示することで対処している。

図5(a)に記事リーダーの初期画面を示す。左半分には、紙面の画像を表示し、その下部左右にある前後の紙面へのリンクをたどることで、紙面のめくりを行える。紙面の画像は図5(b)の左半分のように、必要に応じて拡大縮小を行うことができる。紙面は、 $3 \times 2$ の6つの矩形に分割してあり、分割した領域の連続部分に記事を配置してある。記事リーダーの右半分は、タギング領域で、分割領域にある記事にタギングが行えるようにしてある。左半分と右半分は同期しており、図5(b)のように、紙面の画像上でマウスクリックがされると、対応する分割領域がハイライトされると同時に、右半分では対応するタギング領域が表示され、それ以外が透明化される。右上部の入力フォームからタグを登録できる。利用者は記事が含まれる矩形領域を指定してタグを付加すればよく、詳細に記事の領域を特定することなくタギングを行える。



(a) リーダの初期画面



(b) 分割領域のハイライトとタグ

図5 タギング領域付き記事リーダー



#### 4. 利用状況

KENBUN での操作は、大きく 3 つに分けられる。年月日の拡大とタグを用いた空間の限定、および記事を読むためのリーダの起動である。図 6 に KENBUN を先行導入した大分県立図書館と中津市立小幡記念図書館での 1 年間のそれぞれの操作割合を示す。いずれも傾向は変わらず、タグを使うよりも、年月日の拡大が多く、“時間”を使った探索に時間が割かれていた。

図 7 に、紙面を読むためのリーダを起動した回数を示す。大分県立図書館では、もともとマイクロフィルムの存在を知っている利用者も多くいたため、期間中の記事リーダの起動回数の月平均も、約 1,200 回を超え(中津市立図書館では約 120 回)、開かれた紙面数の平均も 7,000 頁を超えた。

開かれた紙面の年代をみると、概ね戦後の 1940 年代から 50 年代の紙面が多かったが、大分県立図書館では、戦前の記事の閲覧割合が非常に多かった。司書へのインタビューによれば、学術研究のための利用者が利用したことが影響していると考えられる。また、大分県立図書館におけるマイクロフィルムの利用者数はあまり変化していないが、KENBUN の利用者数はそれを超えて増加傾向にある。KENBUN が多くのメディアに取り上げられたこともあり、マイクロフィルムを利用したことのない利用者の増加を促したと考えられる。

#### 5. 終わりに

時間や空間に関する知識は万人に共通であることを考えると、KENBUN の利用は、利用者にとって形式的で効果的であると言える。大分大学図書館では、導入後、大学が夏季休業中にも関わらず約 1 ヶ月間で 250 頁を超える紙面が見られた。今後は、長期的なブラウジングの行動解析を通じて、より簡便に記事を探せるような操作法の改良や、ソーシャルタギングの利用促進を行い、新聞紙面を利用した学術研究の糧となるべく整備したい。

人類の遺産としての、大量の歴史的な文書、書籍を対象としたアーカイブシステムの構築が世界的に進められている。従来のシステムが検索を主

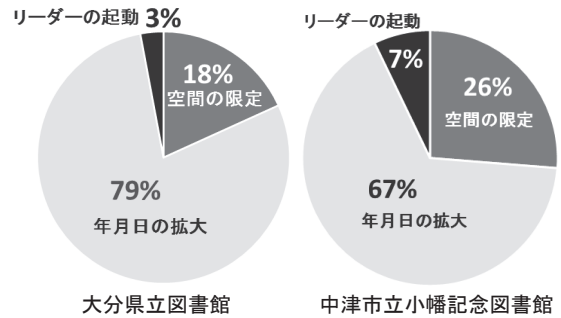


図 6 KENBUN の操作割合 (2013. 4～2014. 3)

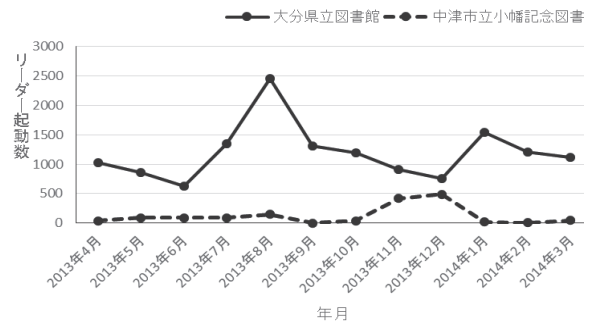


図 7 月別紙面閲覧用リーダ起動数

体とする中で、ブラウジングを主体として、利用者に思わぬ発見をもたらすシステムは、人間の知的活動を支える道具の 1 つとして、今後重要さを増すものと考えている。なお、KENBUN 構築の技術は特許出願中である(特願 2013-222654)。

#### 参考文献

- [1] British Newspaper Archive. <http://www.britishnewspaperarchive.co.uk/>
- [2] Chronicling America. <http://chroniclingamerica.loc.gov/>
- [3] Europeana Newspapers. <http://www.europeana-newspapers.eu/>
- [4] White, R. W., Kules, B., Drucker, S.M., and Schraefel, M. C. "Supporting exploratory search: Introduction," *Communications of the ACM*, vol. 49, no. 4, pp. 36-39, 2006.
- [5] Balk, H. and Conteh, A. "IMPACT: Centre of competence in text digitization," Proc. 2011 Workshop on Historical Document Imaging and Processing (HIP'11), pp.155-160, 2011.
- [6] Ishihara, T., Itoko, T., Sato, D., Tzadok, A., and Takagi, H. "Transforming Japanese archives into accessible digital books," Proc. ICDL 2012, pp.91-100, 2012.
- [7] 大分県立図書館と大分大学との協同による戦前期地方新聞画像データベースの構築. <https://www.toshokan.or.jp/josei/H23/ooita.pdf>
- [8] Liu, J., Ito, T., Toyokuni, N., Sato, K., and Nakashima, M. "Enhancing Children's Activity in Browsing/reading Together by the Installation of the BrowsReader in the Children's Room of a Library," *Information Processing & Management*, vol.48, no. 6, pp.1094-1115.
- [9] 中島義道, 「時間」を哲学する, 講談社現代新書, 1996.
- [10] Gupta, M., Li, R., Yin, Z., and Han, J. "Survey on social tagging techniques", *SIGKDD Explorations*, vol.12, no.1, pp.58-72, 2010.

なかしま まこと

(大分大学学術情報拠点学術情報室/工学部)

## 情報検索講座を通じて見えてきた新たな課題

—北九州市立大学・北方キャンパスの場合—

山城 若菜

## 1. はじめに

北九州市立大学・北方キャンパスは学生（院生含む）5,100人を擁している。本学図書館では、平成21年度から新入生を対象に大学図書館の活用推進を目的に「図書館ツアー」と題したガイダンスを実施してきた。また、平成23年度からは（表1）にあるように電子ジャーナル・データベース（以下、電子データ）への比重の高まりを鑑み、新入生に対する情報検索実習を追加した。

（表1）

図書館ツアー参加率推移				(%)
年度	新入生		上級生	備考
	利用案内	情報検索	情報検索	
H21	76.2	-	-	
H22	68.0	-	-	
H23	70.3	22.1	-	アンケート実施
H24	81.3	34.0	2.0	
H25	77.0	53.0	2.0	
H26	80.0	69.0	2.0	

ところが、平成23年に実施した図書館アンケートの結果、電子データの活用度は図書館スタッフの期待を大きく裏切る結果が出た（図1）。更に、新入生の「図書館ツアー」後に、参加した教員から上級生向けの講習会実施の要望が出てくるようになった。

これらアンケートの結果や教員の要望、文科省の指針等を参考に、本学図書館の学修支援の方向性を明らかにし貢献するために平成24年から3年生以上の上級生に対する情報検索講座の試行を開始した。なお、本学では、平成28年度に新図書館のオープンを予定して

いる。これに向け図書館では、学修支援のありかたを模索している。本稿では平成24年度から開始した「情報検索講座」やその他学修支援の試みを通じて新たに見えてきたラーニングコモンズ（多目的学修空間）の運用に向けた課題を明らかにする。

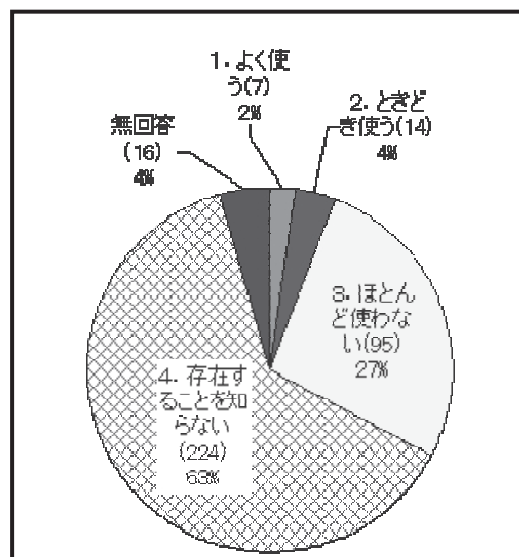
## 2. 「図書館利用者アンケート」の実施

本学図書館では平成19年度より電子データ契約数が急増したこと（表2）を受け平成23年度に電子データの利用状況についてアンケートを実施した（N=356）。

（表2）

電子データ契約数推移				(件)
年度	契約数	年度	契約数	
H17	6	H22	21	
H18	11	H23	19	
H19	17	H24	21	
H20	22	H25	21	
H21	21	H26	21	

（図1）

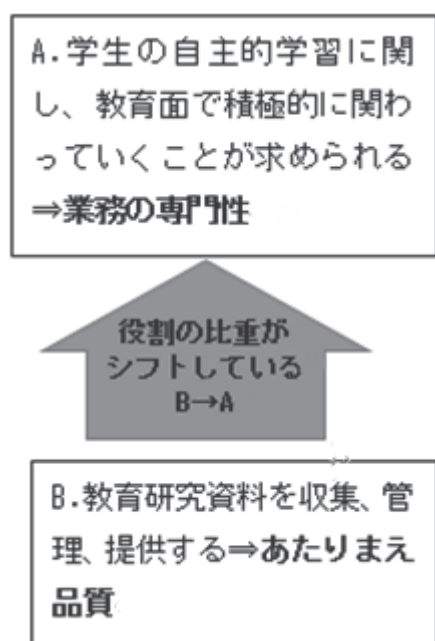


その結果、(図1)で示すように、「存在することを知らない」と回答した学生が63%の割合を占めていたことは図書館スタッフに大きな衝撃を与えるとともに、学修支援への取り組み姿勢を大きく変えていく転機となった。

### 3. 本学図書館で可能な学修支援の方向性の共有化

平成22年12月の「変革する大学にあって求められる大学図書館像」(※1)をはじめとする大学図書館に関わる主な政策提言をもとに、本学図書館では、実態として貸出を中心としたサービスから、学修支援サービスへ比重を移していく必要性を図書館内で共有した。

(図2)



### 4. 「情報検索講座」展開の試み

新生の「図書館ツアー」受講後、教員によっては課題を出して、受講後の図書館利用を促している場合もある。しかし「本が探せないが、どこにあるのか」「論文の探し方を教えてほしい」「新聞記事の検索はどうしたらいいのか」という相談はツアー直後から寄せられており、「図書館ツアー」を1回経験しただけでは、なかなか学生に浸透していないことが伺われた。この初年次図書館ツアーの効用

に関する懸念は当館だけではない。例えば九州大学附属図書館開発室の報告では、「1年次に受講した「大学図書館活用セミナー」について尋ねたところ、どの学生もあまり覚えていないと回答した。同セミナーで教えたはずの文献検索については、年次が上がってから研究室の先輩から教わったと回答する学生が多く、同セミナーがほとんど影響を与えていないということが分かった。」と述べられている(※2)。

教員の要望や「図書館利用者アンケート」の結果、新生向け「図書館ツアー」の実施結果をもとに、今年度より上級生向けの「情報検索講座」を実施した。

新生の「図書館ツアー」で実施した「情報検索実習」では利用の多い電子データの基本的な使い方を説明したが、上級生向けの「情報検索講座」では論文テーマ設定後の情報収集ステップを中心に事例に即した具体的な使い方を提示した。

「情報検索講座」はふたつの講座で構成されている。【図書館の活用&文献収集講座】では論文・レポート等を書くときに図書館でできることを説明した。【論文作成のための情報検索講座】では、キーワード設定の重要性を説明し、電子データでの検索をした。「情報検索講座」で使用した電子データは以下の(表3)にまとめている。

(表3)

電子データ名称	新生	上級生
① OPAC	○	×
② CiNiiArticles	○	○
③ CiNiiBooks	○	×
④ 北九州市立図書館蔵書検索	○	×
⑤ 国立国会図書館サーチ	○	×
⑥ 聞蔵Ⅱ	○	○
⑦ MAGAZINEPLUS	×	○
⑧ WebcatPlus	×	○
⑨ ジャパンナレッジ	×	○
⑩ ProQuest Research Library	×	○
⑪ リサーチ・ナビ	×	○
⑫ 国立国会図書館デジタルコレクション	×	○

## 5. 「なんでも相談コーナー」の試行

情報検索講座と並行して、学生が必要としている情報やつまづきポイント、教員からの課題がどういった形で出されるのかを知るため、また、将来ラーニングコモンズを設置した場合に想定される学修支援デスクをイメージして「なんでも相談コーナー」の試行に取り組んだ。ちなみにコーナーの名称は学生が気安く立ち寄れるように「なんでも相談コーナー」とした。

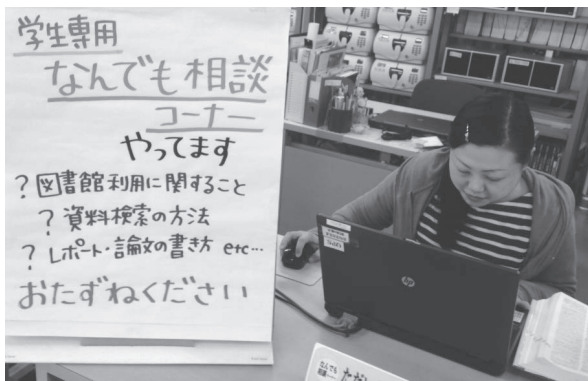
■期間：平成 26/5/19～26/11/30（継続中）

月曜から金曜

■時間：13:30～16:30 の 3 時間

■対象：学部生・(教職員)

(図 3)



前期 10 週(5/19～7/25)の結果は、コーナーを開設した 36 日で寄せられた相談件数が 135 件、1 日当たりの相談件数は 3.75 件であった。

「なんでも相談」に寄せられる質問の多くが図書館の基本的な利用方法であり、「図書館ツアー」の内容でカバーできる（と図書館職員は思っている）ものである。学生は実際の課題が出された際に、その課題と「図書館ツアー」の内容とが結びつかないのだという現実をあらためて思い知らされる結果となった。

今後は、「なんでも相談コーナー」で収集した学生のニーズやつまづきポイントを、来年度以降の情報検索講座や図書館発信のイベント等に活かしていきたい。

## 6. 教員との意見交換の実施

本学では、平成 28 年度に新図書館がオープンする予定である。新図書館の機能としてラーニングコモンズの運用が予定されているので、ワーキング（以下 WG）を通じて教員と学修支援について継続的に意見交換している。ラーニングコモンズの運用について岩本は「ラーニングコモンズにせよ、図書の本の積極的な利用にせよ、授業あるいは学習・研究指導において、教員が図書館の空間ないし書籍の利用を積極的に学生に働きかけることなしには、学生はそう自発的に図書館の門をくぐり、そこで勉強するようになるとは思えません。効果的な仕掛けは、授業で図書館の本を指定した宿題を出してもらい、グループのディスカッションを前提とした課題を科す、あるいは直接授業でラーニングコモンズの空間を使ってもらい等の利用を促すことでしょうか」と述べている（※3）。ラーニングコモンズの活用についての的を得た表現だと納得できた。

しかし、これが本学の WG において具体的な各論におよぶと、

- 1) 授業連携前提かなという気がします。場所的には 200 人収容、200 人が無理でもせいぜい 50～60 人規模のグループワークができるスペースがあると助かります。
- 2) 私の担当は、ある程度専門的な分野ですので、例えばライティングのサポートが仮にあったとしても、その専門にある程度特化している方がおられないとなかなか難しいなというのはどうしてもありますね。だから私が今言っていることが図書館との連携でできるかっていうとなかなかちょっと難しいかなという様には思っています。
- 3) 情報リテラシーのプログラムを図書館が提供して、各学部の基礎教育の部分に取り込んでいただくこと…

等々、現時点での図書館職員のパワーを考えると、かなりハードルが高い。



## 7. 「第2期教育振興基本計画」の指針と新たに 見えてきた本学図書館の課題について

文部科学省では、学修支援環境の整備に関して速やかに取り組むべきこととしてティーチング・アシスタント等の教育サポートスタッフの充実、学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化、ICTを活用した双方向型の授業・自修支援や教学システムの整備などをあげている(※4)。本学も、平成28年度には学生の自主的学修をサポートするのに適した図書館のスタートを目指しているが、現段階(平成26年11月)では予定に過ぎない。

したがって、新図書館の運用設計にあたっては、ラーニングコモンズが整った次のステップとして、さらなる学修支援という切り口で、積極的に前に出て行く姿勢が求められる。しかし、総論賛成でも各論になるとどこまで教員との連携できるかが大きな課題である。

1番目にラーニングコモンズの活用のために【利用の促進という視点】で図書館がどこまで積極的に係わっていくべきか。

2番目に【学修支援体制という視点】で、学生がラーニングコモンズエリアで色々とグループでディスカッションする、アクティブラーニングを行うということだけではなくて、色々な学修支援、例えばライティングセンターの構想、大学によっては大学院生・教員がデスクにいて色々質問を受けるということを行っている。これらの活動をどのように図書館としてサポートしていくか、どこまで関わっていくか、場合によっては学部等の連携とかというような問題も出てくるのではないか。

3番目は【運用体制という視点】で、これもどういう利用を想定するかによって違うのかもしれないが、ある程度利用の規定などの作成も必要なのか。

本学図書館としては平成23年度から進めている学修支援の試みを継続しながら、教員との連携課題を中心に、開館時間帯別サービス内容などの運用体制にメリハリをつけること

や、無人開館サービスや館内整理日の開放など、従来の固定観念にとらわれず自主的学修に直結した課題解決を進めていく必要がある。

## 8. おわりに

平成28年度には新図書館建設により、自主的学修を強力に支援できる空間(ラーニングコモンズ)も充実する予定である。しかし、この空間はあくまで物理的な環境でしかなく、これを有効に機能させるためのポイントとして、『教員が学生のラーニングコモンズの活用を適切に誘導する仕組みの構築』『サポートスタッフの充実』といった取り組みが特に重要である。大学図書館員としては、今後より一層アクティブラーニングをリードする姿勢が求められるであろうという観点から、実践に向けて準備しておく必要がある。特にキーポイントは「情報リテラシー教育支援」である。

さらに、平成28年度の新図書館の運用に向けてアクティブラーニングを促進するための「業務の専門性」や「企画・運営・立案能力」を備えた人材の育成が急務である。

また、ラーニングコモンズ設計を有効に進め、全学的な動きとするために、

- 1) 前項までに取り上げた大学教育の質的転換に本学がどのように取り組んでいるか(組織・実態)を把握する。
- 2) この組織の活動の中にラーニングコモンズの活用を組み込んでもらう。  
これと並行して図書館単独では、情報リテラシー教育支援を中心に業務の専門性を高める。
- 3) 積極的に協力していただける教員と連携・実践・ブラッシュアップする。

など、さまざまな角度からのアプローチを試み、新図書館機能を活用した大学の新しい学修スタイルへと展開していくことができれば理想的である。

〈参考文献〉

- ※1 科学技術・学術情報基盤作業部会（2010）「大学図書館の整備について(審議のまとめ) : 変革する大学にあって求められる大学図書館像」
  
- ※2 兵藤, 健志・天野, 絵里子・中園, 晴貴(2012)「図書館活用セミナーをリデザインする : インストラクショナル・デザインを意識した図書館ガイダンスの取り組み」『九州大学附属図書館研究開発室年報』2011/2012 p26.
  
- ※3 岩本俊孝（2013）「図書館の入館者数減への効果的対策（ラーニングコモンズの利用を促す）」『九州地区大学図書館協議会誌』第56号 p2.
  
- ※4 生涯学習政策局政策課（2012）「第2期教育基本復興計画について（本文）」 p46.

## 図書館紹介

### 【福岡教育大学学術情報センター図書館】

#### はじめに

福岡教育大学学術情報センター図書館は、昭和40年の本館竣工以来、増築や改修を重ねてきましたが、平成25年度に耐震補強を伴う大規模な改修を行い、平成26年10月1日より新図書館でのサービスを開始しました。

#### 改修の概要

学術情報（コンテンツ）と情報機器（システム）の統一的なサービス提供を可能とする環境整備として、平成24年度に「附属図書館」と「情報処理センター」の組織統合により発足した「学術情報センター」ですが、今回の改修工事で、ようやく「建物」も統合され、一つのカウンターで図書館サービスと情報システムサービスの受付が可能になったほか、旧情報処理センターにあったパソコン教室を図書館内に移設したことにより、図書館の開館時間と連動して夜間や休日に利用可能なパソコンが増え、資料を用いての学習スペースが広がりました。

改修の大きな柱の1つは、アクティブ・ラーニングを活性化する場の整備です。具体的には、1階に無線LAN環境のあるラーニング・コモンズを新設し、2階には、1室増設して3室のグループ学習室を用意しました。

教員養成大学の図書館としてのサービス機能の強化も図りました。改修工事と同時に行った書架整備事業により、開架室や貴重書室に電動式集密書架を導入し、およそ10万冊分の資料を格納することが可能になりました。

また、子ども図書室の拡張や研究個室・カウンタータイプの閲覧席を新設したほか、利用者から要望の多かった自動販売機を備えたカフェコーナーを設け、懸案事項であった館内のドリンクスペースを確保するなどして、明るく快適な空間になっています。



学術情報センター 正面入口

#### 施設概要

- ・面積：4,591 m<sup>2</sup>
- ・閲覧席：381席
- ・検索用パソコン：6台
- ・インターネット用パソコン：42台
- ・収容可能冊数：約56万冊

#### 利用案内

##### 開館時間

###### <授業期>

平日	8:30～21:30
土・日・祝日	10:30～17:00

###### <休業期>

平日	8:30～17:00
土・日・祝日	閉館

##### 休館日

休業期の土・日・祝日、年末年始、5月の連休、夏季一斉休業期間、蔵書点検期間など



中庭側入口

## 館内案内-【1階】

### ■サービスカウンター



ゲート入館後、すぐ左手にあります。カウンターは、開架室書架の側板と色調を合わせました。

### ■カフェコーナー



コーナーの入口に自動販売機を2台設置し、飲み物のみ OK のスペースです。

### ■新着コーナー



新着本の中から、おすすめ本を展示しています。全冊ポップを付け、貸出冊数を伸ばしています。

### ■ラーニング・コモンズ



50席あり、授業にも使われています。椅子の下は荷物置きになっており、椅子の背にはリュックが掛けられます。

### ■AVコーナー



大画面テレビが2台と個人用ブースが4台あり、DVDなどの視聴ができます。

### ■子ども図書室



中庭に面した明るいスペースになりました。幼児が転んでも痛くないよう、クッション性のある床張りになっています。



### ■貴重書庫



戦前・戦後の保存用教科書約4万5千冊のほか、漢籍や和装本を収容しています。

### ■パソコン教室



30人用パソコン教室。授業が行われていない時間帯は、自由に利用可能です。

## 館内案内-【2階】

### ■開架閲覧室（カウンター席&4人掛閲覧机）



カウンター席(24席)と4人掛閲覧机(8台)、キャレル(24台)の、3種類の閲覧机があります。

### ■開架室



開架室の新設書架には、上部2段に感震式落下防止装置を取り付けています。

### ■開架閲覧室（丸型閲覧机）



4人掛の丸型閲覧机(8台)。人数分のコンセントも用意しています。

### ■雑誌架



アクリル扉タイプになり、バックナンバーの有無が外から確認できるようになりました。

## 館内

### ■グループ学習室



1室増設し、3室になりました。10名用2室と14名用1室で、予約利用が可能です。

### ■電動集密書架



和雑誌・紀要・白書・年鑑・海外教科書等は、開架室内に導入した電動集密書架に配架しました。

### ■研究閲覧室



カウンター席（15席）と4人掛閲覧机（20席）があり、開架閲覧室よりも落ち着いた色調です。奥に、院生・教職員用研究個室を3室設けました。



## 図書館紹介

### 【鹿児島大学附属図書館水産学部分館】

#### はじめに

鹿児島大学附属図書館は郡元地区の中央図書館、桜ヶ丘地区の桜ヶ丘分館、下荒田地区の水産学部分館の3館から構成されています。うち水産学部分館は平成25年9月から、学習環境整備のための全面改修工事（10月1日開始）に伴い9か月間休館となっていました。平成26年3月に改修工事が完了し、集密書架設置工事（4月）、図書資料及び物品搬入作業（5月）等を終え、平成26年6月2日にリニューアルオープンを迎えることになりました。

#### 施設概要

新しくなった水産学部分館は2階建て、1カ月前に改修された水産学部5号館と1年前に新設された2号館との間に配置している建物です。図書館の外観は以前の重厚なデザインを生かした造りになっており、1階南側には、ウッドデッキが併設され2号館と5号館の橋渡しのスペースがあり、自販機とテーブルとベンチが置かれ、学生が勉強の合間に屋外でくつろげるようになっています。

館内1階には、連合大学院の遠隔授業対応機器が設置され授業やプレゼンテーションが実施可能なスクリーンを備えたセミナールームがあり、卒論発表会や講演会等でも利用されています。予約がないときは自習室として開放しています。また、少人数での学習に最適なグループ学習室を設けておりグループ学習や会議等に利用できると好評です。なお、窓側にカウンター席を設置し明るく開放的な学習ラウンジを設け1階はアクティブな学習空間となりました。

2階は、固定書架の他に、従来の収蔵数を上回る資料が収納できる集密書架を設置し、なかに釣り研究の第一人者松崎明治氏より寄贈された松崎文庫も収蔵しており静かな閲覧環境となりました。

また身障者対応のエレベーター設置により館内はバリアフリー化され、以前より大変機能的になりました。



図書館外観



1階閲覧スペース



セミナールーム



- ・面積：795.00 m<sup>2</sup>
- ・閲覧席：123 席
- ・パソコンコーナー10 台
- ・蔵書検索用パソコン2 台
- ・収容可能冊数 6 万 4 千冊

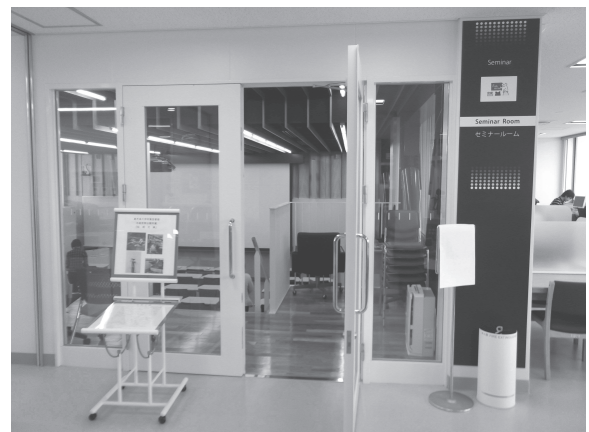
- ・開館時間
- 月～金曜日 8:30～20:00
- 土曜日 10:00～17:00
- [休館日]
- ・日曜日、国民の祝日
- ・年末年始・夏季一斉休業日



学習ラウンジ



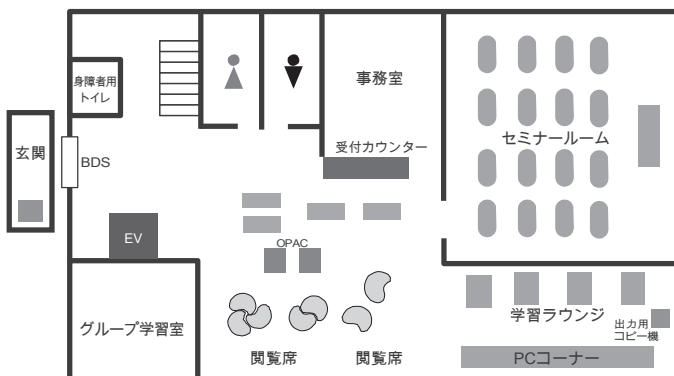
グループ学習室



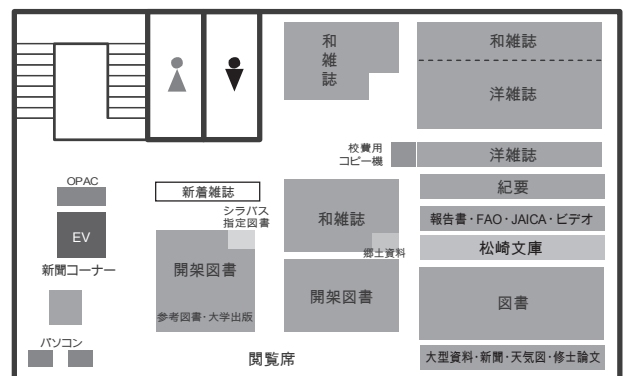
セミナールーム 「松崎文庫展」開催

## 館内図

### 1 階



### 2 階



## 図 書 館 紹 介

### 【福岡女子大学 学術情報センター（図書館）】

#### はじめに

公立大学法人福岡女子大学は、全国でも珍しい公立の女子大学です。国際教養学科、環境科学科、食・健康学科の3分野で構成され、初年次の1年間は留学生も含めた全寮制教育を実施し、国内にいながら海外留学のように、異文化に対する理解力、外国語コミュニケーション能力を身に付けられると同時に、良好な人間関係を築く力を養うことが可能です。そのため図書館にも、コミュニケーション能力をみがくための工夫がされています。

#### 施設概要

2014年4月に開館した新図書館は、新研究棟と連結し、屋上庭園や吹抜、テラスのある2階建です。新講義棟完成後は、図書館2階側廊下テラスと回廊がつながり、教室から屋外に出ることなく図書館に入ることができるようになります。

- ・面 積 : 2,839 m<sup>2</sup>
- ・閲覧座席数 : 272 席
- ・蔵 書 数 : 約 20 万冊
- ・パソコンコーナー台数 : 10 台
- ・蔵書検索専用パソコン台数 : 2 台
- その他、貸出用ノートパソコン有



図書館棟外観

#### 利用案内

- ・開館時間
  - 平日 9:00~20:00
  - 土曜 9:00~17:00
  - 3月、夏季休暇中 9:00~17:00
- ・休館日
  - 日曜、国民の祝日、夏季休館（約1週間）
  - 年末年始
  - その他図書館長が必要と認めた日

#### 館内案内



図書館棟・研究棟 正面入口

新研究棟の正面入口の左手に、図書館1Fカウンターと入館ゲートがあります。学外及び一般利用者の入退館はこちらで行います。



1F～中2F（2Fから撮影）



**1F 吹抜の円形書架**

主に館内の図書館蔵書を使用し、各種企画展示を行っています。現在は「英語で日本を知ろう！」を展示しており、次は世界遺産に指定された「和食」を企画中です。



**1F カウンター・閲覧コーナー**

この閲覧コーナーは主に学生の自習スペースとして利用されています。手前のソファ前の大画面では、BBCなどの外国語放送が流れ、視聴希望者はヘッドホンで音声も聞けます。



**AVブース**

館内にある視聴覚資料の鑑賞ができるコーナーです。外国映画やドラマのDVDもあり、語学学習の場として、リラックスの場としても利用されています。



**International Lounge**

奥には外国語学習用のリスニングブースなどが設置されています。また、ソファを置いたコミュニケーション用のスペースもあり、学生のグループ学習にも利用されています。



**参考図書コーナー ①**

調査研究に集中できるように、このコーナーは閲覧席に仕切りを設けています。他にも、予約制の研究個室が5つあります。



**参考図書コーナー ②**





### グループ学習室（予約制）

共同研究、ディスカッション等、多岐に使用されています。



### 2F カウンター・PC/コピーコーナー

貸出・返却、文献複写等の受付など、総合的なサービスはすべてこちらで行っています。カウンター前には、学生が使用できる PC スペースを設置しています。



### 第1書架 ①

館内は全て無線 LAN が通じ、各自の端末を用いた検索や文書作成も可能です。



### 第1書架 ②



### 集密書架

雑誌・紀要、旧蔵書等。本学では図書・雑誌の資料を、学生が書架で直接手に触れて探することができる開架方式をとっています。



### 閲覧スペース

館内各所に、照明とノートパソコン用電源つきのスペースが設けられています。

## 【大分大学】

### 1. 試行を経て飲み物 OK に

大分大学学術情報拠点（図書館）（以下、「且野原図書館」という。）では、平成 25 年 12 月 16 日（月）～平成 26 年 2 月 14 日（金）の試行を経て、平成 26 年度より正式運用を開始しました。OK なものは密閉できるふた付きのもので、NG なものは倒れたらこぼれる形状のものなどです。許可エリアは、図書館 1 階の下記のエリアです。

<許可エリア>

- ・ラーニング・コモンズ A・B  
(パソコンコーナーは不可)
- ・科目別学習支援ブース
- ・ブラウジングエリア
- ・談話エリア
- ・ロッカーエリア（コピー機周辺は不可）



### 2. 黒田官兵衛資料展

2014 年の大河ドラマ『軍師黒田官兵衛』にあわせて 6 月 2 日（月）～6 月 30 日（月）、且野原図書館 1 階談話エリアで、本学所蔵の「石垣原合戦絵図」や関連資料の展示を行いました。「石垣原合戦絵図」は 1600 年（慶長 5 年）、大友家再興を悲願とした大友吉統を中心に、吉弘統幸ら旧大友家臣で編成された大友勢と、黒田如水を総大将とする徳川勢とが別府市石垣原で展開した合戦の絵図で、当時を知る上で貴重な資料です。本展示終了後、「石垣原合戦絵図」は、大分県先哲史料館の企画展「近世大分の幕開けー大友が去った！官兵衛

が来た！そして小藩分立へー」や大分県立歴史博物館の特別展示「九州の戦国」に貸出しています。



### 3. 「S を目指すレポート講座」を実施

且野原図書館では、7 月に「S を目指すレポート講座」を実施しました。初めてレポートを書く 1 年生やレポートに自信のない 2 年生以上の本学学生が対象で、講師は、学術情報拠点長の宮町良広経済学部教授が行いました。

定員各 20 名で 2 回の開催予定でしたが、希望者が殺到したため定員を 30 名に、回数も 1 回増やして行った結果、参加者総数は 80 名となりました。

講座では、引用の仕方と出典の明記を中心に、「情報の種類と鮮度」や「参考資料（文献）リストを作ろう」などのテーマで講義が行われ、終了後のアンケートには、「参考文献を書くように言われることは多かったが、詳しい書き方は知らなかったのだから知る良い機会になった。」「すぐに実行できることがとてもよかった。」「内容を良く理解できた。」と受講した学生の満足度も高く、充実した講座になりました。

**S を目指す レポートの書き方** わずか 30 分  
和歌山大学経済学部学術情報センターでは、大分県立大学に合わせた講座を開催しています。

対象：初めてレポートを書く 1 年生  
 レポートに自信のない 2 年生以上  
※同じ内容を併催しています。

① **7.2** [水] 16:30 ~ 17:00  
希望者数に応じて、受付終了

② **7.3** [木] 17:20 ~ 17:50  
希望者数に応じて、受付終了

NEW ③ **7.7** [月] 12:20 ~ 12:50

講師：学術情報拠点長、経済学部 教授 宮町良広  
 会場：自 205 (電子学館・実習棟)  
 対象：且野原図書館 1 階ラーニング・コモンズ A

申し込み方法  
 ・カウンターに申し込みたい場合は申込書記入の上申請  
 ・mail@lib.u-oita.jp による応募  
 ・申込に「15 年製図レポートの書き方講座」希望  
 学習番号・氏名・メールアドレスを記入の上送信  
 申込み期限 6 月 27 日 (金) 17:00

大分大学学術情報拠点 (和歌山)





#### 4. オープンキャンパスへの参加

8月8日(金)にオープンキャンパスが行われ、且野原図書館では、ラーニング・コモンズ等を個別相談コーナーや学生による説明ブースとして提供するとともに、昨年に引き続き、図書館スタンプラリーを実施しました。クリアした237名の高校生に、今年は図書館オリジナルクリアファイルを配布しました。



#### 5. 学生選書ツアー&学生選書ツアー展示

8月11日(月)に各学部より希望者9名が参加し、市内の大型書店で選書ツアーを行いました。選書した本が届いた後、特におすすめの本を学生自身が選び、POPを作成しました。3Dのものや吹き出しの形にするなど工夫を凝らした色とりどりのPOPが完成しました。

選書した本とPOPを9月22日(月)~10月31日(金)、ブラウジングエリアに展示しました。81冊を展示したところ、58名、112冊の貸出があり、期間中に5回借りられる本が出るなど人気の高い展示企画となりました。



#### 6. ビブリオバトル(本選)を実施

11月3日(月)、大分大学開放イベント2014にあわせて且野原図書館ラーニング・コモンズAでビブリオバトルを実施しました。広く観覧者を募るため、ポスターのほか、10月22日(水)の予選でコマーシャルビデオを制作し、生協と図書館で繰り返し放映を行うなどの宣伝を行いました。

本選では、予選を勝ち抜いた精鋭6名のバトルラーが、一番気に入った場面、心に残った言葉など自らの経験を通して、思い思いに本の紹介を行い、観覧者からの質疑に答えました。

投票の結果、教育福祉科学部4年の赤瀬勇斗さんが推薦した「新世界より」(貴志祐介著)が、全31票のうち、10票を獲得し、「チャンプ本」の栄誉を勝ち取りました。

「観覧者の雰囲気を見ながら言葉を選んでいきました。そこが良かったのかなと思います。」と話す赤瀬さん。他のバトルラーからは、「他の人の本を聴くことがとても楽しく、人前で話すことはもともと苦手だったが、好きな本を紹介するのとても楽しかった。」の声もありました。

観覧者からは「楽しそうに発表している姿が非常に印象に残った。」「本の魅力を伝えるいい機会であると共に若者に本を読むことの大切さを伝えることのできる場であり、とても良い活動だと思う。」「学生の熱さを感じ、現代に合う図書館を改革されていることに共感した。」とあり、盛会のうちに終了しました。



**バトル募集!**  
参加資格: 本学学生で学費・本学納付済済である人  
応募先: お申し込みはこちら  
申し込み: [scit@oita-u.ac.jp](mailto:scit@oita-u.ac.jp) / 097-554-7486  
締切: 10/15(水)18:00(募集要項参照)  
抽選: 10/22(水)16:30~18:00  
抽選結果発表: 10/22(水)18:00  
※抽選結果はメールでお知らせいたします。

観覧者は iPad mini  
iPad mini  
観覧あり!!  
抽選あり!!  
抽選結果発表あり!!

会場: ラーニング・コモンズA  
@大分大学且野原図書館  
10:30~12:00

11/3(祝) 観覧自由  
抽選: 10/22(水) 16:30~18:00  
事前説明会: 10/15(水) 13:00~  
※要予約のみ

**知的書評合戦**  
**ビブリオバトル**  
in 且野原図書館

大分県立大学を代表して図書館へ参戦!!! 1人1冊でその魅力を語り、「この本が一番面白かったから」で観覧者が「チャンプ本」を決める、知的書評合戦です。  
http://www.oita-u.ac.jp/~scit/2014/10/22/

大分大学学務情報課 図書館

## 【鹿児島大学附属図書館】

### 1. 図書館自己点検・評価の実施

図書館の活動を点検・評価するため、平成 25 年 12 月、教職員、大学院学生、学部学生を対象に利用環境、施設設備、資料の整備等の図書館サービスに関する利用者の満足度、重要度、役立ち度、及び総合的満足度について、WEB によるアンケート調査を実施した。調査結果を分析評価し、改善案の検討を行い、平成 26 年 7 月に報告書としてまとめた。今後図書館サービスの改善、向上および活性化に結びつける予定である。

### 2. 男女共同参画企画「イクメン＝鹿児島大学モデル」

国・県の男女共同参画週間に合わせ鹿児島大学男女共同参画推進センターとの共催で、啓発企画を平成 26 年 6 月 20 日（金）から 7 月 31 日（木）まで中央図書館の 1 階アトリウムを会場にして開催した。企画内容は、男子学生・男性教職員を対象にしたポスターデザインコンペ「パートナーに作ってあげたい料理」と男性の子育て体験記を紹介する「イクメン本を読んでみる」である。またこのイベントには地域社会教育を専攻する学生が参加し、広報ポスターの立案・作成にあたった。

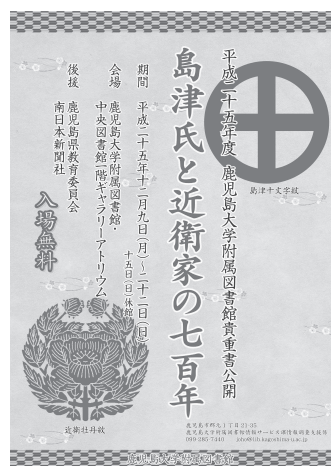


### 3. 平成 25 年度鹿児島大学附属図書館貴重書公開「島津氏と近衛家の七百年」

平成 25 年 12 月 9 日(月)～22 日(日)の期間で

附属図書館所蔵の島津家資料「玉里文庫」を中心にした古典籍展示会を中央図書館において開催した。この展示会は、学内の歴史文化系の教員と図書館が協力して毎年開催しているもので、今回は歴史的に結び付きの深い島津と近衛、両家の関係の中世から近世にかけて歴史資料を通じて概観することをテーマとした。なお、これまでの貴重書展の記録は以下のページで参照できる。

<http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp/collection/record.html>



### 4. 無線 LAN サービスの拡充

従来より学内者・学外者それぞれに向けた無線 LAN サービスの提供を行っていたが、2014 年 4 月より SoftBank 及び docomo の公衆無線 LAN サービスの提供を追加した。Wi-Fi スポットの設置により、スマートフォンによるデータ通信速度の改善はもちろん、データオフロードによる携帯電話（通話回線）の繋がりのやすさの向上、学内既存の無線 LAN トラフィックの分散と緩和、(特に学外者に対する) ネットワーク選択肢の増加、といった効果が期待できることから、学内の情報部門の取りまとめの下、図書館や食堂等学内の複数箇所に設置されたものである。無線 LAN 利用のニーズは大変高く、利用者の利便性を向上させるため今後もサービスの拡充を図っていく。

## 5. ギャラリー “アトリウム”

中央図書館は5階まで続く吹き抜け構造となっており、1階吹き抜け部分（約180 m<sup>2</sup>）を展示場としている。床は大理石のタイルで、縦への広がりあいまって、幻想的芸術空間となっている。大型の照明付きパネルも設置しており、学内で制作された芸術作品や学際的作品を展示している。

平成26年度ギャラリーアトリウムイベント

- 写真展（写真部）  
4.7(月)～4.25(金)
- 美術科新4年生3名によるグループ展  
5.9(金)～5.16(金)
- 書道部新歓展示  
5.19(月)～5.31(土)
- 華展（華道部草月流）  
6.2(月)～6.5(木)
- 第12回想刻展  
7.22(火)～8.4(月)
- 総合研究博物館第14回特別展  
8.25(月)～8.30(土)
- 授業作品を一般公開（教育学部美術）  
10.20(月)～10.31(金)
- アンネ・フランク展「希望の未来」  
11.13(木)～11.21(金)
- 教育学部美術専修有志による絵画展  
12.1(月)～12.12(金)

## 6. 松崎文庫展

鹿児島大学附属図書館水産学部分館では、釣りに関する著述や研究の第一人者だった松崎明治氏の釣りに関する蔵書約300冊と雑誌類を『松崎文庫』として所蔵している。このたび全面改修の竣工に合わせて、平成26年7月14日～18日の間、松崎氏の貴重な著書や関連書籍や雑誌、関連資料、解説パネルなどを水産学部分館1階のグループ学習室に展示し、松崎文庫展を開催した。郷土の偉人として松崎氏の業績を理解してもらおうと共に、学内の学生や教職員だけでなく、釣り文化に関心がある一般市民にも『松崎文庫』に関する情報を広く提供することが出来た。

なお、展示会の最終日には、松崎明治氏の研究者である不破茂水産学部教授（附属図書館水産学部分館長）による「郷土鹿児島が生んだ昭和の釣りの碩学松崎明治を語る」をテーマとした講演会が1階セミナールームで開催された。その講演の中で松崎明治氏は旧知覧町松ヶ浦の廻船問屋（やまや）の三代目として明治31年に生まれ、昭和2年東京朝日新聞社に入社し、昭和4年から17年まで釣り担当記者として活躍し、その間に昭和13年“釣百科”、昭和14年“写真解説・日本の釣り”、昭和15年“ANGLING IN JAPAN”、昭和17年わが国最初の釣りの百科事典とも言うべき“釣技百科”を出版したことなどが紹介された。釣りのエンサイクロペディストとしての松崎明治氏は昭和の釣り文化を語るうえで不可欠の人物であり、執筆された「釣技百科」は、その後の釣り百科や入門技術書に大きな影響を与えたものであることが語られ、釣りに関心がある学生、教職員、一般の方々が、熱心に耳を傾けていた。講演後は、餌木（アオリイカ擬餌針）のコレクションが紹介され、参加者は興味深く鑑賞し、不破教授が質問に答える場面もあり、講演会は和気あいあいとした雰囲気の中で終了した。



松崎文庫展の展示資料





展示資料を鑑賞する参加者



講演会後の餌木鑑賞



セミナールームにて講演会の様子

## 7. 中央図書館トイレ改修工事など

平成 25 年度は水産学部分館のリニューアルのほかに、教育研究環境改善事業として、中央図書館の南側トイレ 1 階から 5 階の改修・4 階西側の照明の LED 化、桜ヶ丘分館のエレベーター設置・外壁玄関の改修等の工事が行われた。

数ヶ月間にわたり利用者の皆様にはご不便をかけたが無事終了し、学習環境を整備改善することができた。

## 【鹿屋体育大学附属図書館】

### 1. 図書館開館時間延長

平成 25 年試行延長の利用状況結果を踏まえ、平成 26 年度は前期・後期試験期間に、土日祝日も含め 9 時～22 時開館を実施した。

### 2. 企画展示

4 月には新入生向けに大学での勉強法、レポートの書き方などを紹介した「大学生におすすめの本」、10 月から、スポーツを題材にした小説類の紹介コーナーを企画設置した。



### 3. 多読書コーナー

昨年企画展示した英文多読書につき、専用書架を設置し、集中配架するようにした。語彙レベルをそれぞれの本に表示し、学習者が読む本を選ぶ際の便宜を図った。



↑ 語彙レベルシール

#### 4. Library Lovers' キャンペーン

Library Lovers' キャンペーン「衝撃のワンフリーズ」に参加した。



#### (2) グリーンカーテン

図書館入口脇に“ふうせんかずら”と“朝顔”のグリーンカーテンを設置した。



#### 5. 館内の環境整備

##### (1) 寄贈絵画展示

二科会役員で鹿児島県剣道連盟顧問でもある画家の有水基雄氏より、絵画「競う 2013」を寄贈いただき、図書館に展示することになった。

#### 【九州大学附属図書館】

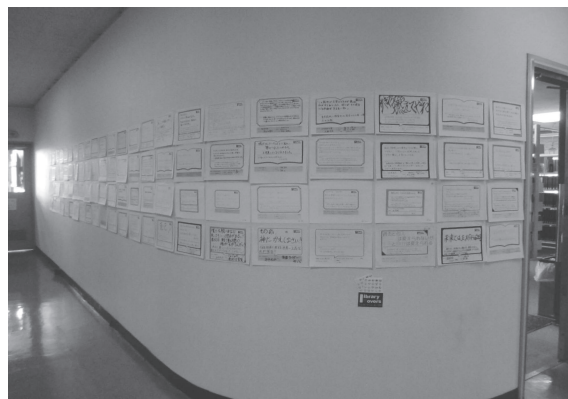
##### Library Lovers' キャンペーン 2014 開催

九州大学では、今年度、①ノンユーザーに図書館との何らかの接点を見つけてもらうこと、②異分野への興味関心を拡げてもらうこと、をねらいとして、参加館合同企画「衝撃のワンフリーズ」のほか、以下の本学独自企画を実施した。

- Talking Night
  - 様々な分野の教員に「今の道に進んだきっかけ」「自分を変えた◎※」をテーマに語ってもらう企画
  - 中央図書館で全4回開催。文化人類学、生態学、中国哲学史、昆虫学の研究者に登壇いただいた
- 音楽の夕べ：SPレコード鑑賞会（九州大学総合研究博物館・大学文書館と共催）
  - 手回しの蓄音機でクラシック、昭和歌謡等のSPレコードを鑑賞
  - 中央図書館・伊都図書館・医学図書館・芸術工学図書館で開催
- 全国大学ビブリオバトル京都決戦 2014 九州大学予選会

- 箱崎・伊都キャンパスで実施
- 5名の学生を九州北部ブロック地区決戦に送り込んだ
- キャンペーン特製しおり配布
  - しおりのデザインを学生から募集
  - 13作品をしおりとして配布
- 本のリユース

今年初めての企画であった「Talking Night」、実施館を拡大した「音楽の夕べ」は、再度の実施を希望する声が多く寄せられるなど、特に好評であった。



館内を埋め尽くした「衝撃のワンフリーズ」





「Talking Night」 普段の授業では聴けない話に学生たちは興味津々



「音楽の夕べ」鑑賞会后、蓄音機に群がる学生たちのため追加上演も

### 教育の質向上支援プログラム(EEP)「大学図書館による自律的学修支援体制の構築」

教育の質向上支援プログラム(EEP)として平成25年度に採択されたプロジェクト「大学図書館による自律的学修支援体制の構築」が2年目を迎えた。本プロジェクトでは、本学の目指す姿の一つである「アクティブラーナーを育成する大学」の実現に貢献するため、付設教材開発センターおよび統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻とともに様々な取り組みを進めている。なかでも、図書館学習サポーター(Cuter)による学習支援活動については、学習相談デスクでの対応だけでなく、初年次学生向け講習会「レポートの書き方講

座」でCuterが講師を務めるなど、着実に実績を積み重ねている。また、平成25年度に図書館活用を目的としたモバイル教材を開発したが、今年度はこの教材についてモニターを募集し、アンケートやログ分析等による評価を実施する予定である。

### 新中央図書館(国際化拠点図書館)の安全祈願祭挙行

8月28日、伊都キャンパスの建設予定地において、新中央図書館工事安全祈願祭が挙行された。9月末で任期を終えられた有川前総長をはじめとする九大関係者のほか、設計業者、工事請負業者が全と無事の完了を祈願した。この夏は例年になく雨続きで、この日も直前まで雨模様であったが、開始前には雨もあがり祈願祭は無事終了した。いよいよこれから建設工事がスタートする。



有川前総長によるかりぞめのぎ 蒞初之儀



神主さんによる建設予定地のお祓い

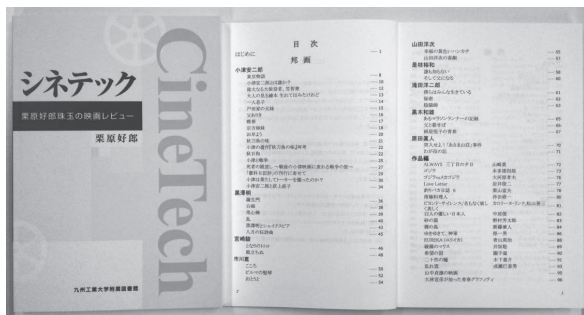
## 【九州工業大学】

映画レビュー『シネテック』の発行と刊行記念上映会の実施

情報工学部分館では、今秋、栗原好郎著『シネテック：栗原好郎珠玉の映画レビュー』を発行した。

同書はA5判、225ページ。映像作品を国、監督別に分類し映画論を交えて掲載している。邦画は小津安二郎、黒澤明など26監督48作品、洋画は13カ国76作品と圧巻であり、学生にぜひ観てもらいたい「時代を超えた名作」を精選している。

著者は一昨年まで情報工学部で映像文化論を担当した非常勤講師。図書館ホームページで映像作品を紹介するCineTech（シネテック）というコーナーに、2006年7月から今年4月まで8年間、150回のコラムとして掲載したものを底本としている。



この刊行を記念して10月29日映画上映会を開催し、レビュー作品のひとつ『父と暮せば』（2004年、井上ひさし原作・黒木和雄監督）を上映した。

事前に上映会の案内が新聞に掲載されたことも

## 【熊本大学附属図書館】

「学生選書員」による選書を実施

熊本大学附属図書館中央館では、平成19年度より学生のニーズに即した蔵書構成を確立し、図書館利用の促進を図るため、学生が図書を選定を行

あって、当日は多くの市民が参加し「とても感動した、観てよかった」などの感想が寄せられた。

会場では、来場者に新刊『シネテック』を進呈したほか、『シネテック』に掲載された監督の「図書館所蔵作品リスト」や「映画作品解説」も同時に配布した。

また一般の方に向けて図書館利用を勧める「利用案内」を配布したが、来場者の一人は、「市民がDVDの視聴や図書の貸出など大学図書館を利用できることをはじめて知りました」と感慨を述べていた。

今回の反響から、今後は住民の利用が増えることが予想される。地域に根ざした情報センターとして「生涯学習社会に機能する大学図書館」となるようさらなる努力を続けたい。



う「学生選書員」の募集を行っている。今年度は23名の応募があり、バラエティ豊かな295冊の図書が選書された。選書された図書は選書員自らおすすめPOPを作成し、図書と共に中央館ロビーに

展示された。展示直後から展示POPを眺めたり図書を借りて行く利用者の姿が見られ、好評を博している。



### 附属図書館リニューアル1周年記念イベント 「Book! Talk! Kumadai!」を開催

熊本大学の学園祭期間中である11月3日に中央館ラーニングコモンズアクティブエリアを会場として附属図書館リニューアル1周年記念イベント「Book! Talk! Kumadai!」を開催した。本イベントは、九州地区の大学図書館による合同イベントLibrary Lovers' キャンペーンの独自企画も兼ねており、読書推進や利用者との交流を目的に2部構成で開催され、話者を含め学生、教職員、一般参加者が合わせて32名参加した。第1部では話者の学生や教職員が図書を紹介するブックトークが行われた。各話者より心に残った本のワンフレーズ「衝撃のひと言」をテーマとしてバラエティ豊かな図書が紹介され、読書を推進する目的にふさわしい内容となった。第2部は改修後の図書館について自由に意見を交わす意見交換会が行われた。各話者から図書館に対する新しい提案などが出され、盛んに意見が交換された。また、ラーニングコモンズをテーマに卒業研究に取り組む学生が調査結果を披露する場面もあった。今回の企画を足掛かりに、今後も附属図書館では引き続き利用者同士が交流するイベントを開催していく予定である。



### 第7回「東光原文学賞」を実施

平成20年度に創設した「東光原文学賞」は今年度で7回目の募集となった。本賞は、大学生の読書への関心を高めることと、創作という能動的な知的活動の機会を提供することが目的である。本学の学生を対象に、10月末までに短編小説の募集を行い、26年度は12編の応募があった。受賞作品は、学内外の審査員による選考、委員会の審議を経て決定される。発表は27年1月を予定している。

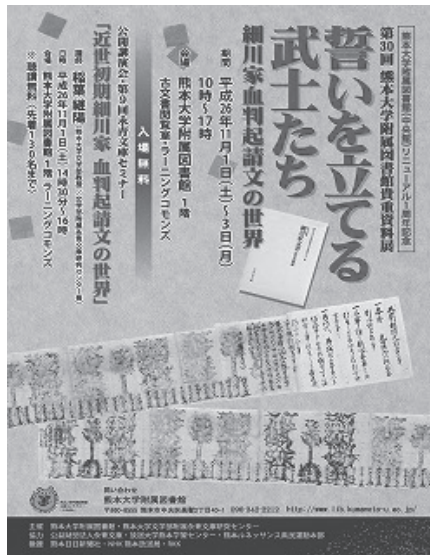
### 第30回「貴重資料展」及び「公開講演会/第9回永青文庫セミナー」を開催

貴重資料展は、今年で30回の節目を迎える。中央館リニューアル1周年でもある記念すべき今回は、11月1日(土)～3日(月)にかけて、永青文庫研究センター長 稲葉教授の監修による「誓いを立てる武士たち—細川家血判起請文の世界—」を開催した。公益財団法人永青文庫からの寄託資料から、全国的に珍しい貴重な資料を多数展示した。

1日(土)には、稲葉教授による公開講演会/第9回永青文庫セミナー「近世初期細川家 血判起請文の世界」を開催した。同日、熊本大学では卒業生のホームカミングデーも開催されており、久しぶりに母校を訪れた卒業生たちも貴重な資料に見入っていた。

貴重資料展は3日間を通して盛況であり、一般市民を含む400名近くが訪れた。





## 【佐賀大学附属図書館】

### ラーニング・コモンズにリニューアル

平成26年3月、本館は自習室を、医学分館は多目的学習室をラーニング・コモンズに一部リニューアルした。このスペースでは会話や話し合いも可能とし、可動式の机と椅子、ホワイトボード等を整備したことにより、ディスカッションや学習発表、グループワーク形式の授業も行うことができるようになった。26年度は全学教育機構等の教員との意見交換や学生ヒアリングを実施し、その結果を受けて、AV資料視聴室をグループワーク向けルームへ模様替えを行った。また、利用者用端末の再配置も行う予定である。



ラーニング・コモンズでの学習の様子

### 除籍図書の無償譲渡

重複や保存の必要が無いとの理由により除籍し

た図書の再利用を目的として無償譲渡を行っている。平成25年度は本館約3千6百冊、平成26年度上半期は本館約8百冊、医学分館約1千2百冊の除籍図書をエントランスホールに並べて、その中から本学の学生・教職員、一般利用者の方に先着順で譲渡を行った。



### 学生選書委員会活動

読書奨励企画として、今年も学生選書委員（愛称：さらりーず）を公募した。複数年連続参加の学生もいて毎年人気の企画であり、今年は過去最多の29名となった。

学生が楽しみにしているメインの活動は選書ツアーであり、今年は1回目：福岡の丸善、2回目：佐賀の紀伊國屋書店、3回目：福岡のジュンク堂

書店で実施した。初めて参加した学生は、とまどいながらも選書時間として設けた3時間のうちに徐々に慣れ、また経験者は慣れた手つきで図書館に置きたい本を選書した。

他にも、選書ツアーだけでなく、学生同士集まって情報交換できるランチミーティングの場を設けた。そこで提案されたアイデアを元に、ビブリオバトルや古本市に参加したりなど、選書以外の活動の幅を広げつつある。



### ビブリオバトル

全国大学ビブリオバトル2014 京都決戦に向けて、佐賀大学予選会を開催した。昨年好評だったため今年の開催も決定し、バトラー6人が自分たちのお気に入りの本についてプレゼンテーションをした。紹介された本はバトラーそれぞれの思い入れのあるものであり、それらを自分の語りだけで勝負した。

観客席も満席で、90分間の熱いバトルが終了し、臨場感のある魅力的なイベントとなった。



### Library Lovers' キャンペーン

今年も Library Lovers' キャンペーン2014「衝撃のワンフレーズ」に参加し、佐賀大学に所蔵がある本を中心にコメントを集めた。



イベントポスターカラーに合わせ、黒と白を基調にしてディスプレイを作成し、カウンター前の目立つ場所に設置、投稿されたコメントを展示した。

### ・イベント

#### (1) 図書館月間講演会

当館では、11月を「図書館月間」として、市民・学生・教職員を対象とした講演会などを開催している。今年は「有田磁器の創始と発展—400年の歴史をたどる—」をテーマに講演会を開催した。

日時：11月12日（水）14：00～16：00

講師：大橋 康二氏

（元佐賀県立九州陶磁文化館館長）

#### (2) 図書館月間資料展示

11月5日（水）から19日（水）まで、有田焼関連の図書

#### (3) 図書館月間ワークショップ

「国際デザイン思考ワークショップ—有田のこれからを探る—」をテーマにワークショップを開催した。

日時：11月16日（日）9：00～16：30

ファシリテーター：Karl Burrow氏

（Karlstone Capital 代表取締役）

## 【長崎大学】

### 医学分館リニューアルオープン関連

#### (1) 記念式典

附属図書館医学分館の増改築工事が竣工し、開館に向けての準備が整ったことから、5月28日、リニューアルオープン記念式典を挙行了した。

記念式典では片峰茂学長の式辞に続き、増崎英明附属図書館医学分館長（当時、現病院長）の挨拶があった後、松山俊文医学部教授から平成25年11月に長崎大学に来学された J. D. ワトソン博士のサイン入り Nature 論文別刷の贈呈が行われた。そして片峰茂学長、森望附属図書館長、増崎医学分館長、小路武彦医歯薬学総合研究科長及び学生代表である山本あゆみさん、山脇健司さんによるテープカットが行われた。その後、森附属図書館長の謝辞があり、式典は終了し、館内見学が行われた。



#### (2) 記念講演会

6月21日医学部良順会館にて、ベルリン在住の歴史随筆家である六草いちか氏を講師として「鷗外のベルリン『舞姫』の BERLIN」と題する講演会を開催した。

講演会では増崎医学分館長が座長を務め、六草氏が、著書「舞姫エリスの真実」に書かれている舞姫のモデルとされるエリーゼ・ヴィーゲルトの存在をベルリンで明らかにしていった過程を、豊富な写真や図版を用いて詳しく講演された。

### NU-LibGuides（授業資料ガイド）の公開

授業科目に対応した図書及び関連情報の利用促進を図る NU-LibGuides を12月から公開している。スタート時では、本学の教養科目である全学モジュール科目の授業資料ガイドを約200コンテンツ作成・公開している。今年度内には、1年次後

期の科目を200コンテンツ追加する予定である。

授業資料ガイドでは、シラバス記載の教科書及び参考書の OPAC へのリンク、授業のキーワード等による授業関連情報の検索などの機能を実現しており、学習支援の向上が期待できる。

### ベストリーダー賞の設定

昨年度1年間で図書館の図書を多く利用し、学力と教養の向上に努めたと認められる学生を表彰するためにベストリーダー賞を設けた。表彰対象者は学内全体の上位2名（最上位者の貸出冊数は168冊）、各学部上位の9名（医学部は医学科と保健学科の2名）の計11名であった。表彰対象者には、記念品と図書カードを贈呈した。

### 日蘭文庫の開設

平成24年度に旧日蘭学会から寄贈を受けた日蘭交流関係資料を整備し、中央図書館2階貴重資料室内に「日蘭文庫」を開設した。

「日蘭文庫」開設を記念して、5月22日、中央図書館多目的ルームにて「日蘭文庫」開設披露会を開催した。当日は、旧日蘭学会関係者、長崎日蘭協会関係者、学内関係者を招いての開設記念式典、ならびに開設記念シンポジウムを行った。このシンポジウムでは、松本俊旧日蘭学会常務理事（元在オランダ大使館公使）、木村直樹多文化社会学部准教授、森望附属図書館長の講演があり、会食をかねた懇談会では、出席者間で今後の日蘭文庫の活用、充実等について活発な意見交換が行われた。

なお、日蘭文庫は日本語、英語、オランダ語の約7,000点の図書、オランダ商館関係文書のマイクロフィルム、フリース（元オランダ大使）コレクション等で構成されている。

### 古写真展の開催

#### (1) 「集大成：長崎古写真の世界」展

期 間：4月2日～6日

会 場：長崎浜屋百貨店

来場者：6,545名



- (2) 「1874 年、激動の長崎—県庁倒壊と科学の黒船」展

期 間：8 月 27 日～9 月 15 日

会 場：長崎市立図書館

来場者：4,183 名

本古写真展には、本学の古写真だけでなく、フランス国立ギメ東洋美術館及び日本大学芸術学部収蔵古写真の展示も行った。

### ギャラリー展示

- (1) 海物(umimono)の山口恭弘と RING ART 展(1 月)



- (2) 唐船宿町筆者掛 玉木鶴亭の唐館図～玉木学園所蔵品展 No. 2～ (2 月)  
(3) 「女医楠本イネ～長崎からの旅路～」展(4 月)  
(4) 写真部「新入生歓迎」展 (4 月～5 月)  
(5) 第 1 回長崎大学フォトコンテスト入選写真展 (6 月)  
(6) 利根川進展 (9 月)  
(7) 「長崎から世界遺産を！」関連展示 (11 月)

### 図書館サポーターの活動

- (1) 図書館サポーターの勧誘活動 (4 月～5 月)  
1 年生 11 名が加わった(全員で 21 名)。  
(2) 医学分館リニューアルオープン記念式典参加 (5 月)  
(3) 同記念講演会補助 (6 月)  
(4) 第 4 回大学図書館学生協働交流シンポジウム参加 (於：山口大学、8 月)  
(5) 「利根川進」展パネル作成 (8 月)  
(6) 選書ツアー実施 (9 月)  
(7) 図書館サポーター活動 PR のための三角柱の設置 (10 月)

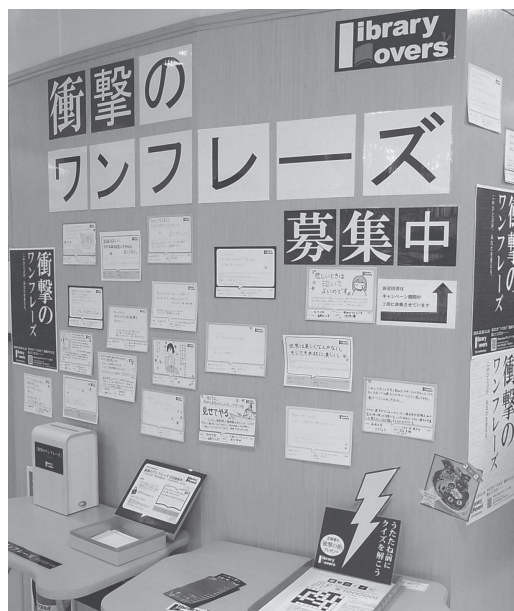
- (9) 文学賞紹介コーナーの設置 (10 月)

- (8) ビブリオバトル参加 (11 月)

なお、4 月 10 日に前年度活動した図書館サポーターに対し、感謝の意を込めて記念品と図書カードを贈呈した。

### Library Lovers' キャンペーンの活動

本年も、Library Lovers' キャンペーン 2014 (10 月 20 日～11 月 16 日) に参加した。合同企画である「衝撃のワンフレーズ — このひと言が、あなたを変える」では、まず 41 件の事前投稿が集まり、期間中の増加分及び他大学の投稿と合わせ、館内の壁面に掲示した。



独自企画としては、次のことを行った。

- (1) 知的書評合戦ビブリオバトル  
(2) 衝撃のクイズ  
(3) 学生選書ツアー  
(4) 読書週間特別リクエスト

(1) のビブリオバトルの取組は今回が初めてであり、発表者は学生及び職員の 4 名で観覧者は約 20 名だった。



## 経済学部分館の学習環境の改善

### (1) 個人学習環境の整備 (2月)

1階及び2階にハイテーブルを設置した。

### (2) 英語多読 (コーナー) の設置 (2月)

経済学部分館1階閲覧席エリアに設置し、英語のインプット量を大幅に増やす「多読」学習に取り組むための図書やCDを設置した。

## 【福岡教育大学学術情報センター図書館】

### 1. 仮設図書館でのサービス

平成25年9月からの耐震改修工事にともない、学内の学術情報センター情報システム館を部分改修し、平成26年8月まで仮設図書館としてサービスを提供した。

集密書架を中心に、教科書・指導書・改修前図書館の開架図書・雑誌など約5万冊、別棟の閉架式書庫に図書約5万冊の計10万冊を配架し、検索用パソコン2台とコピー機みの設備で、授業期平日の開館時間を9:00~20:00までに短縮して業務を行った。

### 2. リニューアルオープン記念式典

今年10月1日、学内外の関係者約50名の出席のもと、リニューアルオープン記念式典を挙げた。式典では、寺尾慎一学長の式辞に続き、来賓を代表して文部科学省の長澤公洋学術基盤整備室長の祝辞、来賓紹介、祝電披露、大坪靖直学術情報センター長の謝辞と続き、テープカットが行われた。



## 中央図書館の9月の開館時間延長

今年度、中央図書館では教育実習中の学生の勉学を支援するため、9月の平日の開館時間を17時から20時に変更した。昨年度同時期に比べ、約3,000名の利用増加があった。

テープカット後、音楽教育講座の木村教授と音楽科の院生・学生による弦楽四重奏の祝典演奏のなか、新装開館を心待ちにしていた利用者が次々と入館した。お祝いに駆けつけてくれた附属幼稚園の園児達も入館し、新しくなった子ども図書室で、絵本を手に歓声をあげていた。



### 3. 国立教育系大学図書館協議会総会の開催

10月16日・17日の2日間にわたり、平成26年度(第47回)国立教育系大学図書館協議会総会を幹事館として開催した。初日は、研究部会の報告と5件の協議事項について活発な情報交換を行った。

2日目は、6件の承合事項についての説明や質疑応答を行った後、リニューアルオープンした図書館を見学し、ラーニング・コモンズの運用や図書館サービスの提供のあり方等について適宜意見交換を行い、閉会した。

#### 4. Library Lovers' キャンペーン

昨年は、改修工事のため参加を見送った Library Lovers' キャンペーンに今年は参加した。九州地区の国公立大学及び高等専門学校図書館による合同企画「衝撃のワンフレーズ」には、投稿1件毎に引けるハズレなしのくじが功を奏したのか、139件もの投稿があり、階段脇の壁を埋め尽くすように掲示した「ワンフレーズ」が、図書館を賑わせた。



同時に行った本のリユースやしおりの配布も人気で、投稿を5件するともらえるマグネットブックマーカーも人気グッズだった。



#### 5. 「教育大に行ってみよう！」協賛

10月26日、大学主催イベントの“教育大に行ってみよう！”に参加し、「小さな仕掛け絵本とポストカードを作ろう！」という企画を実施した。

これは、子ども図書室で絵本の読み聞かせや手遊び、画用紙や色紙を使って自分だけの小さな仕掛け絵本やポストカードを作るというプログラム

で、お話の世界と自分の表現の世界をゆったりと楽しむというものである。

未就学児から保護者まで、約300名の来館者が、仕掛け絵本を作ったり、大型絵本による読み聞かせに耳を傾けたり、各自思い思いに楽しみ、多くの参加者から「とても楽しかった」という感想が寄せられた。

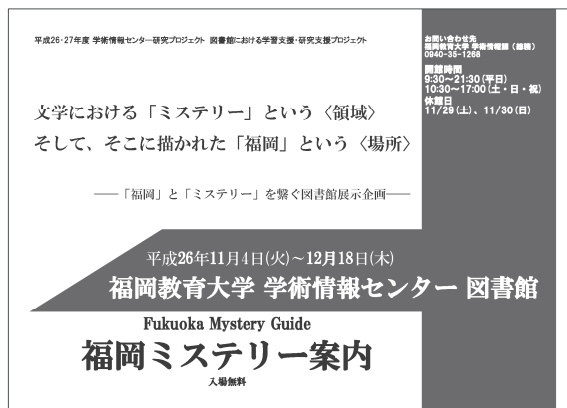


#### 6. 図書館における学習支援・研究支援プロジェクト

平成26・27年度学術情報センター研究プロジェクトの1つである「図書館における学習支援・研究支援プロジェクト」の一環で、国語教育を専攻する院生の研究発表の場として「福岡ミステリー案内」という企画展示を11月4日から12月18日まで行っている。

これは、大学院教育学専攻科教育科学専攻国語教育コースの院生による企画で、「福岡に関係し、広義の『ミステリー』を書いた作家とその作品を紹介することによって、福岡という場所を伝える文学の再発掘をするとともに、現代の視点から『ミステリー』再評価の契機をつくりだしたい」という趣旨である。選定した図書や説明パネル、案内版やポスターなどを図書館エントランスや1階ブラウジングコーナー近くに展示している。多くの利用者が足を止めて手に取るなどし、このコーナーの図書は貸出も増えている。





## 【福岡県立大学 附属図書館】

### ラーニング・コモنزの開設について —アクティブ・ラーニングの活動拠点—

ラーニング・コモنزが完成しました。

4月7日、小川洋福岡県知事を始め、入学式の来賓の皆様のご参加をいただき、落成式を執り行いました。



大学教育が大きく変わろうとしている今日、ラーニングをアクティブにおこなうことが求められています。その拠点として、ラーニング・コモنزが注目され、施設を設置する大学も増加してきています。文部科学省の用語解説には、複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供するとあります。

ここにありますように、「場」を提供する機関として図書館が位置づけられ、学生の自学自習を支援する職員としても図書館職員が想定されています。しかし、議論を進めていく学習スタイルですので、今までの読書を中心とした静かな図書館とは、相いれないものでもあります。よって、同じ図書館のなかで、活発な議論をおこなってもらう場所と、静寂な空間を確保する必要から、防音をおこなう必要が生じてきます。今回、看護学部分館にラーニング・コモنزのスペースを設置するに当たっては、壁を設置するのではなく、(写真のように)防音ガラスで対応しました。これは照明ばかりでなく、アクティブな活動をおこなっている様子を、できるだけオープンな形で示すためでもあります。さらに、部屋は半間仕切りにし、最大3グループで使えるようにしましたが、机や椅子も移動できるようにし、グループの数や人数の変動に対応しやすいものとなっています。

4月に利用を開始しましたが、7月までの利用者の合計は以下のようになっています。

月	4月	5月	6月	7月
利用者合計(人)	156	390	274	426

大学の講義における内容で、演習・実習等の行使から変動はあるものの、順調に利用者が増加しているものといえましょう。また学生数1000人程度の大学において、合計とはいえ4ヶ月で、学生

総数を超える利用があったということは、アクティブなラーニングをおこなう場としてのこの施設が、いかに大きな意味をもっているかをも、この数字が如実に物語っているものと思われま

す。図書の利用も同時におこなえる、アクティブラーニングの活動拠点として好評です。



## 【宮崎大学附属図書館】

### 1. 図書館長と学生との懇談会

8月8日、附属図書館長と学生との懇談会を実施した。学生・大学院生9名が参加し、利用についての要望や意見、設備に対する提案など活発な懇談会となった。



23日は地元テレビの取材が入り、緊張の中にも熱心なバトルが繰り広げられた。

両日ともに昨年よりレベルアップしたバトルが展開され、接戦の中、地区決戦の出場者2名が決定した。



### 2. リザーブブック制度

教員が指定した授業やレポート課題関連図書を専用棚に一定期間展示し、館内限定で利用に供する制度を拡充し、課題発見科目については、1タイトル複数冊の配架を可能とし、グループワークなどのアクティブラーニング学修支援を図った。

### ビブリオバトル京都決戦2014予選会

#### ・地区決戦

11月22日に九州Cブロック地区の地区決戦を開催し、京都決戦へ参加するチャンプ本の紹介者を決定した。

### 3. ビブリオバトル

#### ・全国大学ビブリオバトル2014予選会

10月16日、23日に全国大学ビブリオバトルの予選会を開催した。16日は県内他大学の参加もあり、バトルの熱い思いに会場は盛り上がった。

### 4. 学生選書ツアー

10月25日、市内の大型書店において学生選書ツアーを実施した。学生14名の参加があり、専門分野や興味のある本を選び、143冊を購入した。学生からは、図書館に置いてほしい本を選ぶことができ、有意義だったとの意見があった。



## 5. Library Lovers' キャンペーン

九九州地区の国公立大学等図書館による合同企画「衝撃のワンフレーズ このひと言が、あなたを変える。」に参加した。コメントを寄せた学生には、「キャンペーンオリジナルエコバック」と「図書館オリジナルクリアファイル」または「大学オリジナルクリアファイル」をプレゼントした。

また、オリジナル企画として、好評の「しおり工房」も実施した。



## 6. 大学開放事業

「平成 26 年度 みやだい WakuWaku 体験 Day」11 月 15 日～16 日に大学開放事業が実施され、図書館の開放とともに、廃棄図書のリサイクル市を実施した。訪れた一般市民・学生・教職員へ図書を無償配布した。



本館 リサイクル市

また、本館では「ビブリオバトル紹介本」及び「芥川賞・直木賞・本屋大賞受賞作」の展示、医学分館では、「宮崎の地域医療」についての企画展示を実施した。



医学分館企画展示

## 7. 本館の改修

宮崎大学創立 330 記念交流会館と図書館を結ぶ通路に図書館の北側出入口が設置された。交流会館からすぐに図書館へ通じるため、利用者増が期待される。



また、平成 26 年度中に閲覧室を改修し、ラーニングコモンズエリアを拡大、アクティブラーニング支援の設備を整える。



## 【琉球大学附属図書館】

### ■ハワイ大学所蔵「阪巻・宝玲文庫」をデジタル公開

琉球大学附属図書館では、平成 25 年度から、ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館との連携事業により、同館所蔵「阪巻・宝玲文庫（The Sakamaki/Hawley Collection）」のデジタル化事業を進めております。平成 26 年 9 月には、第 1 弾として、琉球・沖縄に関する古典籍・古文書その他著作権保護期間の満了した資料 110 件を、本学が提供する「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ（URL：<http://manwe.lib.u-ryukyu.ac.jp/d-archive>）」にて公開しました。今年度中には、さらに 110 件の追加公開を予定しています。

現在は、画像・タイトル・タイトルの英訳・解題・解題の英訳を掲載していますが、今後は、一部の資料については翻刻文を掲載する予定です。

### ■企画展

平成 20 年 5 月より「企画展コーナー」を設置し、約 2 か月毎にテーマを変えて、利用者みなさまへオススメする本等を紹介しています。

今年度から、本学教員のデザインによるスタイリッシュな展示棚を設置した本館 1 階ロビーでの展示を行っており、利用者からも好評を博しています。

### 【平成 26 年度実施企画展】

○4～5 月「新入生応援☆琉大ライフを満喫しよう！」

○6～7 月「環境展 ～今の自分にできること～」

○8～10 月「めざせ！びぶりお文学賞」

○11 月～1 月「ブックハンティングに行ってきました」



### ■EU 資料展

琉球大学附属図書館は琉球大学 EU 資料センターとして、例年 5 月から 6 月の間に、駐日欧州委員会代表部が主催する日本と欧州連合（EU）の友好週間イベント「日・EU フレンドシップウィーク」の一環として、EU に関する理解を深めることを目的に「EU 資料展」を開催しています。

今年は 6 月 2 日（月）から 6 月 13 日（金）までの 2 週間、本館 1 階ロビーにおいて「EU 資料展 ～スウェーデンってどんな国？～」を開催しました。

EU の紹介とともに、EU 加盟国の一つであるスウェーデンを紹介するパネル、留学生からのメッセージ、スウェーデンに関する図書等を展示しました。また、併せて EU の広報資料も展示・配布しました。



## ■コラム「きじむんのどうーちゅいむにー」

昨年度に引き続き、沖縄資料担当の職員によるコラム「きじむんのどうーちゅいむにー（訳：きじむんの独り言）」を展示しています。利用者に沖縄資料の特性を知ってもらい、図書館の利用促進を図ることを目的としています。

今年度は、琉球大学内や近郊の史跡・スポットを紹介しています。琉球王国で初の茶畑、琉球国王尚灝王の住居跡と井戸跡、糸蒲ノロの墓、津覇高墓、千原馬場、魏士哲頭彰碑などが学内にあります。また、東口を出たところに田芋発祥地や糸蒲寺跡などもあります。22カ所以上の史跡などを1年間かけて地図や写真と共に紹介します。本館内にてパネル掲示をするほか、PDFデータをバックナンバーとしてHPにて公開しています。



## ■Library Lovers' キャンペーンに参加

九州地区の国公立大学図書館による合同企画「Library Lovers' キャンペーン」(10月20日～11月16日)に参加しました。合同企画「衝撃のワンフレーズ」のほか、当館の独自企画として以下のイベントを実施しました。



## ◎「貸出回数0」の本

2014年に新たに登録された図書のうち、貸出回数が0回の図書の中から職員が厳選した図書を展示するイベント。展示図書は貸出することができ、期間中22冊の本が初めて貸し出されました。

## ◎本で連想ゲーム

連想元の図書のタイトル・ジャンル・内容等のキーワードから新たに連想する図書を紹介するイベント。様々な視点からの投稿があり、期間中7冊の本が紹介されました。

## ◎迷子の本を探せ！

使用后、誤って別の場所に戻された等の理由から図書館内で不明となった本を捜索するイベント。事前に選定した10冊を対象としましたが、1冊のみの発見に終わりました。





# Library Lovers' キャンペーン 2014 実施報告

LibraryLovers' キャンペーンワーキンググループ

鹿児島大学附属図書館 川崎千由美

熊本大学附属図書館 佐藤 公枝

中村学園大学図書館 角 真紀子

## 1. はじめに

### 1-1. Library Lovers' キャンペーン 2014 の概要

2014年10月20日(月)～11月16日(日)の約1ヶ月間、秋の読書週間に合わせ九州地区の大学図書館が合同でLibrary Lovers' キャンペーン2014を実施した。5年目となる今年度は、国公私立の37大学が参加した。

今年度はキャンペーンの趣旨として、昨年度までの「主として学生を対象とした図書館の利用促進・読書推進」、「イベントを企画・運営することによる、図書館職員のスキル向上」、「大学を越えた人的ネットワークの形成」に加えて「九州地区大学図書館間での取り組み事例やアイデアの共有」「図書館活動の学内外へのアピール」を新たに設定した。

キャンペーンの内容は、例年、参加館が協力して行う合同企画と、各参加館が工夫を凝らして実施する独自企画で構成されている。今年度の合同企画は、本を読んで「衝撃を受けた一言」を学生から募集し展示する「衝撃のワンフレーズこの一言が、あなたを変える」だった。実施にあたっては、国立大学図書館協会(以下「国大協」という)地区助成事業からの助成金により投稿促進グッズを製作し、各参加館に配布した。

### 1-2. 実施体制

キャンペーンの企画運営は、九州大学に事務局を置き、九州地区大学図書館協議会加盟館から募集したメンバー9名で結成されたワーキンググループ(以下「WG」という)で行った。

実施内容の検討のため、まずはWGメンバーで集まって会議を行った。メンバーの負担を考慮

して、会議日程を昨年度同様1.5日という短期間に抑えた。企画検討過程でも、WGメンバー・参加館双方の負担軽減と効率的な実施を意識して議論していった。会議では、企画内容決定後、3つの班に分かれて準備作業に着手した。

会議後は、各自職場で作業の続きを行った。WGメンバーの所属は、北は九州大学から南は琉球大学まで分散しており、再び集合することは困難である。そのため、メーリングリスト(以下「ML」という)やクラウドサービスを活用して準備を進めていった。

また、参加館との間でも、ML及びクラウドサービスを利用し情報共有を行った。

### 1-3. 全体スケジュール

キャンペーン全体のスケジュールは以下のとおりである。

6/16～	九州地区大学図書館協議会加盟館からキャンペーン企画案及びWGメンバー募集(7/3〆切)
7/17	WGメンバー決定 7大学(国立6、私立1) 9名
8/7～8	WG会議開催 キャンペーン合同企画決定
9/4	参加館募集(9/18〆切)
10/6	キャンペーン予告広報開始
～10/8	教職員からの「一言」事前募集
10/20	キャンペーン開始
11/16	キャンペーン終了
11/17	合同企画最終報告 写真アップロード

## 2. キャンペーンの開始まで

### 2-1. コンセプトの決定

8月7日午後から8日夕方にかけて、九州大学においてWG会議を行った。会議初日には、WGのチーフを2名選出した上で、合同企画の内容についての議論から開始した。キャンペーンの九州全体での活性化をねらい、合同企画の基本的なコンセプトを、

- ・九州全体で共有できるもの
  - ・どの学生にとっても参加しやすいもの
  - ・参加館の心理的、物理的負担が少ないもの
- とすることをメンバー間で確認した。

また、会議期間中には、国大図協地区助成事業の一環として開催された「大学図書館利用促進事例発表会：そのアイディア、いただきます！」に参加した。昨年度までのキャンペーンの事例発表やポスター展示、意見交換等を通して各大学の実施状況を把握することができ、WGメンバーのキャンペーンに関する認識の共有化が図られた。

### 2-2. 合同企画「衝撃のワンフレーズ—このひと言が、あなたを変える」

上記コンセプトを踏まえ、今年度の合同企画を「衝撃のワンフレーズ—このひと言が、あなたを変える」（以下、「衝撃のワンフレーズ」という）に決定した。これは、本を読んで「衝撃を受けたひと言」をコメントと併せて募集し、展示するという企画である。

あらかじめ協議会加盟館から募集した企画案を基に検討した結果、下記のような理由によりこの企画に決定した。

- ・企画名にインパクトがある
- ・例年の“おすすめ本のコメント”募集とは一味違い、新鮮味がある
- ・誰かを魅了した「言葉の力」を通して、学生に新たな本と出会ってもらいたい

この企画では、キャンペーンの効果を高めるため、次の4つを実施することとした。

まず1つ目が予告広報である。キャンペーン開始まで企画名や内容を伏せつつ、インパクト

のあるポスターであることで、「図書館で何かが始まる」という期待感を高めることをねらったものである。これは、昨年参加館の1つが実施した例を参考にした。



2つ目がグッズの配付である。「投稿を促すためのインセンティブがほしい」という昨年度までの要望を受け、国大図協の助成金によりキャンペーンオリジナルバッグを作成し、投稿促進を図った。

3つ目が展示方法の提案である。展示場所を設ける集中型と、階段や書架等館内各所に貼る分散型の2つを提示した。特に分散型には、本との偶然の出会いを演出するというねらいがある。

そして4つ目が、九州全体でコンテンツ（＝「ひと言」）をリアルに共有することである。昨年度まではブログ<sup>1</sup>を通して共有していたが、学生にどれだけ届いていたかという懸念があった。そのため、今年度は他館で投稿された「ひと言」をリアルに共有することにより可視性を高めることとした。

また、「言葉の力」を通して、新たな本と出会うことのできる場を演出する」というコンセプトの下、キャッチコピーは「このひと言が、あなたを変える」とし、ひと言の対象は基本的に本とした。また、「ひと言」をより強調するため、テーマカラーはシンプルに白・黒とした。

### 2-3. 実施準備

WG会議2日目は、キャンペーンのとりまとめ・Web広報に携わる「総括+Web班」、広報物の作成に携わる「デザイン班」、グッズの作成に

<sup>1</sup> Web上に仮想本棚を作成し、感想やレビューを投稿できるWebサービス。

携わる「グッズ班」に分かれて実施準備を始め、会議後は分担して作業を進めた。なお、一部のWGメンバーは複数の班を兼任した。

#### 【総括+Web班】(5名)

主にキャンペーンの実施要項・各種マニュアル作成とWebツールの選択・運用を担当した。Webツールについては、キャンペーンの様子や「ひと言」を参加館全体で共有するため、また、より多くの学生にみてもらうため、下記のツールを使用した。

- ・ブログ...キャンペーンホームページ  
参加館による記事投稿(参加館紹介、各館イベント風景、開催報告など)
- ・Twitter...ブログ記事・「ひと言」の紹介
- ・Facebook...ブログ記事の紹介

WGで準備した各種マニュアルや「ひと言」のテンプレート、広報物の共有はクラウドサービスを活用した。また、「ひと言」自体を参加館全体で共有するため、各館で投稿された「ひと言」はPDFデータに変換してクラウド上にアップロードし、参加館が自由にダウンロードして印刷・展示できるようにした。

#### 【デザイン班】(3名)

主に展示に使用するテンプレートの作成を担当した。今回は予告広報を行うことを踏まえ、キャンペーン開始後に使用する本番用ポスターとは別に、予告用ポスターを作成した。また、投稿用紙は、「ひと言」を強調させるためシンプルなデザインとした。このほかにも、タイトルロゴ、しおり等、各種テンプレートを用意し、参加館の作業負担を軽減できるようにした。

#### 【グッズ班】(4名)

主にグッズの作成と参加館への配付を担当した。グッズの重要な要素が、貰って嬉しいもの、実用的、キャンペーンの広報になるものということで、キャンペーンオリジナルトートバッグに決定した。また、本を入れることを想定し、素材、大きさ、クオリティーについて検討した結果、素材を不織布とし、大きさをA4サイズ、安価なものよりは少々高めのものに決定した。デザイン・数量等については次のとおりとした。

・業者選定...数社の業者から見積をとり選定

・デザイン...企画名「衝撃のワンフレーズ」のイメージと重なる稲妻を中心としたデザイン

・数量...予算内で作成出来る最大個数650個を作成

・参加館への配付数...合同企画参加館の学生数を基に、昨年度までの合同企画参加状況を加味して算出



## 2-4. 参加館募集

1-3のスケジュールに則り、九州地区の大学・短大・高専図書館宛にキャンペーン参加館募集を行った。キャンペーンへの参加スタイル及び参加大学数は以下のとおりである。合計37大学図書館及び鹿児島県大学図書館協議会が参加した。

1. 合同企画に参加 29大学
2. 独自企画のみ実施 1大学
3. 広報のみ参加 7大学+1協議会

## 3. キャンペーンスタート

### 3-1. 合同企画

キャンペーン開始に先立ち、主に教職員を対象に「ひと言」を事前募集した。これは、キャンペーン開始時から一斉に「ひと言」を展示することで、「衝撃のワンフレーズ」を衝撃的に始めることをねらったものである。

事前募集した「ひと言」を掲示した状態で展示を開始した。展示の近くに投稿用紙を設置し、学生が自由に投稿できるようにしたところも多い。展示スペースのほか、書架の側面や階段、机等館内各所に展示する参加館も多く、「新たな本との出会い」を演出するため、各館工夫を凝らした展示を行っていた。投稿数は、キャンペーンが進むにつれて徐々に増加し、最終的には853件の「ひと言」が集まり、キャンペーンオリジナルバッグは、全体で430個を配付した。



### 3-2. 広報

キャンペーン期間中、ポスターや Web 上でのツールを用い以下のような広報を行った。

#### ①本番用広報ポスター（10/20～）



#### ②ブログ（キャンペーンホームページ）



<http://librarylovers.blog.jp/>

キャンペーン全体の広報を行う。各参加館が、合同企画のみならず、大学紹介や独自企画の紹介を行った。

#### ③Twitter



[https://twitter.com/library\\_lovers](https://twitter.com/library_lovers)

各館のブログ記事の URL にコメントを付けて

ツイートした。また、キャンペーン期間中、投稿された「ひと言」を WG メンバーが毎日数件ずつツイートした。

#### ④Facebook



<https://www.facebook.com/LibraryLoversKyushu>

Twitter と同様、ブログ記事へのリンクにコメントを付けて紹介した。Twitter・Facebook とともに大学もしくは図書館公式のアカウントを持っている参加館にフォローをしてもらうことでキャンペーン情報を拡散し、より多くのステークホルダーに活動を知ってもらうように努めた。

### 3-3. 独自企画

今年度は 11 大学が独自企画を実施した。独自企画の一部を以下に紹介する。

#### ◆「衝撃のワンフレーズ」関連企画

- ・「衝撃のクイズ」（長崎大学）
- ・Book! Talk! Kumadai!（熊本大学）
- ・帯コン！～衝撃のワンフレーズ～（中村学園大学）
- ・書撃（＝ショーゲキ）（福岡国際大学・福岡女子短期大学）

#### ◆類似企画

##### ①しおり作成

- ・しおり工房（宮崎大学）
- ・あなたのデザイン、しおりにします！（九州大学）

##### ②本の帯コンテスト

- ・帯コン！～衝撃のワンフレーズ～（中村学園大学）
- ・HOB 総選挙（九州工業大学）

### ③不用本のリユース

- ・本のリサイクル市（宮崎大学）
- ・ブックリユース（九州ルーテル学院大学）
- ・本のリユース（九州大学）

今年度は「衝撃のワンフレーズ」と絡めた企画が多く見られ、合同企画を盛り上げる効果があったのではないかとと思われる。また、同様の企画が複数の大学で実施されていた。これは、過去の各館の取り組みが、キャンペーンブログや事例発表会等を通して共有された効果が現れたと思われる。

## 4. 総括

キャンペーン終了後、参加館及びWGメンバーに対しアンケートを実施した。以下、回答内容を分析し改善点等について考察した。

### 4-1. 合同企画について

キャンペーン中、853件のひと言が集まった。例年の“おすすめ本のコメント”募集とは異なり、“引用”であるため出典を書く手間があること、「ひと言」を選びぬくというテーマ自体が難しいことから、投稿数は大幅に減少すると想定していたが、当初の予想を上回る投稿数となった。

これは、予告広報により期待感を持たせ、インパクトのあるポスターとの相乗効果で学生の注目を集めたことが要因のひとつと考えられる。また、展示方法についても分散型の展示を行ったことで学生の注目度が上がったとの意見が多くあった。さらに、ブログを通して各館の展示の様子を共有したことで、展示のバリエーションが増え、より効果的な展示が行われたと思われる。

他館で投稿された「ひと言」をリアルに共有したことについては、展示が賑やかになった、学生の注目を引いていた等好意的な意見が多かった。「展示」という形で可視性を高めコンテンツを共有した効果は高く、今後も継続していくことが望まれる。

一方、「衝撃のワンフレーズ」がイメージしづ

らい、引用はハードルが高い等の意見も寄せられた。これに対し、「心に残ったフレーズ」「感動したフレーズ」等募集テーマを更に設定し学生が気軽に参加できるよう工夫を加えた参加館もあった。このようなアイデアが活発に共有されると、ハードルの高いテーマであっても投稿促進を図ることができ、キャンペーンのより一層の活性化につながるのではと感じた。

### 4-2. キャンペーングッズについて

インパクトを与えるデザインが好評であった。また、キャンペーングッズのおかげで非常に盛り上がったなどの意見も聞かれ、全体的に投稿への呼び水になり、キャンペーンの活性剤となる役割を果たしたと思われる。

反面、バッグでは作成個数が限られデザインの好みが大きく分かれるので、他のグッズが良かったのではないかという意見もあり、キャンペーングッズについては更なる工夫が必要であると思われる。

### 4-3. キャンペーンの実施体制と運営について

WGによる企画運営については、1.5日間の会議で企画概要の決定や班分け・作業分担を行えたため、会議後の作業をより効率的に行うことができた。また、昨年度の資料を元に適切なスケジューリングが行えたことで、多少の変動はあったものの、円滑にキャンペーンを進めることができた。

一方、会議後のやりとりがメール主体となるため、意見のとりまとめや意思決定に時間がかかり、苦勞したことも多かった。Web上でディスカッションを行えるツールを利用する等、意見交換の方法を工夫する必要がある。

また、WGメンバーの人数が少なく、一部のメンバーにかかる負担が大きかった。総括班とWeb班を一つにまとめたため負担が偏ったとの意見も聞かれたことから、各班の作業量が均等になるよう班分けを適切に行うとともに、WGメンバーを少なくとも10名は確保することが望ましい。

合同企画では、クラウドサービスを利用した

データの共有について、各種マニュアルやテンプレート等が集約されているため使いやすく、見落としがない等好意的な意見が多数寄せられた。一方で、「ひと言」をアップロードする時のルールが統一されていない、後半になると目当ての「ひと言」を探すのが大変等の意見もあった。マニュアルをより明確にし、周知徹底を図るとともに、より使いやすくなるよう利用方法を検討する必要がある。

#### 4-4. 来年度に向けて

来年度のキャンペーンでは、今年度実施したようなキャンペーンへの期待感を高めるポスターや広報を行い、内容は、より多くの学生が参加しやすく、親しみやすいものにするのがよいと思われる。展示の工夫、雰囲気作りが重要である。また、今回のようにキャンペーングッズがあると更に盛り上がるので、今年度の助成金のような予算を継続して確保していくことが必須ではないか。

参加館及び WG メンバーのスキルアップ、人的ネットワーク形成という点では、スキルが向上し他大学とのネットワークが構築出来たとの声も聞かれ、毎年効果をあげていると思われる。

事例の共有については、他大学の独自企画、展示方法のアイデアを共有することにより、自館の参考になったとの声が多く聞かれたため、来年度も引き続き実施してほしい。

広報については、学生・教職員向けの周知広報のみならず、キャンペーンの取り組み自体を学内外に発信していくことも意識してほしい。今回は、大学生への読書推進の取り組みのひとつとして本キャンペーンが全国紙に取り上げられた。このように、例えば各参加大学からプレスリリースを行ったり、図書館関係以外の媒体に積極的に広報・報告記事を投稿したりするなど、キャンペーンの活動や実績を広く可視化することで、各大学において、そして社会におい

ても図書館の存在価値を高めることにつながっていくと思われる。

最後に、九州地区全体で、学生・教職員の知の共有及び各図書館の事例とアイデア共有を進めることにより、九州地区の大学図書館が今以上に活性化し、学生に対し図書館の存在感を高め、満足度アップに繋がるよう来年度の Library Lovers' キャンペーンに期待したい。

#### 参考文献：

- ・大学図書館利用促進事例発表会「そのアイデア、いただきます！」関連資料  
<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/events/1452>
- ・堀優子 (2013) 「Library Lovers' キャンペーンを通じた利用促進の取り組み」  
<http://hdl.handle.net/2324/1456064>
- ・北島光朗 (2014) 「Library Lovers' キャンペーン 2013 実施報告」, 『九州地区大学図書館協議会誌』 56, pp. 52-56  
<http://hdl.handle.net/2324/1458340>
- ・廣田桂・大田海 (2012) 「九州・沖縄の大学図書館が連携した「Library Lovers' キャンペーン 2011」実施報告」, 『大学図書館研究』 95, pp. 75-82  
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009593143>
- ・北島光朗 (2013) 「Library Lovers' キャンペーンに期待される、大学図書館の存在の再認識－図書館総合展フォーラム 2013 in 熊本での活動報告」  
<http://archive.mag2.com/0001260410/20130223192413000.html>
- ・井川友利子・稲永晶子ほか (2011) 「Library Lovers' キャンペーン：九州地区における大学を超えた新たな取り組み」  
<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/publications/53>
- ・室井万穂 (2014) 「かけだし図書館員からみた Library Lovers' キャンペーン」  
<http://archive.mag2.com/0001260410/20150113174149000.htm>



## 図 書 館 活 動 報 告

### 福岡県・佐賀県大学図書館協議会

#### 【平成 26 年度総会】

日 時：平成 26 年 5 月 28 日（水）13:00～16:45

場 所：九州大学附属図書館  
新館 4 階視聴覚ホール

当番館：九州大学附属図書館

出席者：38 館（53 名）

#### 協議事項

- (1) 福岡県・佐賀県大学図書館協議会会則の改正について
- (2) 福岡県・佐賀県大学図書館協議会加盟館会員名簿の廃止について
- (3) 平成 25 年度決算報告および監査報告
- (4) 平成 26 年度事業計画および予算案審議
- (5) 次期理事館および監事館の選出
- (6) 福岡県図書館協会理事の選出  
九州大学附属図書館（2 名）

#### 地区研究会報告

- (1) 北部地区  
産業医科大学図書館  
図書係長 田尻 千浪 氏

(2) 福岡地区

西南学院大学図書館  
図書情報課課長古庄 敬文 氏

(3) 南部地区

西九州大学附属図書館  
図書課長 中島 哲男 氏

#### 報告事項

- (1) 第 99 回全国図書館大会 大学・短大・高専図書館部会について

#### 承合事項

- (1) ラーニングcommonsの利用要項・利用申請書等について

#### 講 演

演題「戦前期福岡県における高等教育機関・大学アーカイブズ・『年史』（編纂）の活用を通じて見た」

講師 九州大学文学館・統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻教授 折田 悦郎 氏

### 福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会

#### 【第 1 回研究会】

日 時：平成 26 年 5 月 16 日（金）13:40～16:15

会 場：九州女子大学・九州女子短期大学  
附属図書館 3 階多目的学習室

出席者：13 館 20 名

当番館：九州女子大学・九州女子短期大学  
附属図書館

#### 研 修

「平成 24 年度 NACSIS-CAT/ILL 業務分析表について」

#### 議 事

1. 平成 25 年度決算及び監査報告

2. 平成 26 年度予算(案)

3. 目録小委員会からの報告

4. 平成 26 年度目録講習会の実施について

5. 承合事項及び協議事項  
特になし

6. その他

(1) 図書館内のコピー機設置場所について

(2) BDS等の設置がない図書館での手荷の持込みについて

#### 次回当番館の確認

第 2 回当番館 西南学院大学図書館

## 【第2回研究会】

日時：平成26年10月28日(火)13:30～16:40

会場：西南女学院大学 会議室1

出席者：14館21名

当番館：西南女学院大学図書館

### 議事

1. 平成26年度表彰者調査について  
該当者 九州工業大学附属図書館  
小川裕子(オガワヒロコ)氏
2. 報告事項  
「平成26年度目録講習会」について報告
3. 協議事項  
平成26年度予算(補正案)について
4. 承合事項
  - (1) 図書館館報発行に関することについて
  - (2) 複数冊寄贈された新刊図書の処理について
  - (3) 機関リポジトリの実態について
  - (4) 入退館チェック体制について
  - (5) 閉架書庫の取り扱いについて
  - (6) 視聴覚資料の寄贈受入基準について
  - (7) 為替相場の影響による外国雑誌価格高騰への各館の対応について
  - (8) 洋書・洋雑誌の集書基準の有無について

## 5. その他

次年度承合事項(NACSIS-CAT/ILL業務分析表)への協力依頼がなされた

### 講演

演題：「生命の誕生と進化

—38億年の生命の軌跡—

講師：佐賀医科大学名誉教授 堀 勝治 氏

### 事例発表

西南女学院大学図書館の延滞図書に対する

取組み報告

西南女学院大学図書館 河田 洋 氏

### 当番館の確認

平成27年度 第1回：九州栄養福祉大学・

東筑紫短期大学

第2回：九州歯科大学

平成28年度 第1回：九州共立大学

第2回：九州工業大学

## 福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会目録講習小委員会 における平成26年度「北部地区研究会目録講習会」(中級コース)報告

1. 日時：平成26年8月5日(火)9:30～17:00
2. 場所：九州女子大学・九州女子短期大学附属  
図書館 3F 多目的学習室
3. 申込定員：30名
4. 申込者数：10名(見学者1名を含む)
5. 講師及び講師補助：  
九州共立大学附属図書館 上井、築地  
九州国際大学図書館 坂田  
近畿大学産業理工学部図書館 白石  
九州女子大学・女子短期大学附属図書館 矢崎  
西南女学院大学図書館 一木

## 6. 講習内容および日程

- ・書誌修正、流用入力・書誌新規入力(再確認)
- ・個人演習説明
- ・個人演習/個人回答
- ・グループ演習説明
- ・グループ演習/グループ討議
- ・情報源の取り方・演習回答説明

## 7. 講習会内容

### (1) 目的

講習会の目的は目録業務担当者が共通に理解しておくべき、総合目録所在データベースの構成、内容、データ登録の考え方を習得し、各図書館員のスキルアップを目指す。

## (2) 参加対象者

目録業務の人材育成という観点から中級者を対象として実施。中級者の前提として、目録規則（日本目録規則・英米目録規則・コーディングマニュアル等）及び目録業務を理解していること。国立情報学研究所（NII）の目録講習会（図書）、北部

地区研究会目録講習会（初級コース）修了者、目録業務3年以上の経験者とし、参加申込書に記載するようにしている。

## (3) 講習課題

テキストや登録課題、データベース環境は国立情報学研究所から提供を受け、北部地区独自の課題も作成した。演習とグループディスカッションを重視した。個人で回答となる目録データを作成し、それを基にグループディスカッションを行った。

## (4) 講習会の効果

日常的に一人で業務を遂行している参加者も多く、目録作成における問題点や疑問点を

相談できる環境にいない。今回は参加者から事前に寄せられた質問に対応した課題（NII登録課題集にある場合はNII登録課題集の課題を引用、ない場合は目録小委員会で課題作成）による演習を行った為、より実務に沿った講習内容となった。広島からの見学者もあり、中級レベルの講習会の希少性と必要性が感じられた。

## (5) 今後の課題

①講習会の実施は目録小委員会の充実と継続性が求められる。会場校や委員会メンバーの負担も少なくない。人材育成や北部地区研究会の相互協力という観点から積極的な運営体制を希望する。

②ワークショップ形式の講習会を継続し、各館の図書館職員のスキルレベル向上を目指したい。

③RDAに準拠したNII図書書誌もみられるなか、AACRやNCRと構成が異なるRDAに関する知識の習得が必要となる。

## 平成26年度 福岡県・佐賀県大学図書館協議会 福岡地区研究会記録

日時：平成26年11月28日（金）13:30～16:40  
（受付開始 13:00）

会場：九州情報大学 2号館 261教室

出席者：12館 24名

当番館：福岡教育大学学術情報センター図書館  
九州情報大学附属図書館  
福岡女学院大学図書館

テーマ：「連携」

※ 教員、学生、他部署、関係機関等、他との連携による図書館活動の展開やあり方

### 1. 研究会開会（13:30～13:35）

・当番校館長挨拶

福岡教育大学 学術情報センター図書館  
学術情報センター長 大坪 靖直 氏

### 2. 講演（13:35～14:55）

・演題

「学内・図書館データ連携の可能性を探る  
ーデータ解析による学習支援サービス深化  
のためにー」

・講演者：九州情報大学附属図書館  
館長 南 俊朗 氏

### 3. 休憩（14:55～15:10）

### 4. 協議事項（15:10～15:55）

・題目

貸出統計、入館統計...などの統計資料を、  
サービスや施設の改善等にどのように生か  
しているのか、生かしていけるのか。

提案者：福岡女学院大学図書館  
小野 未来子 氏



## 5. 事例報告 (15:55~16:25)

### ・題 目

福岡教育大学 学術情報センターの研究プロジェクトの取り組み

ー教員と図書館の協働による図書館サービスの展開ー

報告者：福岡教育大学学術情報センター図書館  
豊村 雅義 氏

## 6. 承合事項確認 (16:25~16:30)

(1) 大学院修了生（所定単位修得後退学者含む）への図書館サービスについて

(提案大学：九州情報大学)

(2) 修士論文の取り扱いについて

(提案大学：九州情報大学)

(3) デジカメやスキャナー等による図書館資料の複写について

(提案大学：福岡女学院大学)

## 7. 平成 27 年度福岡地区研究会当番館の紹介

(16:30~16:35)

・次期当番館として、第一薬科大学図書館、福岡大学図書館、福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館が紹介され、当番館を代表して、福岡国際大学・福岡女子短期大学から挨拶があった。

## 8. 閉 会 (16:35~16:40)

・当番校館長挨拶

福岡女学院大学図書館

館長 二階堂 整 氏

※閉会后、希望者を図書館へ案内した。

## 福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会

### 【平成 25 年度 第 2 回研究会・総会】

日 時：平成 26 年 2 月 18 日(火) 13:30~16:30

会 場：西九州大学大会議室

(神埼キャンパス 6 号館 2 階)

出席者：13 館 19 名

当番館：西九州大学附属図書館

### 議 題

#### 協議事項

(1) 平成 26 年度研究テーマについて

① 学生協働の取り組みについて

② 新入生の利用教育について

(2) 承合事項

① 電子マネーを使った図書館内での支払いについて

② 選書ツアーの実施について

③ 冊子体付録の取り扱いについて

(3) その他

### 講 演

演 題：「既存館改修によるラーニング・コモンズ設置計画の実例と、開設後の評価について」

講 師：丸善株式会社 教育ソリューション事業部  
企画設計部 東日本デザインセンター  
センター長 伊藤 芳則 様

### その他

(1) 平成 25 年度南部地区研究会のまとめについて

### 総 会

(1) 平成 25 年度決算について

(2) 平成 26 年度予算(案)について

(3) 平成 26 年度幹事館及び当番館の選出について

(4) 平成 29 年度以降の当番館ローテーション(案)について

(5) 平成 26 年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会理事館・幹事館の選出について

### 【平成 26 年度 第 1 回研究会】

日 時：平成 26 年 10 月 17 日(金) 13:30～16:00

会 場：九州大谷短期大学同窓会館

出席者：12 館 14 名

当番館：九州大谷短期大学図書館

議 題

研究テーマ

- ① 学生協働の取組みについて
- ② 新入生の利用教育について

承合事項

- (1) 図書館での飲食について
- (2) 外国雑誌購入における大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)の利用について

講 演

演 題：「図書館というパフォーマンス」

講 師：九州大谷短期大学教授

梁木 靖弘 氏

## 佐賀県大学図書館協議会

### 1. 平成 26 年度総会

日 時：平成 26 年 8 月 19 日(火) 10:30～12:00

当番館：西九州大学附属図書館

会 場：西九州大学短期大学部附属図書館

学習室

出席者：10 名

協議事項

- ① 平成 25 年度決算報告について
- ② 平成 26 年度予算(案)について
- ③ 平成 27 年度幹事館および監査館の選出について
- ④ その他

報告事項

- ① 各大学図書館の活動状況について
- ② 佐賀県読書推進運動協議会・総会の報告について

承合事項

- ① 生協働の取組みについて
- ② 書館での WiFi 接続環境について

懇談会及び情報交換

武雄市図書館見学(13:20～15:00)

## 長崎県大学図書館協議会

### 1. 平成 26 年度総会

期 日：平成 26 年 7 月 8 日(火) 14:00～16:00

会 場：長崎女子短期大学

出席者：11 館 21 名(外に長崎県公共図書館等協議会より 1 名)

議 題：

- (1) 平成 25 年度事業報告について
- (2) 平成 25 年度決算・監査報告について
- (3) 平成 26 年度事業計画(案)について
- (4) 平成 26 年度予算計画(案)について
- (5) 平成 26 年度役員館等の選出(案)について
- (6) 県内図書館間の相互貸借と県立図書館配送車の利用について

(7) その他

報告等：

- (1) 各館の当面する諸問題について
- (2) その他

### 2. 研修事業(平成 26 年 1 月～12 月)

(1) 公共図書館等協議会との合同研修講演会

日 時：平成 26 年 9 月 8 日(月) 10:00～16:00

会 場：長崎大学 ICT 基盤センター

内容 1：法令等の調べ方

講 師：千田 和明 氏

(国立国会図書館 調査及び立法考査局  
議会官庁資料課立法情報係)

内容 2：レファレンス協同データベース  
講師：水野 翔彦 氏  
(国立国会図書館関西館 図書館協力課  
協力ネットワーク係)

参加者：86名(大学11名、等75名)

## 熊本県大学図書館協議会

### 1. 平成 26 年度総会

日時：平成 26 年 6 月 6 日(金) 15:00～17:00

会場：熊本学園大学付属図書館 4 階会議室

出席者：12 館 23 名

議事：

1. 平成 25 年度総会議事録の確認
2. 平成 25 年度事業報告について
3. 平成 25 年度収支決算並びに監査報告について
4. 平成 26 年度事業計画(案)及び予算(案)について
5. 次年度世話館について
6. その他(照合事項等)
7. 意見交換会

### 2. 平成 26 年度研修会・セミナー

日時：平成 26 年 9 月 17 日(木) 10:00～16:00

会場：熊本学園大学付属図書館

地下 AV ホール、1 階スタディールーム

#### ① 午前の部(講演会)

『大学図書館と著作権』

講師：放送大学 教授 尾崎 史郎 氏

出席者：11 館 27 名

#### ② 午後の部(意見交換会)

『大学図書館における著作権問題

～質疑と意見交換～』

出席者：10 館 23 名

## 大分県大学図書館協議会

### 1. 平成 26 年度総会

日時：平成 26 年 9 月 9 日(火) 15:00～17:00

当番館：別府大学附属図書館

会場：別府大学 32 号館 1 階多目的室

出席者：18 名

協議事項等

[協議題]

- (1) 平成 25 年度事業報告について
- (2) 平成 25 年度決算報告及び監査報告について
- (3) 平成 26 年度事業計画(案)について
- (4) 平成 26 年度予算(案)について
- (5) 平成 27 年度役員館(案)及び当番館(案)について
- (6) 「大分県大学図書館間相互利用実施要項・別表」の改正について

(7) 「大分県立図書館大会」の参画について

[承合事項]

- (1) 学外者の図書館の利用と貸し出しについて
- (2) 館内貸出用ノートパソコンの取り扱いについて

### 2. 講演会

日時：平成 26 年 9 月 9 日(火) 15:00～15:40

会場：別府大学 24 号館 3 階 302 号室

講師：工藤 邦彦 氏

(別府大学司書課程 准教授)

演題：「図書館ウェブサイト起点とした発信型情報サービスの動向」

参加者：18 名



### 3. 研修会

日 時：平成 26 年 2 月 14 日(金) 13:30～15:30  
場 所：立命館アジア太平洋大学 D 棟 1F  
プレゼンションルーム

演 題：「大学教育改革における大学図書館：  
学習支援、教育支援、教員との連携」  
講 師：長澤 多代 氏  
(三重大学附属図書館 准教授)  
参加者：11名

## 宮崎県大学図書館協議会

### 1. 平成 26 年度宮崎県大学図書館協議会総会

日 時：平成 26 年 9 月 26 日 (金)  
14:30～16:00  
会 場：宮崎学園図書館 (宮崎国際大学・宮崎  
学園短期大学) 3 階多目的室  
出席者：加盟 7 大学、1 高専  
及び宮崎県立図書館(オブザーバー館)  
計 19 名

議 事：

- (1) 平成 25 年度 決算報告及び監査報告
- (2) 平成 26 年度 事業計画及び収支予算
- (3) 協議事項
  - ① 学生の活用と読書推進活動について
- (4) 承合事項
  - ①「宮崎県大学図書館協議会と宮崎県公共図書館連絡協議会における図書館資料の現

物貸借要領」に基づく実績について

- ② 図書館内の電源使用について
- ③ ラーニングコモンズの運用について
- ④ 寄贈図書受入基準と選書基準について

### 2. 平成 26 年度宮崎県大学図書館職員等研修会

日 時：平成 26 年 11 月 28 日 (金)  
13:30～15:30

会 場：宮崎大学附属図書館 3 階 視聴覚室  
参加者：13 機関 32 名

講 演

演題：「授業と連動した学修支援：図書館が  
できることを考える」

講師：山田 政寛 氏  
(九州大学基幹教育院 准教授)

## 鹿児島県大学図書館協議会

### 1. 第 35 回鹿児島県大学図書館協議会総会

日 時：平成 26 年 5 月 27 日(火) 15:00～17:00  
場 所：志學館大学 会議等 1 階会議室  
出席者：加盟館 10 大学 1 高専 23 名  
議 事：

- (1) 平成 25 年度会務報告
- (2) 平成 25 年度決算報告及び監査報告
- (3) 平成 26 年度事業計画
- (4) 平成 26 年度予算審議
- (5) 協議題審議
  - ・鹿児島県大学図書館協議会ホームページの改修について

### 2. 鹿児島県大学図書館協議会第 1 回研修会・ 講演会

日 時：平成 26 年 10 月 17 日(金) 13:30～17:00  
場 所：志學館大学図書館 地下 1 階学生ラウ  
ンジ

出席者：加盟館 9 大学 1 高専及び一般 35 名  
発表者：上床 亜衣 氏 (鹿児島大学附属図書館  
水産学部分館情報サービス係)

テーマ：「第 4 回大学図書館学生協働交流シン  
ポジウム」

講演者：餌取 直子 氏 (お茶の水女子大学図書  
・情報課学術研究支援担当)

演 題：「LiSA, LALA と共に歩むお茶大図書館」

## 沖縄県大学図書館協議会

### 1. 平成 26 年度（第 42 回）総会

日 時：平成 26 年 9 月 1 日（月）14:30～15:00

会 場：沖縄キリスト教学院 SHALOM 会館  
1-1 教室

出席者：35 名

議 題：平成 25 年度事業報告

平成 25 年度決算報告

平成 25 年度監査報告

平成 26 年度事業計画（案）

平成 26 年度予算（案）

平成 27 年度の当番館及び平成 26 年度  
監査館の選出

テーマ：「古典的キリスト教文書と図書館」

講 師：神山 繁實 氏（沖縄キリスト教学院  
理事長・特任教授）

出席者：35 名

### (2) 平成 26 年度第 1 回沖縄県大学図書館協議 会研修会

日 時：平成 26 年 12 月 5 日（金）14:00～17:00

会 場：琉球大学附属図書館オープンサテライト  
テーマ：「レファレンス研修会—国立国会図書  
館を使いこなす—」

講 師：旗手 優 氏（国立国会図書館 利用  
者サービス部サービス運営課総合案  
内係）

出席者：14 名

### 2. 講演会・研修会

#### (1) 平成 26 年度第 1 回沖縄県大学図書館協議 会講演会

日 時：平成 26 年 9 月 1 日（月）15:25～16:25

会 場：沖縄キリスト教学院 SHALOM 会館  
1-1 教室

## 平成 26 年度 第 44 回九州地区国立大学図書館協会総会

日 時：平成 26 年 4 月 17 日（木）13:30～17:00

場 所：大分オアシスタワーホテル  
21 階「エトワール」

出席者：11 大学 30 名

協議事項

(1) 国立大学図書館職員の採用試験について

(2) 九州地区国立大学図書館協会の代表館・  
代表館選出について

①代表館・副代表館選出について

②その他

(3) 九州地区大学図書館協議会等の運営につ  
いて

①平成 26 年度九州地区大学図書館協議会  
の役員館の選出について

②平成 27 年度九州地区国立大学図書館協  
会総会の当番館について

③その他

(4) 国立大学図書館協会の運営等について

①第 61 回総会研究集会について

②地区助成事業について

③その他

(5) 第 3 期中期目標・中期計画の策定に向けて

(6) その他

承合事項

(1) 消費税率の引き上げに伴う諸料金の見直  
し状況について

## 平成 26 年度九州地区国立大学附属図書館館長懇談会

日 時：平成 26 年 12 月 3 日（水）13:30～15:00 懇談会  
会 場：九州大学附属図書館会議室（新館 4 階） ・テーマ  
出席者：11 大学 12 名 1. 図書館が直面している課題について  
2. その他

## 平成 26 年度九州地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議

日 時：平成 26 年 12 月 3 日（水）13:30～15:00 ・協議題  
会 場：九州大学附属図書館視聴覚ホール 1. 平成27年度九州地区国立大学法人等職員  
(新館 4 階) 採用合同図書系二次専門試験について  
出席者：11 大学 19 名 2. グローバル化に対応した学修・教育支援  
について  
議 事 3. 国立大学図書館協会地区助成事業につい  
て  
・報 告 4. その他  
1. 国立大学図書館協会理事会報告  
2. 平成26年度九州地区国立大学図書館協  
会実務者連絡会議報告  
3. その他

## 平成 26 年度九州地区国立大学附属図書館館長・事務（部・課長）長会議

日 時：平成 26 年 12 月 3 日（水）15:30～17:00 ・協議題  
会 場：九州大学附属図書館視聴覚ホール 1. 九州地区国立大学図書館協会総会当番  
(新館 4 階) 校及び九州地区大学図書館協議会役員  
館の選出について  
出席者：11 大学 31 名 2. 平成 2 7 年度国立大学図書館協会総会  
への協力について  
議 事 3. 大学図書館の研究支援について  
・報 告 4. その他  
1. 館長懇談会報告  
2. 事務（部・課）長会議報告  
3. 国立大学図書館協会理事会報告  
4. その他

## 平成 26 年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議

第 1 日目 (1) 図書館業務担当職員の技能・知識の共有、  
研修のあり方について  
日 時：平成 26 年 10 月 30 日(木) 13:30～17:00 (2) 魅力ある図書館となるための特色ある  
取組について  
場 所：大分大学図書館 2 階グループ演習室 1 (3) 未返却図書の取り扱いについて  
出席者：11 大学 14 名  
1. 協議事項



## 2. 承合事項

- (1) 電子ジャーナルパッケージ(包括契約)の見直しについて
- (2) 電子図書の導入状況について
- (3) 図書館関係規程について

### 第2日目

日時：平成26年10月31日(金) 10:00～12:00

会場：豊の国ライブラリー

大分県立先哲史料館

講師：主幹研究員 大野雅之

演題：「広瀬淡窓と菅茶山の交流」及び  
展示見学

参加者：13名

## 平成26年度 第65回九州地区大学図書館協議会公立大学部会

日時：平成26年4月17日(木) 14:00～17:00

当番館：公立大学法人熊本県立大学学術情報  
メディアセンター図書館

会場：大分オアシスタワーホテル 5階「孔雀」

出席者：15大学等 29名

### 協議事項

- (1) 情報通信技術の進展下における公立大学図書館について

### 承合事項

- (1) 図書館ホームページにオープンアクセスジャーナルを追加する際について
- (2) 図書館運営におけるリスクマネジメントについて

- (3) 学部生の卒業論文データ(紙媒体+電子媒体)について

- (4) 国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」への加入について

- (5) 離島など遠隔地在住の学外者への図書の貸出について

- (6) 個人文庫(貴重資料を含む。)の資料の取扱いについて

- (7) 電子書籍について

- (8) 図書館独自の災害対応マニュアルの整備について

- (9) 図書の除籍処分について

## 私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会

### 2014年度総会

日時：平成26年4月17日(木)

会場：大分オアシスタワーホテル

当番館：尚綱大学図書館

### I. 報告事項

- (1) 九州地区協議会関係

①第1回定例幹事会

②研究会準備委員会

③第2回定例幹事会

- (2) 九州地区大学図書館協議会関係

①九州地区大学図書館協議会総会

- (3) 西地区部会関係

①2013年度西地区部会会務報告

②2014年度西地区部会事業計画(案)

及び予算(案)

③2014年度予算の暫定執行

④2014年度西地区部会総会開催概要(案)

⑤2014年度西地区部会研究会開催概要(案)

⑥西地区部会関連2014年度予定表

⑦役員校・当番校等一覧

- (4) 私立大学図書館協会関係

①2013年度協会会務報告

②2013年度協会賞審査委員会・研究助成委員会報告

③国際図書館協力委員会報告

- ④協会ホームページ委員会報告
- ⑤協会関連事項報告
- ⑥次期役員校、総会当番校の選出について
- ⑦第75回総会・研究大会の開催
- ⑧行事・会議予定
- ⑨一斉メールの推進について
- ⑩2013年度海外集合研修等の進め方について

## II. 協議事項

- (1) 九州地区協議会関係
- (2) 九州地区大学図書館協議会関係
  - ①2014年度九州地区大学図書館協議会の役員校について
- (3) 会則改正(案)について
- (4) 研究助成規定改正(案)について

## III. 承合事項

- (1) 期間リポジトリについて(九州情報大学)

## IV. 確認事項

- (1) 九州地区協議会 HP 及び ML の運用について
- (2) 外国新聞分担保存について
- (3) 九州地区協議会役員校等ローテーション表(2013年度版)の解説
- (4) 九州地区協議会年度別幹事校
- (5) 本会関係行事・会議等スケジュール

## V. その他

- (1) 2014年度の当番校・幹事校・役員校等の紹介

## VI. 講演会

- 「国立情報学研究所の機関リポジトリへの取り組み」 前田 朗

### 私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会 2014(平成26)年度 第1回定例幹事会

日 時：2014(平成26)年6月6日(金)  
13時45分～14時40分

会 場：筑紫女学園大学 飛翔会館3階 会議室

当番館：筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館

参加者：7館14名

内 容：

#### I. 協議事項

- 1) 2014年度九州地区研究会企画(案)について

- 2) 2014年度九州地区研究会予算(案)について
- 3) 次年度の協議会(総会)での講演について
- 4) 表彰委員館、編集委員館等について
- 5) その他 西地区部会研究会発表者について

#### II. 確認事項

- 1) 九州地区協議会年度別幹事校について
- 2) 九州地区協議会役員校等ローテーション表について

### 私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会 2014(平成26)年度 九州地区研究会

日 時：2014(平成26)年9月4日(木)  
10:00～16:00

会 場：筑紫女学園大学 8号館3階

8302教室

テーマ：大学図書館でなにができるのか

参加者：30館50名

幹事館：筑紫女学園大学・短期大学部  
附属図書館

内 容：

講 演「小説に読む西アジア考古資料  
シリンダー・シール  
～ 円筒印章の登場形態～」

筑紫女学園大学教授 大津 忠彦 氏

事例発表

2013 年度私立大学図書館協会海外認定研修  
報告

「英国の“古き良き”を活かす図書館の取り組み」

長崎外国語大学教育研究メディアセンター

マルチメディアライブラリー

専門職員 羽田 有花 氏

事例発表

「図書館の移転と今後の図書館づくり」

西日本工業大学図書館

図書館課参与 黒岩 壽 氏

事例発表

「これまで訪問した図書館等から学んだこと」

筑紫女学園大学・短期大学部

附属図書館

図書館課係長 東野 善男 氏

事例発表

「卒業研究向け図書館ガイダンス実施報告」

九州ルーテル学院大学図書館

課長代理 坂本 美樹 氏

※終了後意見交換会

九州国立博物館「グリーンハウス」

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会  
2014（平成26）年度 研究会準備委員会

日 時：2014（平成26）年11月7日（金）

13：45～15：15

場 所：西南女学院大学

図書館1階会議室

当番館：西南女学院大学

参加者：7館12名

協議事項

- (1) 私立大学図書館協会西地区部会役員会に  
ついて

(2) 2014年度九州地区研究会について

①研究会開催記録

②研究会決算（仮）

③会計監査について

(3) 2015年度九州地区研究会について

①研究会開催（案）

(4) その他

私立大学図書館協会 西地区部会 九州地区協議会  
2014（平成26）年度 第2回定例幹事会

1. 日 時：2014（平成26）年12月5日（金）

14：00～15：25

2. 会 場：鹿児島純心女子大学

管理棟2階 会議室

3. 当番館：鹿児島純心女子大学

4. 参加者：8館13名

5. 内 容：

I. 協議事項

(1) 西地区部会からの検討課題について

(2) 2014年度九州地区協議会総会の報告に  
ついて

(3) 2014年度九州地区協議会・研究会の  
会計報告について

(4) 申し合わせ事項の変更について

(5) 2015年度九州地区協議会総会の実施計  
画（案）について

(6) 西地区部会 2015年度研究会研究発表者  
の推薦について

(7) 2015年度九州地区大学図書館協議会の  
私立大学部会の表彰委員館・編集委員館  
の選出について



## II. 確認事項

- (1) 本会関係の次年度以降の役員校・当番校  
について

(2) 次年度協議会(総会)講演について

(3) その他

### 九州地区私立短期大学図書館協議会 2014(平成26)年度夏期研修会

1. 日 時 : 2014(平成26)年8月22日(金)  
13:30~17:00
2. 会 場 : 長崎女子短期大学図書館2号館3F
3. 当番館 : 長崎女子短期大学図書館
4. 参加者 : 13館18名
5. テーマ : 短期大学2年間の図書館サービス  
大作戦~魅力ある図書館サービス  
とは~
6. 内容 :
  - (1) 平成25年度夏期研修会成果報告
    - ① 図書館グッズの作成事例
    - ② 図書館の広報や文書の作成活用事例
    - ③ 図書館オリエンテーションで使用する  
パワーポイントの見直しの事例
    - ④ ウェブアンケートの活用事例
  - (2) 講演「短期大学生への資料・情報支援  
~私の試行錯誤・奮戦記~」  
大手前大学教授  
前川 和子 氏
  - (3) 各館の特色あるサービスと当面する諸問題  
~アンケート調査結果から観る~

## 事務局報告

### 平成 26 年度九州地区大学図書館協議会 幹事館・副幹事館会議

平成 26 年 12 月 9 日（火）に書面回議により開催の結果、「第 65 回九州地区大学図書館協議会総会議事要録（案）」について、字句等の間違いが 1 ヶ所あったので、修正ののち承認された。

#### 議 題

##### 1. 平成 27 年度九州地区大学図書館協議会総会について

次期当番館 宮崎大学附属図書館から「平成 27 年度九州地区大学図書館協議会等実施計画（案）」の提出がありました。（資料 1）  
日程等内容をご確認ください。

##### 2. 第 65 回九州地区大学図書館協議会総会議事要録（案）について

今年度当番館 大分大学学術情報拠点（図書館）から第 65 回九州地区大学図書館協議会総会議事要録（案）の提出がありました。（資料 2）

内容をご確認ください。

鹿児島女子短期大学附属図書館より、字句等の訂正の意見があり修正のうえ承認された。

##### 3. その他

###### ① 九州地区大学図書館協議会総会における講演、協議事項等について

ご意見等がございましたらお知らせください。

なお、協議事項等は別途当番大学から照会予定です。

###### ② 副議長について

総会における副議長は、平成 11 年度からの副幹事館制度の発足により、副幹事館の図書館長により次の順番で執り行われておりますので、平成 27 年度につきまし

ても、副幹事館のうちのいずれかの図書館長にお願いいたします。

#### <参考>

平成 11 年度（公立大学部会副幹事館長）  
福岡女子大学  
平成 12 年度（私立大学部会副幹事館長）  
鹿児島国際大学  
平成 13 年度（私立短大部会副幹事館長）  
沖縄キリスト教短期大学  
平成 14 年度（国立大学部会副幹事館長）  
福岡教育大学  
平成 15 年度（公立大学部会副幹事館長）  
宮崎公立大学  
平成 16 年度（私立大学部会副幹事館長）  
筑紫女学園大学・短期大学  
平成 17 年度（私立大学部会副幹事館長）  
九州東海大学  
平成 18 年度（国立大学部会副幹事館長）  
長崎大学  
平成 19 年度（国立大学部会副幹事館長）  
熊本大学  
平成 20 年度（公立大学部会副幹事館長）  
宮崎県立看護大学  
平成 21 年度（私立大学部会副幹事館長）  
九州産業大学  
平成 22 年度（国立大学部会副幹事館長）  
大分大学  
平成 23 年度（私立大学部会副幹事館長）  
熊本学園大学  
平成 24 年度（公立大学部会副幹事館長）  
長崎県立大学

平成 25 年度（私立大学部会副幹事館長）  
久留米大学  
平成 26 年度（公立大学部会副幹事館長）  
鹿児島県立短期大学

③ 副幹事館、表彰委員館、編集委員館の交代について

平成 27 年度は副幹事館を選出いただく年です。各部会で当番館の検討をお願いします。

また、表彰委員館、編集委員館の任期は 1 年間（再任は妨げない。）ですので、各部会で当番館の検討を併せてお願いします。

- ④ 平成 28 年度の総会は福岡地区の当番で国立大学部会の当番館は九州大学に内諾を得ていますので、各部会でも当番館をお決めになるときは考慮していただくようお願いします。

第 65 回九州地区大学図書館協議会総会記録

日 程 表

1. 期 日 平成 26 年 4 月 18 日 (金)
2. 会 場 大分オアシスタワーホテル 5 階 「孔雀」  
〒870-0029 大分市高砂町 2-48  
TEL : 097-533-4411 FAX : 097-533-6140  
<http://www.oasistower.co.jp>
3. 日 程 9 : 3 0 受付開始  
1 0 : 0 0 1. 開会  
2. 当番館長挨拶  
3. 幹事館長挨拶  
4. 会議日程・配布資料の説明  
5. 議長、副議長の選出  
6. 議長、副議長の挨拶  
7. 新任館長等紹介  
8. 表彰式  
9. 幹事館報告  
10. Library Lovers' キャンペーン 2013 実施報告  
11. 平成 25 年度決算及び監査報告  
12. 平成 26 年度予算 (案)  
1 1 : 3 0 13. 国立、公立、私立、私立短大各部会報告  
1 2 : 0 0 昼食  
  
1 3 : 0 0 14. 講演  
講師 : 檜本 謙司  
演題 : 「黒田官兵衛と大友氏」  
1 4 : 4 5 15. 協議事項  
16. 承合事項  
17. 次期役員館の選出  
18. 次期当番館の挨拶  
19. 議長、副議長の解任  
1 6 : 0 0 20. 閉会



## 出席者名簿（○は新任者）

### 【国立大学】

#### 九州工業大学附属図書館

附属図書館長 鶴田隆治  
図書館・情報推進課長 酒見史博

#### 福岡教育大学学術情報センター図書館

学術情報センター長 大坪靖直  
学術情報課長 米納寿孝

#### 九州大学附属図書館

附属図書館長 川本芳昭  
事務部長 益森治巳  
図書館企画課長 ○郷原正好  
図書館企画課長補佐 印藤憲一

#### 佐賀大学附属図書館

附属図書館長 ○富田義典  
学術研究協力部長 寺田浩一  
情報図書館課長 木村伸子

#### 長崎大学附属図書館

附属図書館長 森望  
学術情報部長 ○徳永哲郎  
学術情報サービス課長 小川稔

#### 熊本大学附属図書館

附属図書館長 大熊薫  
教育研究推進部長 山崎雅彦  
図書館ユニット長 城川由美

#### 大分大学学術情報拠点(図書館)

学術情報拠点長 ○宮町良広  
学術情報拠点長 原田道雄  
学術情報課長 河野泰久

#### 宮崎大学附属図書館

附属図書館長 岩本俊孝  
情報図書部長 上村茂樹  
図書課長 黒木俊弘  
資料管理係長 徳留新一

#### 鹿児島大学附属図書館

附属図書館長 野呂忠秀  
学術情報部長 ○渡邊俊彦  
情報管理課長 ○二石章

#### 鹿屋体育大学図書館

学術図書情報課図書サービス係長 山下智久

#### 琉球大学附属図書館

附属図書館長 伊澤雅子  
事務部長 ○飯田昇平  
情報管理課長 石丸克巳

出席館 11館 31名

欠席館 なし

### 【公立大学】

#### 北九州市立大学図書館

図書館係長 鈴木吉美

#### 九州歯科大学附属図書館

学務部長 ○赤嶺勇司  
嘱託職員 長紀美恵

#### 北九州学術研究都市学術情報センター

学術情報担当課長 ○竹下誠次  
学術情報担当主任 柳澤裕幸

#### 福岡女子大学学術情報センター(図書館)

学術情報センター副センター長 大久保順子

福岡県立大学附属図書館

図書館長 ○細井 勇  
教務入試班（図書館） 喜多 恵

宮崎公立大学附属図書館

企画総務課長 伊豆 真一  
主査 赤澤 央臣

長崎県立大学附属図書館

附属図書館長兼シーボルト校附属図書館長 松本 幸子  
佐世保校附属図書館長 柳田 芳伸  
シーボルト校図書グループリーダー ○中永 博巳  
佐世保校附属図書館図書グループリーダー 石橋 和弘

宮崎県立看護大学附属図書館

附属図書館長 串間 敦郎  
総務課副主幹 ○赤江 貢一

熊本県立大学学術情報メディアセンター

学術情報メディアセンター長 半藤 英明  
学術情報メディアセンター事務長 野尻 洋一  
図書館主事 ○藤井 孝史

鹿児島県立短期大学附属図書館

図書館長 ○木戸 裕子

沖縄県立看護大学附属図書館

附属図書館長 神里 みどり  
主査 ○美里 敏則

大分県立芸術文化短期大学附属図書館

図書館長 根之木 英二  
企画情報課長 三好 民郎

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館

主任 新里 浩晃

大分県立看護科学大学附属図書館

副館長 小野 美喜  
司書 白川 裕子

名桜大学附属図書館

参与 又吉 純  
図書課長 赤嶺 達也

出席館 15館 29名

欠席館 なし

【私立大学】

西日本工業大学図書館

図書館長 ○大木 雅彦  
事務部長 山崎 倫明

福岡工業大学附属図書館

図書館長 阿山 光利  
事務長 中島 良二

西南女学院大学図書館

館長 ○甲斐 達男  
図書課長 西川 忍

福岡女学院大学図書館

図書館長 二階堂 整

九州共立大学附属図書館

館長 ○松田 高史

九州産業大学図書館

図書館長 ○渡邊 雄二  
事務部長 中尾 和弘  
事務室長 宮丸 由美子

九州女子大学・九州女子短期大学附属図書館

図書館長 ○青山 優子  
業務課長 松尾 伸二

福岡大学図書館

図書館長 則松 彰文  
事務部長 井口 紀子

中村学園大学図書館		活水女子大学図書館	
図書館長	○島内博行	図書課長	森茂樹
図書課長	辻原陽一		
西南学院大学図書館		長崎総合科学大学附属図書館	
図書館 事務部長	岩佐俊司	課長	山川邦子
図書情報課長	古庄敬文	長崎外国語大学教育研究メディアセンター	
純真学園大学図書館		センター長	マラクラウドディア
館長	上松弘明	マルチメディアライブラリー事務室長補佐	別所佐和子
司書	中村綾	長崎純心大学早坂記念図書館	
第一薬科大学図書館		館長	○田中芳彦
司書	野中麻有	図書館事務室長	岩崎由希子
九州情報大学附属図書館		長崎ウエスレヤン大学附属図書館	
附属図書館長	南俊朗	司書	植松久子
筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館		長崎国際大学図書館	
課長	山中優子	図書課長	飯島芳典
係長	東野善男	崇城大学図書館	
主任	倉永郁子	課長	原みゆき
福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館		九州ルーテル学院大学図書館	
課長	大橋祐子	課長代理	坂本美樹
久留米工業大学学術情報センター		熊本学園大学附属図書館	
係長	西尾雅弘	課長	津村秀夫
久留米大学附属図書館		東海大学附属図書館熊本・阿蘇図書館	
館長	石川捷治	館長	岩橋正國
事務部長	古賀正規	副主事	福田則勝
課長	熊谷まゆみ	熊本保健科学大学附属図書館	
課長補佐	二又紅美子	図書館長代理	高濱和夫
国際医療福祉大学 九州地区キャンパス図書館		九州看護福祉大学附属図書館	
事務	長野弘毅	図書館長	○熊本俊秀
西九州大学附属図書館		学術資料係長	福本直子
図書館長	進藤直文		
図書課長	中島哲男		

日本文理大学図書館

課長補佐 小平 正典

立命館アジア太平洋大学ライブラリー

アカデミックオフィス課員 大勢 美穂

別府大学附属図書館

館長 佐藤 瑠威

事務長 平野 純治

九州保健福祉大学附属図書館

事務室主任 内田 ゆかり

宮崎産業経営大学附属図書館

図書課員 山口 清美

南九州大学・南九州短期大学図書館

館長 ○坂 卷 嘉孝

学務部長 中村 稔

鹿児島国際大学附属図書館

課長補佐 田平 和樹

鹿児島純心女子大学附属図書館

図書館長 ○三 間 晶生

図書課長 森 山 学

図書課長補佐 岩 永 眞佐子

志學館大学図書館

図書館長 ○松 田 君彦

総務課長代理 内 村 勇蔵

沖縄国際大学図書館

図書館長 ○新 垣 勝弘

図書課長 新 里 克也

図書課長補佐 山 城 篤男

図書課主任 崎 原 司

沖縄大学図書館

図書館事務長 糸 数 晃

沖縄キリスト教学院大学図書館

課長 仲 間 末美

出席館 43館 71名

欠席館 5館

#### 【私立短期大学】

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館

図書課長 小林 由憲

鹿児島女子短期大学附属図書館

館長 古 川 恵子

総務課長 南 谷 久

鹿児島純心女子短期大学図書館

館長 三 島 盛武

課長 西 眞知子

出席館 3館 5名

欠席館 1館



## 第 65 回 九州地区大学図書館協議会総会議事要録

### 1. 開会

当番館の大分大学学術情報課河野課長より、開会宣言があった。

### 2. 当番館長挨拶

当番館である大分大学学術情報拠点（図書館）宮町拠点長より、挨拶があった。

### 3. 幹事館長挨拶

幹事館である九州大学附属図書館川本館長より、挨拶があった。

### 4. 会議日程・配付資料の説明

河野課長より、日程説明・配布資料について説明があった。

### 5. 議長の選出、挨拶

「九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則」第2項に基づき、当番館の館長である大分大学学術情報拠点（図書館）の宮町拠点長が選出され、続いて挨拶があった。

### 6. 副議長選出、挨拶

議長より、副幹事館である鹿児島県立短期大学の木戸館長が副議長として指名され、続いて挨拶があった。

### 7. 新任館長等紹介

今年度は新任者が多数のため、資料1の出席者名簿に基づき、確認された。

### 8. 表彰式

「九州地区大学図書館協議会表彰規程」に基づき、16名が表彰された。

被表彰者を代表して、九州大学附属図書館の小柳貴俊氏へ表彰状が授与された。

#### (1) 勤務期間 20 年以上の者で退職または転職した者（表彰規程第 2 条第 2 項）

（所属機関、氏名の 50 音順）

	表彰の区分	所属大学名	氏名
1	第2条第2号	鹿児島大学附属図書館	の 能 勢 明 雄
2	〃	鹿児島大学附属図書館	ほり 堀 ぐち 口 ちもも 百 代
3	〃	九州大学附属図書館	あい 相 べ 部 く み 子
4	〃	九州大学附属図書館	かな 金 まる 丸 い つ 子
5	〃	熊本大学附属図書館	なり 成 た 田 かず のり 則
6	〃	西南女学院大学図書館	おり 渡 はし 橋 えい 子
7	〃	長崎大学附属図書館	き 木 はら 原 のり 子
8	〃	琉球大学附属図書館	うえ 上 はら 原 たかし 孝

(2) 勤務期間 20 年に達した者（表彰規程第 2 条第 1 項）

(所属機関、氏名の 50 音順)

	表彰の区分	所属大学名	氏名
1	第 2 条第 1 号	鹿児島大学附属図書館	鬼塚純子
2	〃	活水女子大学図書館	田崎直子
3	〃	活水女子大学図書館	古本弥生
4	〃	九州大学附属図書館	沖政ひろ
5	〃	九州大学附属図書館	小柳貴俊
6	〃	九州大学附属図書館	中尾康朗
7	〃	九州産業大学図書館	高濱純
8	〃	熊本大学附属図書館	森下和博

9. 幹事館報告

幹事館の九州大学郷原図書館企画課長より、以下の 3 点について報告があった。

1) 加盟館数について

平成 25 年度の新規加盟館は 1 館であった。平成 25 年度 4 月 1 日現在の加盟館は、国立 11 館、公立 15 館、私立 48 館、私立短大 4 館の、合計 78 館である。

2) 九州地区大学図書館協議会誌について

平成 26 年 3 月に「九州地区大学図書館協議会誌第 56 号」を刊行し、既に加盟館には発送済みである。宮崎大学の岩本館長の巻頭言に加え、宮崎大学、志学館大学より各 1 点の論文が寄せられ、リニューアルや開学等による大学図書館の紹介等充実した協議会誌となった。

3) Library Lovers' キャンペーンについて

大学図書館の利用促進と学生の読書促進を目的とし、本協議会の事業として平成 24 年度から 3 年間の継続実施が決定されているとの報告があった。

10. Library Lovers' キャンペーン 2013 実施報告

九州大学附属図書館の北島光朗氏により、資料 3 に基づき、活動報告が行われ、参加館が前年度より大幅に増加し、好意的な意見が多数寄せられ、今後も学生・教員を巻き込み、九州地

区全体で知の共有ができるようなイベントとし、大学図書館を学内外にアピールしていききたいとの報告があった。

11. 平成 25 年度決算及び監査報告

幹事館より、資料 5 に基づき報告があった。広告掲載料 14 社中 8 社が未収となっており 26 年度の収入となることが説明された。続いて、監査館である西南学院大学より、監査の結果、通帳・出納簿ともに適切な会計処理が行われているとの報告があり、審議の結果、承認された。

12. 平成 26 年度予算（案）

幹事館より、資料 6 の予算案に基づき説明があった。

Library Lovers' キャンペーンの活動費を予算化できないかとの要望があり、財務状況は厳しいとの説明があった。審議の結果、承認された。

13. 国立、公立、私立、私立短期大学部会報告

(1) 国立大学部会報告

大分大学学術情報拠点（図書館）の宮町拠点長より、九州地区国立大学図書館協会総会の報告があった。

#### 協議事項

- 1) 国立大学図書館職員の採用試験について  
今年度の試験日程、実施方法、経費負担等が承認された。
- 2) 九州地区国立大学図書館協会の代表館・副代表館選出について  
代表館に九州大学、副代表館に熊本大学が選出された。
- 3) 九州地区大学図書館協議会等の運営について  
平成 26 年度九州地区大学図書館協議会の役員館について、副幹事館に鹿児島大学、表彰委員館に熊本大学、編集委員館には大分大学が選出された。  
平成 27 年度九州地区国立大学図書館協会総会の当番館には宮崎大学が選出された。
- 4) 国立大学図書館協会の運営等について  
第 61 回総会のワークショップで取り扱うテーマについて、各大学から提案のあったテーマについて説明があり、九州大学で取りまとめることとなった。  
地区助成事業について、2 案を提出することとなった。
- 5) 第 3 期中期目標・中期計画の策定について  
各大学ともこれから始動するとのことで意見交換を行った。

#### 承合事項

- 1) 消費税率の引き上げに伴う諸料金の見直し状況について、各大学からの回答を参考にすることとなった。
- (2) 公立大学部会報告  
熊本県立大学学術情報メディアセンターの半藤センター長より、九州地区大学図書館協議会公立大学部会の報告があった。

#### 協議事項

- 1) 情報通信技術の進展下における公立大学図書館について  
リポジトリの専任司書と人的環境の状況、図書館活動の研究成果の公表について協議

した。さらに、電子ジャーナルの対応について情報交換した。

#### 承合事項

- 1) 図書館ホームページにオープンアクセスジャーナルを追加する際について
- 2) 図書館運営におけるリスクマネジメントについて
- 3) 学部生の卒業論文データ（紙媒体＋電子媒体）について
- 4) 国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」への加入について
- 5) 離島など遠隔地在住の学外者への図書の貸出について
- 6) 個人文庫（貴重資料含む）の資料の取扱いについて
- 7) 電子書籍について
- 8) 図書館独自の災害対応マニュアルの整備について
- 9) 図書の除籍処分について  
各大学の報告を受け協議を行った。特にリスクマネジメントについて、大震災や不審者対策について議論し、速やかなマニュアル整備が必要と確認した。

2014 年度九州地区大学図書館協議会役員館について、副幹事館に鹿児島県立短期大学、表彰委員館に熊本県立大学、編集委員館に北九州市立大学が選出された。

#### (3) 私立大学部会報告

久留米大学図書館熊谷課長より、私立大学図書館西地区部会九州地区協議会の報告があった。

#### 報告事項

九州地区協議会関係、九州地区大学図書館協議会関係、西地区部会関係、私立大学図書館協議会関係について、了承いただいたとの報告があった。

#### 協議事項

- 1) 九州地区協議会関係  
久留米大学より、西地区研究会本会からの

研究者の推薦について説明し、2014年9月14日に開催される九州地区研究会について、当番校の筑紫女学園大学から説明があった。

## 2) 九州地区大学図書館協議会関係

2014年度九州地区大学図書館協議会の役員館について、表彰委員館に九州保健福祉大学、編集委員館に西九州大学が選出された。

## 承合事項

### 1) 機関リポジトリについて

提案大学の九州情報大学より趣旨説明があった。

## 確認事項

- 1) 九州地区協議会 HP 及び ML の運用について
- 2) 外国新聞分担保存について
- 3) 九州地区協議会役員校等ローテーション表(2014年度版)及び同表解説について
- 4) 九州地区協議会年度別幹事校
- 5) 本会関係行事・会議等スケジュール

以上の5点について、確認された。

## その他

- 1) 2年度の当番校である鹿児島純心女子大学より挨拶があった。

また、国立情報学研究所・前田朗氏に「国立情報学研究所の機関リポジトリへの取り組み」について講演して頂いた。

## (4) 私立短期大学部会報告

鹿児島女子短期大学附属図書館の古川館長より、九州地区私立短期大学図書館協議会総会等の報告があった。

- 1) 総会では、平成25年度事業報告、平成25年度決算報告及び監査報告、平成26年度事業計画及び予算について審議され、承認された。
- 2) 研修会においては、別府溝部学園短期大学前図書館長・田邊勲氏に講演して頂いた。  
承合事項では、①電子書籍に関すること、②デジタル教科書に関すること、③CDの貸出における留意点について、各館の報告を確認した。

その他として丸善株式会社から、短期大学における電子図書利用について説明があった。

平成26年度の会長館・幹事館について紹介があり、当番館に鹿児島女子短期大学、表彰委員館・編集委員館に東九州短期大学が選出された。

(昼食)

## 14. 講演

「黒田官兵衛と大友氏」

大分学研究会 代表理事 檜本讓司氏

大分大学学術情報課河野課長より講師の紹介があり、檜本氏による講演が行われた。

(休憩)

## 15. 協議事項

協議題「九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則」について

九州大学より、提案理由について説明があり、平成20年の第59回総会以降、文部省・国会図書館或は他地区の大学から講師は招聘されておらず、細則の8を「総会と同時に会員のための研修会を行うものとする。」としたいとの提案があった。副議長より承認について諮られ、審議の結果、承認された。

## 16. 承合事項

承合事項1「大学図書館におけるスキャナーの設置について」

提案大学の西南学院大学より、回答に対する感謝の意が表され、この件について持ち帰り今後の参考としていただくこととなった。

承合事項2「研究図書の取り扱いについて」

提案大学の沖縄県立看護大学より、回答に対する感謝の意が表され、この件について持ち帰り今後の参考としていただくこととなった。

承合事項3「ワーキングペーパーの学術リポジ



トリ登録（掲載）の有無について」

提案大学の長崎県立大学佐世保校より、回答に対する感謝の意が表され、この件について持ち帰り今後の参考としていただくこととなった。

承合事項 4「加除式資料の資産扱いについて」

提案大学の北九州市立大学より、回答に対する感謝の意が表され、この件について持ち帰り今後の参考としていただくこととなった。

承合事項 5「ラーニングコモンズ（飲食のみの許可を含む。）による効果及びその運営に当たっての問題・課題について」

提案大学の熊本県立大学より、回答に対する感謝の意が表され、この件について九州工業大学・立命館アジア太平洋大学・福岡大学・福岡女子大学・福岡県立大学との具体的な意見交換が行われ、今後の参考としていただくこととなった。

#### 17. 次期役員館の選出

副議長より、幹事館と副幹事館は昨年度の総会で選出されており、任期は平成 25 年度から平成 26 年度までの 2 年間であるため、平成 26 年度も幹事館は九州大学、副幹事館は鹿児島大学、鹿児島県立短期大学、久留米大学、鹿児島女子短期大学であるとの確認を行った。

幹事館の九州大学より、監査館は幹事館に近い大学が望ましいので、九州産業大学にお願いして内諾を得ているとの説明があり、承認された。

幹事館の九州大学より、昨日の各部会での検討の結果、表彰委員館は熊本大学、熊本県立大学、九州保健福祉大学、東九州短期大学が推薦され、編集委員館は大分大学、北九州市立大学、西九州大学、東九州短期大学が推薦され、承認された。

幹事館の九州大学より、次期当番館の選出について来年度は南部地区から選出することになっており、宮崎大学へ打診し内諾を得ている旨説明があり、承認された。

#### 18. 次期当番館の挨拶

次期当番館の宮崎大学附属図書館の岩本館長より、挨拶があった。

#### 19. 議長、副議長の解任

予定していた議事が全て終了したため、議長・副議長が解任された。

#### 20. 閉会

当番館の河野課長より閉会宣言があった。

平成25年度決算

一般会計

(単位:円)

科目	収入の部			支出の部			
	予算	決算	備考	科目	予算	決算	備考
会費	462,000	468,000	6,000×78館	総会運営費	300,000	300,000	当番館:福岡教育大学
協議会誌代	124,000	124,800	55号:156部	協議会誌発行費	210,000	210,000	56号(2013)200部
広告掲載料	270,000	90,000	6社	事務費	20,000	15,935	会誌送料、送金手数料、消耗品費
広告掲載料	110,000	110,000	7社	積立金会計へ繰入	436,000	266,865	総会関係研修事業補助
小計	966,000	792,800		小計	966,000	792,800	

積立金会計

(単位:円)

科目	収入の部			支出の部			
	予算	決算	備考	科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	219,070	219,070		表彰経費	64,000	61,740	12名(1号該当7名、2号該当5名)
預金利息	100	70	8月32円、2月38円	研修会経費	50,000	50,000	総会講演謝金等
一般会計から繰入	436,000	266,865		研修会補助費	180,000	155,000	各県協議会(8地区)研修経費補助
小計	655,170	486,005		次年度繰越金	361,170	219,265	
				小計	655,170	486,005	

平成26年3月26日

監査館 西南学院大学図書館

図書情報課長 古庄敬文 監査済



平成26年度予算(案)

一般会計

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
会費	468,000	総会運営費	300,000
協議会誌代	122,400	協議会誌発行費	216,000
広告掲載料	220,000	事務費	20,000
広告掲載料	130,000	積立金会計へ繰入	404,400
小計	940,400	小計	940,400

積立金会計

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
前年度繰越金	219,265	表彰経費	83,000
預金利息	100	研修会経費	50,000
一般会計から繰入	404,400	研修会補助費	180,000
		次年度繰越金	310,765
小計	623,765	小計	623,765

## 九州地区大学図書館協議会会則

昭和25年11月27日施行  
昭和32年 9月12日改正  
昭和41年 6月 2日改正  
昭和51年 4月23日改正  
昭和55年 5月 9日改正  
平成 9年 4月25日改正  
平成10年 4月24日改正  
平成20年 4月18日改正

(名 称)

第 1 条 本会は九州地区大学図書館協議会と称する。

(会 員)

第 2 条 本会は別に定める資格を有する九州地区の大学図書館等（以下「大学図書館」という。）をもって組織する。

会員は大学等の機関をもって一会員とする。

本会に入会するには、所定の入会申込書を提出し、総会の議決を経るものとする。

(目 的)

第 3 条 本会は会員の緊密な連絡と協力によって、大学図書館の施設、管理及び運営等の健全な進歩発達をはかり、会員相互の親睦をはかることを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は前条の目的を達するためにつぎの事業を行う。

1. 図書館の研究・調査に関する事項
2. 研究会・講習会等の開催に関する事項
3. 日本図書館協会等の連絡提携に関する事項
4. 学術図書文献の調査及び総合目録の調整に関する事項
5. 学術図書文献の収集、保存及び活用に関する事項
6. その他必要とする事項

(役 員)

第 5 条 本会に幹事館、副幹事館及び監査館を置く。

幹事館は会務を総括し、本会を代表する。

副幹事館は、幹事館とともに会務を処理する。

監査館は、会計を監査する。

第 6 条 幹事館は、総会で互選し、その任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

副幹事館は、国立大学、公立大学、私立大学及び私立短期大学の各部会からそれぞれ1館を総会で互選し、その任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

監査館は、総会で互選し、その任期は1年とする。但し、再選できない。



(事務所)

第 7 条 本会の事務所は幹事館内におく。

(会 議)

第 8 条 本会は毎年 1 回総会を開催する。但し必要に応じ会員の 3 分の 1 以上から請求があった場合は、臨時総会を開くことができる。

第 9 条 総会の運営は、輪番に定められた当番館が幹事館と協議してこれに当たる。

第 10 条 総会は次の事項を行う。

1. 事業計画
2. 決算の承認
3. 予算の決定
4. 幹事館、副幹事館及び監査館の選任及び当番館の決定
5. その他必要なる事項の決定

第 11 条 総会の票決権は 1 大学等の機関につき 1 票とし、議決は多数決による。可否同数の時は幹事館の決するところによる。

(会 計)

第 12 条 本会の経費は会費その他をもってあてる。

第 13 条 会費は年額 6,000 円とし、毎会計年度始めに幹事館に納入するものとする。

第 14 条 本会の予算は毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受け次の総会において承認を得なければならぬ。

第 15 条 本会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

(会則変更)

第 16 条 本会則の変更は総会にはからなければならない。その決定には出席会員の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

## 九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則

昭和32年 9月12日決定  
昭和37年10月 2日改正  
昭和48年 5月11日改正  
昭和53年 5月12日改正  
平成11年 4月23日改正  
平成26年 4月18日改正

1. 本協議会総会の運営は簡素を尊重し、輪番に当番を引受け易くするためにこの細則を定める。
2. 総会の議長は当番館の館長とする。
3. 議長は副議長を指名することができる。
4. 当番館は幹事館及び副幹事館と協議の上、2ヶ月前に会員宛日程・場所等を通知し、出席者の職氏名及び協議事項・承合事項の提出を求める招請状を送ること。  
但し、緊急を要する臨時総会等の場合はこの限りでない。

5. 当番館は協議事項をまとめ、議題として提案理由、又は簡単な説明を付して、出席者に配付し、調査研究の余地を充分与えるように努めること。
6. 当番館は総会の議事録を作成し、会員に配付するものとする。
7. 幹事館及び副幹事館は当番館と協力して、総会で決議された要求事項を貫徹するよう努力する。
8. 総会と同時に会員のための研修会を行うものとする。
9. 会員以外の出席を許すことがある。但し票決権はない。
10. 当番館は加盟館の所属県を次の三地区に分け、地区ごとに等しく持ち廻る。

福岡地区	福岡県
中部地区	長崎県、佐賀県、熊本県、大分県
南部地区	鹿児島県、宮崎県、沖縄県
11. 総会の経費は主として会費及び出席者から徴収する金員より支出し、総会の議決を経た予算案によって実行するものとする。
12. 研修会の講師招聘に要する旅費、謝礼等の費用は、毎年会費の内から積立てて支弁する。

## 九州地区大学図書館協議会入会に関する細則

昭和32年 9月 1日施行  
平成 9年 4月25日改正  
平成20年 4月18日改正

1. 本協議会へ入会を希望する大学図書館（以下「入会申込館」という。）は、最寄りの本協議会 会員の紹介書（別記様式1）により、入会申込書（別記様式2）を、総会の3ヶ月前までに幹事館に提出する。
2. 紹介を依頼された会員は、総会において入会申込館の概略を説明する。
3. 入会資格の基準は下記のとおりとする。
  - (1) 大学、短期大学又はこれに準じる教育研究機関の図書館施設であること。
  - (2) 本協議会の目的及び事業に賛同し、熱意が十分認められること。
4. 入会申込館は、総会当日は、入会承認まではオブザーバーとして出席することができる。

別記様式 1

## 九州地区大学図書館協議会入会紹介書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大学名

図書館名

図書館長名

公印

下記の図書館は、本協議会の目的及び事業に賛同され、また熱意が十分認められますので、本協議会への入会を紹介します。

記

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 図 書 館 名：
4. 図 書 館 長 名：
5. 所 在 地：

別記様式 2

## 九州地区大学図書館協議会入会申込書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大学名

図書館名

図書館長名

公印

貴協議会の趣旨に賛同し、平成 年度からの入会を申し込みます。

記

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 大 学 設 置 年：
4. 学 生 数：
5. 図 書 館 名：
6. 所 在 地：  
(電話、FAX 番号)
7. 図 書 館 長 名：
8. 図 書 館 の 概 要：(別紙)
9. 紹 介 館 名：



別紙

## 図 書 館 の 概 要

図 書 館 名			
事務責任者職・氏名	(電話番号 )		
図 書 館 職 員 数	人 (内、司書数 人)		
図 書 館 延 床 面 積	m <sup>2</sup>	閱 覧 座 席 数	席
蔵 書 冊 数	冊 (内 和書 冊、洋書 冊)		
年 間 受 入 図 書 冊 数	冊	年 間 受 入 雑 誌 種 数	種
年 間 開 館 日 数	日	通 常 開 館 時 間	時 分 ~ 時 分
土 曜 開 館	1 実施                      2 未実施		
日 曜 祝 日 開 館	1 実施                      2 一部実施                      3 未実施		
奉 仕 対 象 学 生 数	人	奉 仕 対 象 教 職 員 数	人
年 間 貸 出 冊 数	冊		
図 書 館 相 互 協 力	図 書 貸 借	1 実施                      2 未実施	
	文 献 複 写	1 実施                      2 未実施	
学 外 者 へ の サ ー ビ ス	1 実施                      2 未実施		
コ ン プ ュ ー タ の 導 入	1 導入済                      2 未導入		
コ ン プ ュ ー タ の 適 用 業 務	1 貸出   2 図書受入   3 図書整理   4 雑誌管理   5 OPAC		
ネ ッ ト ワ ー ク 環 境	1 学内 LAN 接続済      2 インターネット接続済		
国 立 情 報 学 研 究 所 と の 接 続	1 接続 (1 NACSIS-CAT/ILL   2 NACSIS-IR   3 その他)   2 未接続		

## 九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規

平成 2 年 4 月 20 日施行

平成 5 年 4 月 23 日改正

平成 11 年 4 月 23 日改正

1. (1) 本協議会誌は、総会記事のほか各部会報告、ニュース等を掲載し、九州地区大学図書館間の情報誌としての機能を果たすこととする。  
(2) 本協議会誌編集のために編集委員会を設ける。
2. (1) 編集委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された編集委員館で構成する。  
(2) 幹事館及び総会当番館は、業務上の必要から編集委員館として参加することとし、上記 2-(1)の編集委員館を兼ねることができる。  
(3) 各部会の編集委員館は、幹事館の近隣地区から選出されることが望ましい。  
(4) 編集委員館の任期は 1 年とし再任を妨げない。
3. (1) 編集委員館は、それぞれの所属する各部会の記事の提出を担当する。  
(2) 総会当番館は、総会記事を担当する。  
(3) 幹事館は、編集に関する事務を担当する。
4. 本協議会誌発行のため、印刷代、送料、編集会議費、原稿執筆等謝礼は、毎年会費の内から支弁する。
5. 本協議会誌に掲載された論文・記事は、九州地区大学図書館協議会ホームページに掲載することとする。

## 九州地区大学図書館協議会表彰規程

(目 的)

第 1 条 この規程は、九州地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に加盟の大学図書館職員を表彰するため、必要な事項を定めることを目的とする。

(表彰を受ける者)

第 2 条 表彰は、次の各号の 1 に該当し、かつ勤務成績が良好である者について行う。

- (1) 勤務期間 20 年に達した者
- (2) 勤務期間 20 年以上の者で退職または転職した者
- (3) 図書館学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者

(表彰状の授与)

第 3 条 表彰は、協議会が別紙様式による表彰状を授与することによって行う。

2 第 2 条に該当する者については、前項の表彰状にあわせて記念品を贈呈することができる。

(被表彰者の選考)

第 4 条 表彰をうける者は、所属図書館長の推薦（別紙様式による）に基づき、表彰委員会が選考し、協議会の総会の承認を経て決定する。

(表彰委員会)

第5条 表彰委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された表彰委員館各1館で構成し、任期は1年として再任を妨げない。

(表彰の日)

第6条 表彰は、協議会の総会において行う。

(勤務期間の計算)

第7条 第2条第1号および第2号の勤務期間は、国公立大学図書館およびその他の図書館等に在職した期間とし、10年以上を加盟の大学図書館等に勤務したものでなければならない。

2 次の各号に掲げる期間は、勤務期間から除算する。

(1) 休職の期間（公傷病の期間は除く）

(2) 懲戒処分により停職された期間

(雑 則)

第8条 この規程に定めるもののほか、表彰の実施に関する必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年5月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月25日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月18日から施行する。

文書番号

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会幹事館

〇〇大学附属図書館長 殿

〇〇大学（附属）図書館長

〇 〇 〇 〇

## 平成 年度表彰者の推薦について

下記の者を本年度の総会における被表彰者として推薦しますのでよろしくお取り計らい願います。  
なお、別紙のとおり表彰者調書を提出します。





表彰状様式（1）第2条第1号および第2号該当者

## 表 彰 状

殿

あなたは 年のがい間大学図書館関係の業務に精励されその功労はまことに大きいものがあります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

---

表彰状様式（2）第2条第3号該当者

## 表 彰 状

殿

あなたは図書館学の研究調査に精励されその向上発展に貢献されたことはまことに顕著なものがあります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

## 研修会の補助に関する申合せ

平成 6 年 9 月 20 日 決定  
平成 7 年 9 月 1 日 改正  
平成 8 年 4 月 24 日 改正  
平成 9 年 4 月 25 日 改正  
平成 10 年 4 月 25 日 改正  
平成 15 年 4 月 25 日 改正  
平成 24 年 4 月 20 日 改正  
九州地区大学図書館協議会

地区の大学図書館活動を発展させるため、研修会、講演会等（以下「研修会」という。）の経費を補助する申合せ事項を次のとおり定める。

1. 研修会経費を補助する対象は、九州地区大学図書館協議会に加盟している大学図書館が主体となって構成する県又は地区単位の組織とし、別紙のとおりとする。
2. 補助する経費の金額は、年間 1 組織に対して 2 万円を限度とする。
3. 研修会に要する経費の補助を受けようとするときは、別記様式による申請書を幹事館に提出するものとする。
4. 経費の補助を受けた組織は、本協議会誌に活動報告を掲載するものとする。
5. 経費の支出は、積立金会計を適用する。
6. 新たな組織から経費の補助の申し出があったときは、総会において承認を得るものとする。
7. これに関する事務は、幹事館で行う。

## 別 紙

### 経費を補助する県又は地区単位の組織

1. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（北部地区）
2. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（福岡地区）
3. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（南部地区）
4. 長崎県大学図書館協議会
5. 熊本県大学図書館協議会
6. 大分県大学図書館協議会
7. 宮崎県大学図書館協議会
8. 鹿児島県大学図書館協議会
9. 沖縄県大学図書館協議会

別記様式

## 平成 年度九州地区大学図書館協議会・研修会経費補助申請書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会

幹事館 殿

組織名  
代表者  
(所属大学)

九州地区大学図書館協議会の研修会経費の補助を受けたく、下記のとおり申請します。

記

研 修 会 名 及 び 内 容	
開 催 期 間	自 平成 年 月 日 ( ) 時 分 至 平成 年 月 日 ( ) 時 分
開 催 場 所	
参 加 機 関 数	
参 加 人 数	
必 要 経 費 (具体的に)	ア. 講 師 謝 金 _____ イ. 資 料 代 金 _____ ウ. 会 場 借 上 費 _____ エ. そ の 他 _____ 合 計 _____
連 絡 担 当 者	氏 名 職 電 話

\* 研修内容は、大学図書館活動を促進させるテーマであること。



## 副幹事館の役割

平成10年 8月31日  
幹事館・副幹事館会議

- 1 通常時
  1. 年度の事業・活動についての立案・協議
  2. 所属部会との連絡調整と情報の提供
  3. 入会の勧誘等、協議会の広報（特に所属部会の各大学に対して）
  4. ホームページ充実のための提言案、意見具申
- 2 会誌発行時  
各部会から編集委員館は選出されているため、特に役割はないと思うが  
・所属部会の情報（研究発表等、原稿情報）の提供等
- 3 総会時
  1. 副議長職に館長を選出等、当番館及び幹事館と協力しての総会運営
  2. 前日決定された各部会における役員館の事務局への連絡
  3. 総会終了後、当番館作成の議事録の確認
- 4 その他  
別段ある場合は、適宜副幹事館から提案

## 九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について

平成10年 8月31日  
平成20年 1月30日改正  
幹事館・副幹事館会議

1. 九州地区大学図書館協議会ホームページ（以下、「ホームページ」という。）は、九州大学附属図書館のサーバに置く。  
(URL <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>)
2. ホームページの管理、維持（デザイン・構成を含む）は、九州地区大学図書館協議会事務局（以下、「事務局」という。）が行う。
3. ホームページに掲載する事項は当面以下のものを中心に構成するものとし、それぞれ以下の館が作成する。
  - ・トピックス&NEWS  
加盟館、各設置部会毎協議会、各県毎協議会等からの原稿に基づき事務局が作成  
総会議事録は総会当番館が原稿を作成

- ・加盟館一覧 事務局が作成
  - ・役員館一覧 事務局が作成
  - ・当番館一覧 事務局が作成
  - ・九州地区大学図書館協議会誌  
事務局が作成（論文等執筆者に対しては原稿依頼時にホームページ掲載方の承諾を得るものとする。）
  - ・地区内の図書館活動  
各設置部会毎の図書館協議会等及び各県毎協議会が作成
  - ・各種関連資料集 事務局が作成
  - ・関連サイトへのリンク集 事務局が作成
  - ・地区内各館の相互利用案内 各加盟館からの原稿に基づき事務局が作成
  - ・フォーラムページ  
協議会が設定するテーマに対する加盟館からの自由な意見・回答のページで、投稿は直接電子メールによる
4. 「3.」のほか、ホームページに文書・記事等の掲載を希望する副幹事館及び加盟館は、HTML 形式等で原稿を作成し、事務局に送付するものとする。
- 事務局は内容を確認のうえ、ホームページに掲載する。

# 九州地区大学図書館協議会加盟館一覧

27.1.1 現在

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号
国 立	九州工業大学 附属図書館 (館長 鶴田隆治, 図書館・情報推進課長 酒見史博)	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1の1	093-884-3072 (093-884-3075)
	福岡教育大学 学術情報センター図書館 (センター長 大坪靖直, 学術情報課長 栗林陸生)	811-4192	宗像市赤間文教町1番5号	0940-35-1268 (0940-35-1705)
	九州大学 附属図書館 (館長 宮本一夫, 事務部長 益森治巳)	812-8581	福岡市東区箱崎6丁目10の1	092-642-2325 (092-642-2330)
	佐賀大学 附属図書館 (館長 富田義典, 学術研究協力部長 寺田浩一)	840-8502	佐賀市本庄町1	0952-28-8902 (0952-28-8909)
	長崎大学 附属図書館 (館長 森 望, 学術情報部長 徳永哲郎)	852-8521	長崎市文教町1の14	095-819-2193 (095-819-2196)
	熊本大学 附属図書館 (館長 大熊 薫, 教育研究推進部長 山崎雅彦)	860-8555	熊本市中央区黒髪2丁目40の1	096-342-2213 (096-342-2210)
	大分大学 学術情報拠点 (拠点長 宮町良広, 研究・社会連携部長 原田道雄)	870-1192	大分市大字旦野原700	097-554-7482 (097-554-7488)
	宮崎大学 附属図書館 (館長 岩本俊孝, 情報図書部長 上村茂樹)	889-2192	宮崎市学園木花台西1丁目1	0985-58-7759 (0985-58-2896)
	鹿児島大学 附属図書館 (館長 野呂忠秀, 学術情報部長 渡邊俊彦)	890-0065	鹿児島市郡元1丁目21の35	099-285-7415 (099-285-7413)
	鹿屋体育大学 附属図書館 (館長 川西正志, 学術図書情報課長 山西秀幸)	891-2393	鹿屋市白水町1	0994-46-4874 (0994-46-4157)
	琉球大学 附属図書館 (館長 花城梨枝子, 事務部長 飯田昇平)	903-0214	中頭郡西原町字千原1	098-895-8153 (098-895-8154)
公 立	北九州市立大学 図書館 (館長 松尾太加志, 学術情報課長 江上照明)	802-8577	北九州市小倉南区北方4丁目2の1	093-964-4404 (093-964-4437)
	九州歯科大学 附属図書館 (館長 鱒見進一, 学務部長 赤嶺勇司)	803-8580	北九州市小倉北区真鶴2丁目6の1	093-582-1131 (093-583-7388)
	北九州学術研究都市 学術情報センター (学術情報担当部長 都築信男, 学術情報担当課長 竹下誠次)	808-0135	北九州市若松区ひびきの1番3号	093-695-3150 (093-695-3152)
	福岡女子大学 学術情報センター(図書館) (館長 月野文子, 経営管理部長 今田 今朝仁)	813-8529	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1の1	092-661-2411 (092-661-2416)
	福岡県立大学 附属図書館 (館長 細井 勇, 学務部長 猪口憲行)	825-8585	田川市伊田4395	0947-42-1760 (0947-42-9457)
	長崎県立大学 附属図書館 (館長 松本幸子, 佐世保校館長 柳田芳伸, 佐世保校図書館課長 柴田昌造, シーボルト校図書館課長 濱口 孝)	858-8580	佐世保市川下町123	0956-47-5958 (0956-26-2100)
	熊本県立大学 学術情報メディアセンター (センター長 半藤英明, 事務長 野尻洋一)	862-8502	熊本市東区月出3丁目1番100号	096-321-6614 (096-383-2999)
	大分県立芸術文化短期大学 附属図書館 (館長 根之木英二, 企画情報課長 三好民郎)	870-0833	大分市上野丘東1の11	097-545-4235 (097-545-4235)
	大分県立看護科学大学 附属図書館 (館長 市瀬孝道, 総務グループリーダー 朝倉泰三)	870-1201	大分市大字廻栖野2944-9	097-586-4330 (097-586-4373)
	宮崎公立大学 附属図書館 (館長 山口裕司, 事務長 伊豆真一)	880-8520	宮崎市船塚1丁目1番地2	0985-20-4814 (0985-20-4806)
	宮崎県立看護大学 附属図書館 (館長 串間敦郎, 総務課長 古場昭良)	880-0929	宮崎市まなび野3-5-1	0985-59-7756 (0985-59-7773)
鹿児島県立短期大学 附属図書館 (館長 木戸裕子, 副館長 山之内俊文)	890-0005	鹿児島市下伊敷1丁目52番1号	099-803-4475 (099-803-4473)	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号
公立	沖縄県立看護大学 附属図書館 (館長 神里みどり, 主査 美里敏則)	902-8513	那覇市与儀1-24-1	098-833-8806 (098-833-5134)
	沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館 (館長 島袋君子, 主任 小川浩幸)	903-8602	那覇市首里当蔵町1-4	098-882-5038 (098-882-5068)
	名桜大学 附属図書館 (館長 住江淳司, 図書課参与 又吉 純)	905-8585	沖縄県名護市字為又1220-1	0980-51-1062 (0980-51-1065)
私立	西日本工業大学 図書館 (館長 大木正彦, 事務部長 山崎倫明)	800-0394	福岡県京都郡苅田町新津1-11	0930-23-7729 (0930-24-7900)
	西南女学院大学 図書館 (館長 甲斐達男, 課長 西川 忍)	803-0835	北九州市小倉北区井堀1丁目3の5	093-583-5959 (093-592-1885)
	九州国際大学 図書館 (館長 島浦一博, 事務室長 増田恵次郎)	805-8512	北九州市八幡東区平野1丁目6の1	093-671-8919 (093-671-8920)
	九州共立大学 附属図書館 (館長 松田高史, 業務課長 岡部憲宗)	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	093-693-3036 (093-603-2260)
	九州女子大学・短期大学 附属図書館 (館長 青山優子, 業務課長 松尾伸二)	807-8586	北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	093-693-3124 (093-603-0494)
	福岡工業大学 附属図書館 (館長 阿山光利, 事務長 中島良二)	811-0295	福岡市東区和白東3-30-1	092-606-0691 (092-606-7389)
	福岡女学院大学 図書館 (館長 二階堂 整, 課長 原 修一)	811-1313	福岡市南区日佐3丁目42の1	092-575-6402 (092-575-4605)
	九州産業大学 図書館 (館長 渡邊雄二, 事務部長 中尾和弘)	813-8503	福岡市東区松香台2丁目3の1	092-673-5382 (092-673-5999)
	福岡大学 図書館 (館長 則松彰文, 事務部長 井口紀子)	814-0180	福岡市城南区七隈8丁目19の1	092-871-6631 (092-865-3794)
	中村学園大学 図書館 (館長 島内博行, 図書課長 辻原陽一)	814-0198	福岡市城南区別府5丁目7の1	092-851-2573 (092-841-7762)
	西南学院大学 図書館 (館長 後藤新治, 事務部長 岩佐俊司)	814-8511	福岡市早良区西新6丁目2の92	092-823-3426 (092-823-3480)
	純真学園大学 図書館 (館長 上松弘明, 司書 中村 綾)	815-8510	福岡市南区筑紫丘1丁目1番1号	092-541-1527 (092-541-1542)
	第一薬科大学 図書館 (館長 原口 浩一, 職員 原 直好)	815-8511	福岡市南区玉川町22の1	092-541-0161 (092-542-9776)
	九州情報大学 附属図書館 (館長 南 俊朗, 図書館司書 藤 理恵子)	818-0117	太宰府市宰府6丁目3番1号	092-928-4000 (092-928-3200)
	筑紫女学園大学・短期大学部 附属図書館 (館長 大津忠彦, 課長 山中優子)	818-0192	太宰府市石坂2丁目12の1	092-925-9910 (092-925-3318)
	福岡国際大学・福岡女子短期大学 図書館 (館長 鈴木敏英, 課長 大橋祐子)	818-0193	太宰府市五条4丁目16-1	092-922-3604 (092-922-3596)
	久留米工業大学学術情報センター (館長 森 和典, 事務室長 小林敬二)	830-0052	久留米市上津町2228-66	0942-22-2345 (0942-22-2385)
	聖マリア学院大学 図書館 (館長 井手 信, 司書 山口真由美)	830-8558	久留米市津福本町422番地	0942-37-1138 (0942-37-1138)
	久留米大学 附属図書館 (館長 石川捷治, 課長 熊谷まゆみ)	839-8502	久留米市御井町1635	0942-44-4015 (0942-43-0348)
	保健医療経営大学 情報メディアセンター図書館 (センター長 川島秀樹, 図書係 古澤亜紀)	835-0018	みやま市瀬高町高柳960-5	0944-67-7007 (0944-63-3003)
国際医療福祉大学 九州地区キャンパス図書館 (館長 藤城直二, 事務担当 長野弘毅)	831-8501	大川市榎津137-1	0944-89-2143 (0944-86-6000)	
西九州大学 附属図書館 (館長 進藤直文, 課長 中島哲男)	842-8585	神崎市神崎町尾崎4490-9	0952-37-9299 (0952-53-7869)	
活水女子大学 図書館 (館長 高橋敬一, 課長 森 茂樹)	850-8515	長崎市東山手町1の50	095-822-4107 (095-823-3701)	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号	
私	長崎総合科学大学 附属図書館 (館長 プライアン・F・パークガフニ, 図書課長 山川邦子)	851-0193	長崎市網場町536	095-838-5142 (095-838-2072)	
	長崎外国語大学 教育研究メディアセンター (センター長 マラ クラウディア, 事務室長補佐 別所佐和子)	851-2196	長崎市横尾3-15-1	095-840-2005 (095-840-2205)	
	長崎純心大学 早坂記念図書館 (館長 田中芳彦, 事務室長 岩崎由希子)	852-8558	長崎市三ツ山町235	095-846-0084 (095-845-4279)	
	長崎ウエスレヤン大学 附属図書館 (館長 菅原良子, 司書 植松久子)	854-0082	諫早市西栄田町1212-1	0957-26-8203 (0957-26-0244)	
	長崎国際大学 図書館 (館長 山本経之, 図書課長 飯島芳典)	859-3298	佐世保市ハウステンボス町2825-7	0956-20-5560 (0956-39-4894)	
	崇城大学 図書館 (館長 井芹浩文, 課長 原 みゆき)	860-0082	熊本市西区池田4丁目22の1	096-326-3419 (096-359-3002)	
	九州ルーテル学院大学 図書館 (館長 三城大介, 課長 坂本美樹)	860-8520	熊本市中央区黒髪3丁目12-16	096-343-2494 (096-343-0354)	
	熊本学園大学 付属図書館 (館長 堀 正広, 図書情報課長 津村秀夫)	862-8680	熊本市中央区大江2丁目5の1	096-364-5161 (096-362-5967)	
	東海大学 付属図書館 熊本・阿蘇図書館 (館長 岩橋正國(熊本), 梶田聖孝(阿蘇))	862-8652	熊本市東区渡鹿9-1-1	096-386-2634(熊本) 0967-67-3907(阿蘇)	
	熊本保健科学大学 附属図書館 (館長 岡部由紀子, 司書 山崎栄子)	861-5598	熊本市北区和泉町325	096-275-2264 (096-275-2265)	
	九州看護福祉大学 附属図書館 (館長 熊本俊秀, 学術資料係長 福本直子)	865-0062	玉名市富尾888	0968-75-1840 (0968-75-1873)	
	日本文理大学 図書館 (館長 市川芳郎, 課長補佐 小平正典)	870-0397	大分市大字一木1727	097-524-2711 (097-593-5166)	
	立命館アジア太平洋大学 ライブラリー (総合情報センター長 ROSE John A. アカデミック・オフィス課長 大澤芳樹)	874-8577	別府市十文字原1-1	0977-78-1140 (0977-78-1141)	
	別府大学 附属図書館 (館長 佐藤瑠威, 事務長 平野純治)	874-8501	別府市大字北石垣82	0977-66-9633 (0977-66-9632)	
	九州保健福祉大学 附属図書館 (館長 倉内 紀子, 主任 内田ゆかり)	882-8508	延岡市吉野町1714-1	0982-23-5562 (0982-23-5560)	
	宮崎産業経営大学 附属図書館 (館長 田代裕子, 課長 宮下猛美)	880-0931	宮崎市古城町丸尾100	0985-52-3205 (0985-50-4699)	
	南九州大学・南九州短期大学 図書館 (館長 坂巻嘉孝, 学務部長 中村 稔)	880-0032	宮崎市霧島5-1-2	0985-83-3430 (0985-83-3431)	
	立	宮崎学園 図書館 (宮崎国際大学・宮崎学園短期大学) (館長 菅 邦男, 図書課長 小橋智子)	889-1605	宮崎市清武町加納丙1415	0985-85-1410 (0985-85-8189)
		鹿児島国際大学 附属図書館 (館長 吉田春生, 図書課長 小林和代)	891-0197	鹿児島市坂之上8-34-1	099-263-0732 (099-261-1198)
		鹿児島純心女子大学 附属図書館 (館長 三間晶生, 図書課長 森山 学)	895-0011	薩摩川内市天辰町2365	0996-23-5311 (0996-23-5030)
志学館大学 図書館 (館長 松田君彦, 課長代理 内村勇蔵)		890-8504	鹿児島市紫原一丁目59-1	099-812-8509 (099-257-0308)	
沖縄国際大学 図書館 (館長 新垣勝弘, 課長 新里克也)		901-2701	宜野湾市宜野湾2丁目6番1号	098-892-1111 (098-893-3274)	
沖縄大学 図書館 (館長 デイリース・チャンドラール, 事務長 糸数 晃)		902-8521	那覇市宇国場555	098-832-5577 (098-834-1127)	
沖縄キリスト教学院 図書館 (館長 内間清晴, 課長 仲間末美)		903-0207	沖縄県中頭郡西原町字翁長777	098-946-1236 (098-946-1237)	
沖縄科学技術大学院大学 図書館 (館長 ジョージ・イワマ, 司書 上原藤子)		904-0495	沖縄県国頭郡恩納村字茶谷1919-1	098-966-8436 (098-966-8817)	



	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ( )内はFAX番号
私立 短大	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 図書館 (館長 山田千秋, 図書課長 小林由憲)	803-8511	北九州市小倉北区下到尾津5の1の1	093-561-3541 (093-592-6184)
	東九州短期大学 図書館 (館長 有吉英樹, 司書 釘丸知子)	871-0014	中津市大字一ツ松211	0979-22-2425 (0979-25-3935)
	鹿児島女子短期大学 附属図書館 (館長 古川恵子, 課長 南谷 久)	890-8565	鹿児島市高麗町6-9	099-254-9195 (099-254-5914)
	鹿児島純心女子短期大学 図書館 (館長 三島盛武, 課長 西 眞知子)	890-8525	鹿児島市唐湊4丁目22の1	099-253-2677 (099-254-5247)

## 九州地区大学図書館協議会役員館一覧

年次 (回数)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和48年度 (24)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	福岡教育大学 長崎国際経済大学 福岡大学	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	
昭和49年度 (25)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	九州工業大学 長崎国際経済大学 西南大学	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 福岡大学	
昭和50年度 (26)	九州大学	西南大学	国 公 私	佐賀大学 北九州大学 久留米大学	長崎大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和51年度 (27)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 九州歯科大学 久留米大学	大分大学 長崎国際経済大学 西南大学	
昭和52年度 (28)	九州大学	福岡大学	国 公 私	福岡教育大学 福岡女子大学 西南大学	鹿児島大学 熊本女子大学 九州産業大学	
昭和53年度 (29)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	九州芸術工科大学 長崎国際経済大学 久留米大学	
昭和54年度 (30)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 北九州大学 九州産業大学	佐賀大学 九州歯科大学 久留米大学	
昭和55年度 (31)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎大学 福岡社会保育短大 西南大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和56年度 (32)	九州大学	西南大学	国 公 私	福岡教育大学 熊本女子大学 九州産業大学	熊本大学 鹿児島県立短大 福岡大学	
昭和57年度 (33)	九州大学	福岡大学	国 公 私	長崎大学 北九州大学 八幡大学	鹿児島大学 福岡女子大学 熊本商科大学	
昭和58年度 (34)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	琉球大学 福岡社会保育短大 鹿児島経済大学	宮崎医科大学 鹿児島県立短大 八幡大学	
昭和59年度 (35)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 中村学園大学	大分医科大学 長崎県立女子短大 西日本工業大学	
昭和60年度 (36)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	宮崎大学 熊本女子大学 鹿児島経済大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 西日本工業大学	
昭和61年度 (37)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	熊本大学 北九州大学 長崎総合科学大学	大分大学 福岡社会保育短大 第一薬科大学	
昭和62年度 (38)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	宮崎医科大学 福岡女子大学 九州東海大学	大分医科大学 九州歯科大学 沖縄国際大学	

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和63年度 (39)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 福岡大学	琉球大学 鹿児島県立短期大学 八幡大学	
平成元年度 (40)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 長崎県立女子短期大学 西南大学	佐賀大学 熊本女子大学 中村学園大学	
平成2年度 (41)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	福岡教育大学 北九州大学 九州産業大学	長崎大学 大分県立芸術文化短期大学 熊本商科大学	九州大学 大分医科大学 福岡女子大学 福岡大学 福岡女子短期大学
平成3年度 (42)	九州大学	福岡大学	国 公 私	九州工業大学 福岡県社会保育短期大学 久留米大学	鹿児島大学 長崎県立大学 西日本工業大学	九州大学 鹿屋体育大学 九州歯科大学 中村学園大学 筑紫女学園短期大学
平成4年度 (43)	九州大学	福岡女子短期大学	国 公 私	宮崎大学 福岡女子大学 鹿児島経済大学	大分大学 九州歯科大学 活水女子大学	九州大学 福岡教育大学 北九州大学 九州国際大学 東筑紫短期大学
平成5年度 (44)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎医科大学 熊本女子大学 活水女子大学	大分医科大学 鹿児島県立短期大学 鹿児島経済大学	九州大学 熊本大学 福岡女子大学 西南学院大学 筑紫女学園短期大学
平成6年度 (45)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	熊本大学 大分県立芸術文化短期大学 活水女子大学	佐賀医科大学 宮崎公立大学 鹿児島経済大学	九州大学 宮崎大学 福岡県立大学 九州産業大学 筑紫女学園短期大学
平成7年度 (46)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	鹿屋体育大学 北九州大学 第一薬科大学	琉球大学 長崎県立大学 南九州大学	九州大学 九州工業大学 九州歯科大学 久留米大学 筑紫女学園短期大学
平成8年度 (47)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州東海大学	佐賀大学 九州歯科大学 熊本学園大学	九州大学 大分大学 北九州大学 九州共立大学 西南女学院短期大学
平成9年度 (48)	九州大学	福岡教育大学	国 公 私	九州工業大学 熊本県立大学 九州女子大学	宮崎大学 鹿児島県立短期大学 久留米工業大学	九州大学 佐賀大学 九州歯科大学 福岡大学 西南女学院短期大学

年次 (回数)	幹事館	副 幹 事 館		監 査 館	表彰委員館	編集委員館
平成10年度 (49)	九州大学	国 公 私 短	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州国際大学 中九州短期大学	中村学園大学	福岡教育大学 長崎大学 福岡県立大学 長崎県立女子短期大学 西日本工業大学 筑紫女学園大	九州大学 佐賀医科大学 福岡女子大学 第一薬科大学 福岡国際大学・福岡女子短期大学
平成11年度 (50)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島経済大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡大学	鹿児島大学 大分県立芸術文化短期大学 別府大学 中九州短期大学	九州大学 佐賀大学 長崎大学 福岡県立大学 熊本工業大学 福岡国際大学・福岡女子短期大学
平成12年度 (51)	九州大学	国 公 私 短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島国際大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡女子大学	大分大学 宮崎県立大学 宮崎国際大学 中九州短期大	九州大学 沖縄国際大学 宮崎医科大学 北九州大学 西南女学院大学 福岡国際大学・福岡女子短期大学
平成13年度 (52)	九州大学	国 公 私 短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡教育大学	宮崎医科大学 北九州市立大学 筑紫女学園大学 沖縄キリスト教短期大学	鹿児島大学 九州歯科大学 西九州大学 活水女子短期大学 九州大学 九州女子大学
平成14年度 (53)	九州大学	国 公 私 短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡工業大学	大分医科大学 熊本県立大学 九州情報大学 九州大谷短期大学	琉球大学 福岡県立大学 鹿児島純心女子大学 活水女子短期大学 九州大学 大分大学
平成15年度 (54)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	筑紫女学園大 学・短期大学	鹿屋体育大学 宮崎県立看護大学 九州ルーテル学院大学 筑紫女学園大学・短期大学	九州工業大学 福岡女子大学 九州看護福祉大学 西南女学院大学・短期大学 九州大学 宮崎大学
平成16年度 (55)	九州大学	国 公 私 短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	西南学院大学	熊本大学 福岡女子大学 志學館大学 東九州女子短期大学	福岡教育大学 九州歯科大学 南九州大学・南九州短期大学 西南女学院大学・短期大学
平成17年度 (56)	九州大学	国 公 私 短	長崎大学 熊本県立大学 九州東海大学 鹿児島純心女子短期大学	九州産業大学	琉球大学 沖縄県立看護大学 西南女学院大学 鹿児島純心女子短期大学	熊本大学 北九州市立大学 西日本工業大学 鹿児島純心女子短期大学
平成18年度 (57)	九州大学	国 公 私 短	長崎大学 熊本県立大学 九州東海大学 鹿児島純心女子短期大学	福岡国際大学・ 福岡女子短期大学	佐賀大学 鹿児島県立短期大学 福岡女学院大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	鹿屋体育大学 福岡県立大学 筑紫女学園大学・短期大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学

年次 (回次)	幹事館	副 幹 事 館		監 査 館	表彰委員館	編集委員館
平成19年度 (58)	九州大学	国 公 私 短	熊 本 大 学 宮 崎 県 立 看 護 大 学 福 岡 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	中村学園大学	九州工業大学 九州歯科大学 久留米工業大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	福岡教育大学 福岡女子大学 九州女子大学・短期大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
平成20年度 (59)	九州大学	国 公 私 短	熊 本 大 学 宮 崎 県 立 看 護 大 学 福 岡 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	福岡教育大学	宮 崎 大 学 大分県立看護科学大学 別 府 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	長 崎 大 学 九州歯科大学 鹿児島国際大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
平成21年度 (60)	九州大学	国 公 私 短	大 分 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 産 業 大 学 九州大谷短期大学	福岡女子大学	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡国際大学・福岡女子短期大学 鹿児島女子短期大学	鹿児島大学 北九州市立大学 西南女学院大学 中九州短期大学
平成22年度 (61)	九州大学	国 公 私 短	大 分 大 学 福 岡 県 立 大 学 九 州 産 業 大 学 九州大谷短期大学	福岡大学	長 崎 大 学 福岡女子大学 鹿児島純心女子大学 鹿児島女子短期大学	九州工業大学 北九州学術研究都市学術情報センター 活水女子大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
平成23年度 (62)	九州大学	国 公 私 短	宮 崎 大 学 長 崎 県 立 大 学 熊 本 学 園 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	福岡工業大学	鹿児島大学 大分県立芸術文化短期大学 福岡女学院大学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	佐 賀 大 学 福岡県立大学 九州国際大学 九州大谷短期大学
平成24年度 (63)	九州大学	国 公 私 短	宮 崎 大 学 長 崎 県 立 大 学 熊 本 学 園 大 学 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学	筑紫女学園大学・短期大学	大 分 大 学 沖繩県立看護大学 九州東海大学 九州大谷短期大学	琉球大学 福岡女子大学 沖繩国際大学 鹿児島女子短期大学
平成25年度 (64)	九州大学	国 公 私 短	鹿 児 島 大 学 鹿 児 島 県 立 短 期 大 学 久 留 米 大 学 鹿児島女子短期大学	西南学院大学	鹿屋体育大学 北九州市立大学 九州共立大学 鹿児島純心女子短期大学	宮 崎 大 学 九州歯科大学 聖マリア学院大学 鹿児島純心女子短期大学
平成26年度 (65)	九州大学	国 公 私 短	鹿 児 島 大 学 鹿 児 島 県 立 短 期 大 学 久 留 米 大 学 鹿児島女子短期大学	九州産業大学	熊 本 大 学 熊 本 県 立 大 学 九州保健福祉大学 東九州短期大学	大 分 大 学 北九州市立大学 西九州大学 東九州短期大学
平成27年度 (66)		国 公 私 短				



## 九州地区大学図書館協議会総会当番館一覧

回次	年度	県別	大 学
1	25	福 岡	九 州 大 学
2	26	熊 本	熊 本 大 学
3	27	長 崎	長 崎 大 学
4	28	佐 賀	佐 賀 大 学
5	29	鹿児島	鹿 児 島 大 学
6	30	宮 崎	宮 崎 大 学
7	31	大 分	大 分 大 学
8	32	福 岡	西 南 学 院 大 学
9	33	福 岡	九 州 大 学
10	34	熊 本	熊 本 大 学
11	35	福 岡	九 州 工 業 大 学
12	36	長 崎	長 崎 大 学
13	37	福 岡	福 岡 大 学
14	38	佐 賀	佐 賀 大 学
15	39	福 岡	福 岡 教 育 大 学
16	40	宮 崎	宮 崎 大 学
17	41	福 岡	八 幡 大 学
18	42	鹿児島	鹿 児 島 大 学
19	43	福 岡	九 州 大 学
20	44	熊 本	熊 本 商 科 大 学
21	45	福 岡	久 留 米 大 学
22	46	大 分	大 分 大 学
23	47	福 岡	北 九 州 大 学
24	48	長 崎	長 崎 大 学
25	49	福 岡	九 州 産 業 大 学
26	50	佐 賀	佐 賀 大 学
		”	佐 賀 龍 谷 短 期 大 学
27	51	沖 縄	琉 球 大 学
28	52	福 岡	九 州 大 学
29	53	大 分	大 分 大 学
30	54	宮 崎	宮 崎 大 学
31	55	福 岡	九 州 歯 科 大 学
		”	福 岡 女 子 大 学
		”	福 岡 県 社 会 保 険 短 期 大 学
32	56	熊 本	熊 本 女 子 大 学
33	57	鹿児島	鹿 児 島 大 学
		”	鹿 児 島 県 立 短 期 大 学
		”	鹿 児 島 経 済 大 学

回次	年度	県別	大 学
34	58	福 岡	西 日 本 工 業 大 学
35	59	長 崎	長 崎 大 学
36	60	宮 崎	宮 崎 医 科 大 学
		大 分	大 分 県 立 芸 術 短 期 大 学
		宮 崎	南 九 州 大 学
		長 崎	純 心 女 子 短 期 大 学
37	61	福 岡	九 州 芸 術 工 科 大 学
38	62	佐 賀	佐 賀 医 科 大 学
39	63	沖 縄	琉 球 大 学
40	平成元	福 岡	北 九 州 大 学
41	2	大 分	大 分 医 科 大 学
42	3	鹿児島	鹿 屋 体 育 大 学
43	4	福 岡	西 南 学 院 大 学
44	5	熊 本	九 州 東 海 大 学
45	6	宮 崎	宮 崎 産 業 経 営 大 学
46	7	福 岡	九 州 工 業 大 学
47	8	長 崎	長 崎 大 学
48	9	鹿児島	鹿 児 島 経 済 大 学
49	10	福 岡	福 岡 女 子 大 学
50	11	佐 賀	佐 賀 大 学
51	12	沖 縄	沖 縄 国 際 大 学
52	13	福 岡	九 州 女 子 大 学
53	14	大 分	大 分 大 学
54	15	宮 崎	宮 崎 大 学
55	16	福 岡	福 岡 教 育 大 学
56	17	熊 本	熊 本 大 学
57	18	鹿児島	鹿 屋 体 育 大 学
58	19	福 岡	九 州 大 学
59	20	長 崎	長 崎 大 学
60	21	沖 縄	琉 球 大 学
61	22	福 岡	福 岡 県 立 大 学
		”	九 州 歯 科 大 学
		”	北九州学術研究都市 (学術情報センター)
62	23	佐 賀	佐 賀 大 学
63	24	鹿児島	鹿 児 島 大 学
64	25	福 岡	福 岡 教 育 大 学
65	26	大 分	大 分 大 学 学 術 情 報 拠 点
66	27	宮 崎	宮 崎 大 学

伊藤伊の **ここが違う!**

# スチール製ブックトラック

## 完全溶接止め

ノックダウン（組立方式）と違い、ビスを使わないので大変丈夫です。また、ビスの所の隙間がないので本体がグラグラしたり、ビスが緩んだりする心配がありません。

## 安全で握りやすい 完全丸パイプ

角を丸くし、お子様にも安全な設計になっています。

## 安全な丸加工の棚板

棚板も安全な丸加工。

## 余裕の耐荷重と十分な 静音性

積載量に対して余裕を持った耐荷重のキャスターを採用。強度抜群のスチールホイールと走行音の静かなゴム車を使用しています。

## ガード付



小型ブックトラック 水平 2段  
7425 | ￥42,000 (税抜き) W465×D320×H840



ブックトラックB型 水平 3段  
7417 | ￥56,000 (税抜き) W800×D350×H970



ブックトラックC型 水平 3段  
7405 | ￥80,000 (税抜き) W800×D430×H1070

他にも、スチール製カラーや、木製ブックトラック等、豊富なラインナップ!



小型ブックトラック 傾斜片面 2段  
7426 | ￥47,400 (税抜き) W550×D340×H965



小型ブックトラックS型 傾斜片面 2段  
7498 | ￥34,000 (税抜き) W550×D340×H940



ブックトラックA型 傾斜片面 3段  
7416 | ￥61,000 (税抜き) W700×D340×H1166



ブックトラックY型 傾斜片面 4段  
7410 | ￥68,000 (税抜き) W700×D340×H1166



ブックトラックH型 傾斜両面 3段  
7406 | ￥80,000 (税抜き) W700×D470×H1070



ブックトラックM型 傾斜両面 3段  
7408 | ￥92,000 (税抜き) W700×D520×H1070



ブックトラックD型 水平 1段 + 傾斜両面 2段  
3409 | ￥68,000 (税抜き) W700×D470×H1070



株式会社 伊藤伊

〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-10  
TEL (03)5689-6230(代) FAX (03)5689-6232

九州・山口地区 代理店 TEL (092) 863-0128  
(L・キスト) FAX (092) 863-0127



木の風合いとメタル素材の組合せが、スタイリッシュな書架空間を演出。  
照明の工夫により、ラウンジのような居心地の良さ  
「思考」の場に相応しい静かで落ち着きがあるスペースを実現します。

# A space that nurtures curiosity.

## 知的好奇心を育む、空間。

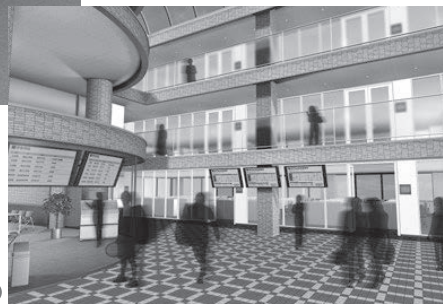
歴史的文献からデジタルコンテンツまで多様な「知識」が集積する図書館は  
さまざまな知識との出会いが利用者の好奇心を満たし、  
そこに集う人々との出会いと交流が、新たな価値と創造を生み出す場所です。  
地域社会や教育施設など、コミュニティの中の情報発信基地として、  
知識や情報とふれあい、豊かな創造性を育む学びの場であるために。  
イトーキは、空間コンセプトに最適な家具のあり方を通して  
知識と人、人と人との交流を演出する図書館空間づくりを総合的にご提案します。



Smart Style I



LANShēet®  
LANシード(二次元LANシステム)



学内インフォメーションシステム



# NALIS

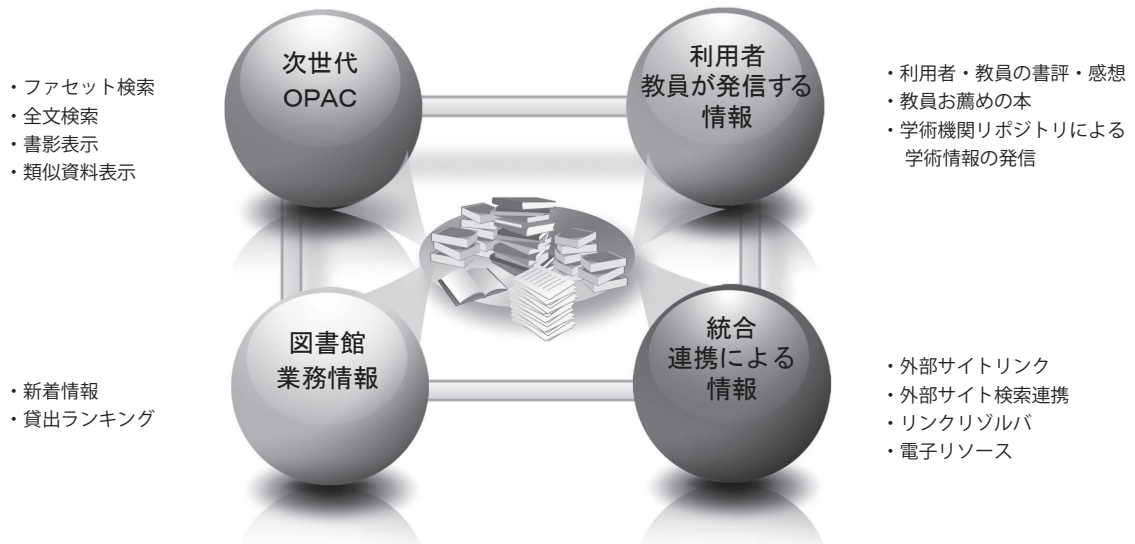
NTT Data  
Global IT Innovator

図書館の全業務をカバーする  
「図書館総合システム」  
規模や運用に応じて、  
柔軟かつ拡張性に優れた構成が可能です。

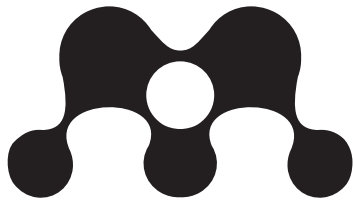
## 利用者の資料入手を強力にサポート



NALISは『次世代OPAC』、『利用者・教員が発信する情報』、『図書館業務情報』、『統合・連携による情報』の4つを柱として利用者を強力にサポートします。

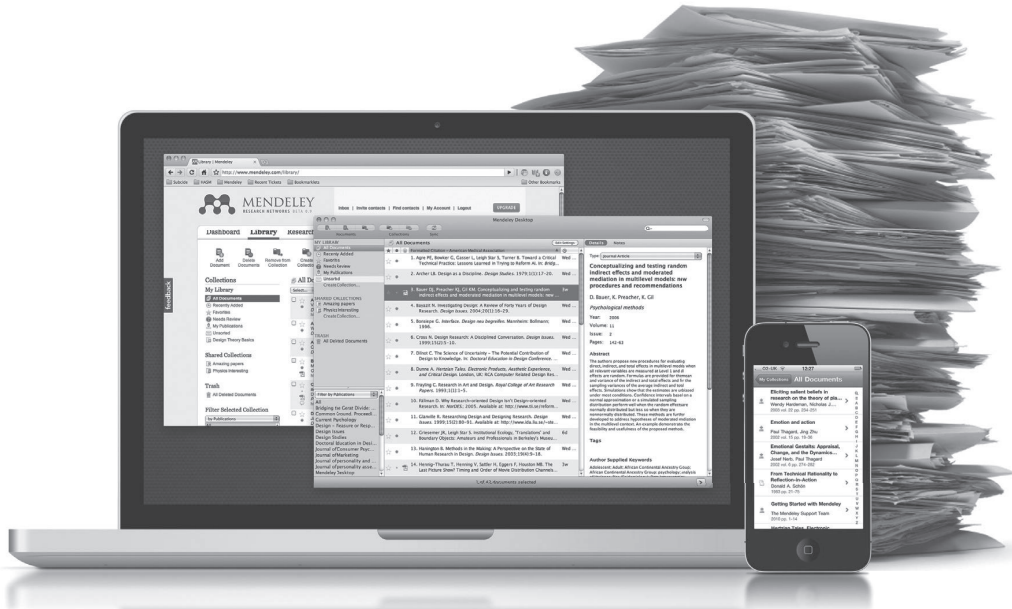


お問い合わせ・ご相談は下記までどうぞ  
株式会社 NTT データ九州  
公共基盤事業部 文教ビジネス部 営業担当  
Tel : 092-475-5145 Fax:092-475-5152  
HP: www.nttdata-kyushu.co.jp



# MENDELEY

## Mendeley: 無料の文献管理ツール&ソーシャルネットワークツール



### Organise. Collaborate. Discover.

## www.mendeley.com

Mendeley (メンデレー) は、学術論文の管理とオンラインでの情報共有を目的とした無料の文献管理ツールです。

Windows・Mac・Linuxに対応するデスクトップ版と、

いつでもどこでも使えるウェブ版を組み合わせ使用できます。

iOS (iPhone・iPad) にも対応、世界で290万人以上が利用しています。

- ライブラリに追加したPDFから書誌情報を自動的に抽出
- Web Importerで各種データベースから文献を直接インポート
- ScienceDirectとScopusからダイレクトエクスポート
- 強力なファイル管理機能
- ハイライト、注釈機能を備えたPDFビューア
- Wordへの参考文献の挿入も簡単
- グループ機能で他の研究者と文献を共有
- 個人プロフィールの公開



**エルゼビア・ジャパン株式会社**

〒106-0044 東京都港区東麻布1-9-15 東麻布一丁目ビル4階  
TEL: 03-5561-5034 E-mail: jp.pr@elsevier.com  
<http://www.elsevier.com/jp/mendeley>



MENDELEY



# 私たちは地震と共存しています

## 免震書架 **MENSIN** **免震**

特長

- 1 図書の落下や書架の倒壊を防ぎ、**利用者を守ります。**
- 2 書架通路への落下物散乱を防ぎ、**避難通路を確保します。**
- 3 図書の落下による破損を防ぎ、**図書館の財産を守ります。**
- 4 復旧コストを軽減でき、**早期開館が可能となります。**
- 5 天ツナギをなくして、**開放感のある快適空間を演出します。**



空間をデザインする  
**KONGO**  
www.kongo-corp.co.jp

金剛株式会社

■熊本本社・工場 / 熊本市西区上熊本3丁目8-1

TEL096-355-1111(大代)

■福岡支店 / 福岡市東区名島3丁目2-10

TEL092-681-6286(代)

■支店・営業所 / 仙台・東京・名古屋・静岡・金沢・大阪・岡山・広島・高松・北九州・大分・佐賀・長崎・八代・天草・鹿児島・宮崎・沖縄



電子ジャーナルホスティングサイト

# PierOnline ピアオンライン

PierOnlineは国内の学術出版社が発行する医学・薬学・看護学の学術誌を電子ジャーナルとして提供するホスティングサイトです。ご利用は、提供される電子ジャーナル1誌ごとに年間購読が可能です。冊子体(本誌)の非購読者は論文単位でのPayPerViewで購読が可能です。

## 「外科」「内科」「整形外科」「別冊整形外科」「胸部外科」がセットになった「南江堂オンラインJournal」に「がん看護」が追加されました!



### 「南江堂オンライン Journal」の特長

- ・エンバロゴはありません。いつでも最新号から閲覧できます。
- ・増刊号や増大号ももれなく閲覧できます。
- ・同時アクセスは無制限です。複数人が同時に利用することができます。
- ・写真や図も大変鮮明にご覧いただけます。
- ・全文検索により、もれの無い検索を実現。
- ・気になった論文をブックマークして、好きな時に簡単に閲覧できます。

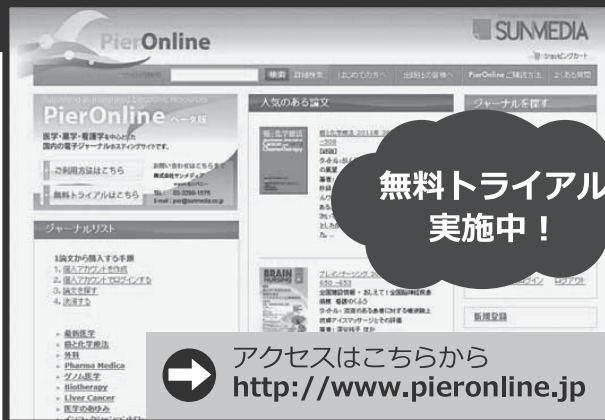
### 充実したバックナンバー

ご契約と同時に、PierOnlineに収録されている南江堂オンライン Journalのバックナンバー全てが閲覧可能となります。「外科」、「内科」、「整形外科」、は2001年から、「別冊整形外科」は2000年から、「胸部外科」は2004年から、「がん看護」は1996年(創刊号)からご覧いただけます。

※南江堂オンライン Journalは6誌セットでのご契約となります

### 便利な機能

- **検索機能の強化**  
複数の雑誌を一度にまとめて検索することができます。複数キーワードによるAND/OR検索をしたり、購読している雑誌のみに限定したりすることができ、効率的でもれのない検索ができます。
- **RefWorks ダイレクトエクスポート**  
簡単に書誌情報をRefWorksにエクスポートすることができます。
- **お気に入りリスト**  
気になった論文はワンクリックでお気に入りリストに保存しておくことができます。
- **検索条件の保存**  
よく検索するキーワードは、検索条件を保存しておくことで簡単に再検索できます。
- **人気論文のランキング表示**  
アクセスの多い論文をランキング形式で表示しますので、どんな論文が注目されているのかすぐに把握できます。



無料トライアル実施中!

アクセスはこちらから  
<http://www.pieronline.jp>

- **Open URL に対応**  
二次資料データベース (PubMed、医中誌Web、JDreamⅢなど) とのリンク、リンクリゾルバからの直接リンクが可能です。
- **英語インターフェース**  
英語と日本語で表示を切り替えることができます。

### 価値ある 49 誌を収録

★癌と化学療法社「癌と化学療法」「Liver Cancer」「Biotherapy」★最新医学社「最新医学」★メディカルレビュー社「ゲノム医学」「Pharma Medica」★医歯薬出版「医学のあゆみ」★ライフサイエンス出版「Therapeutic Research」「薬理と治療」「治療学」★メディカ出版「インфекションコントロール」「エマージェンシー・ケア」「オペナリング」「サーキュレーション・アップ・トゥ・デート」「ナーシングビジネス」「ニュートリションケア」…その他、価値ある雑誌が多数収録されています!

### お問い合わせ先



株式会社サンメディア e-Port カンパニー e-mail : e-port@sunmedia.co.jp

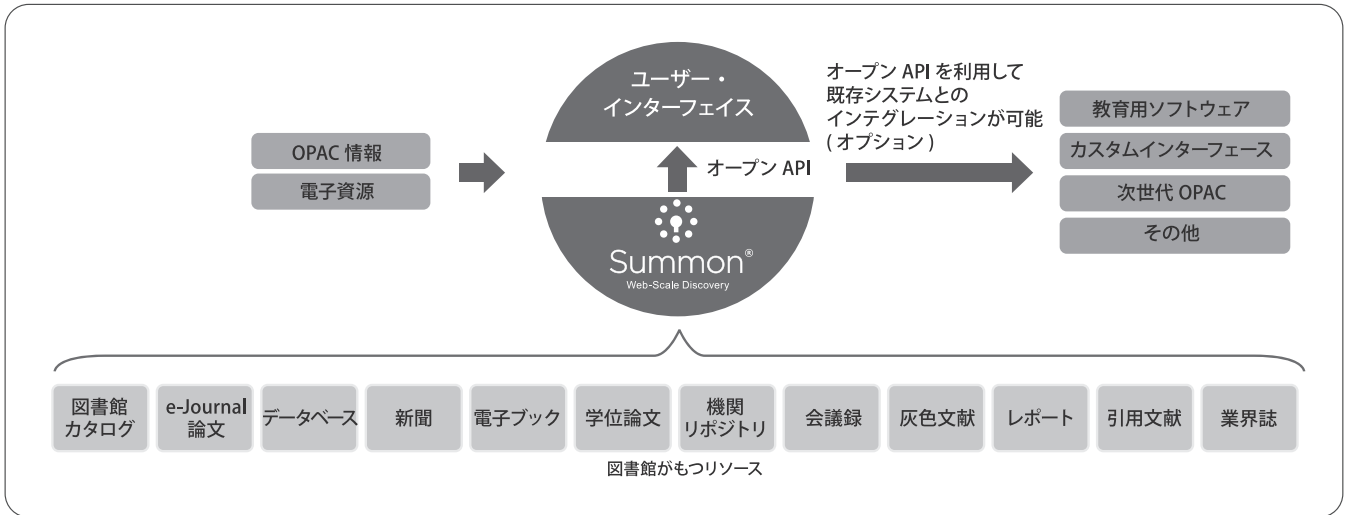
本社 〒164-0012 東京都中野区本町 3-10-3 PORT ビル  
Tel : 03-3299-1575 Fax : 03-3374-1410

大阪オフィス 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-3-3 肥後橋パークビル4F  
Tel : 06-6444-7720 Fax : 06-6444-7730

# これまで見つけることが困難だった資料でも たった1つの検索窓から瞬時に見つけられます！

Summon は統合検索や次世代 OPAC を越える全く新しい検索サービスです。Google のようなシンプルなインターフェイスから図書館独自の広範囲で信頼性の高い情報へすばやくアクセスすることができます。

図書館の所蔵資料や契約データベース・電子ジャーナル、機関リポジトリ、オープンアクセス誌といった図書館で利用できるすべてのリソースのメタデータをあらかじめハーベスティングさせる手法でこれまでにない検索スピードを実現しました。



## POINT 1

### すべてのリソースを一度に検索

すべてのリソースをたったひとつの検索窓から見つけることができます。現在のインターネットユーザーのニーズを満たす新しい学術情報の検索スタイルを提供します。

## POINT 2

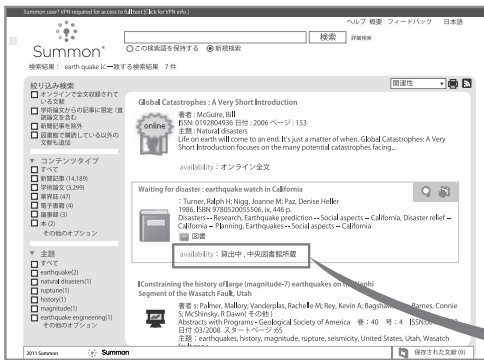
### 信頼のおけるコンテンツだけを検索

検索対象はすべて図書館のコンテンツです。信頼性が高く、しかも入手可能なコンテンツにのみアクセスすることができます。

## POINT 3

### 瞬時に検索結果を表示

図書館で利用できるすべてのリソースのメタデータをあらかじめハーベスティングさせるので、Google などの検索スピードを実現します。



## 図書館システムと連携して 所蔵・貸出情報を リアルタイムで表示

冊子の検索結果には現在の貸出し状況や保管場所が表示されます。検索結果をクリックすると図書館 OPAC のライブリンクになっています。

availability : 貸出中、中央図書館所蔵

## SaaS 型サービスなので 導入・メンテナンスの 手間がかかりません

Software as a Service(SaaS) で提供されるため、サーバーの設置やアップデート、メンテナンスといった作業に人員を割く必要はありません。常に最新で最適な状態でサービスを利用することが出来ます。

## 目的の資料へ的確にナビゲートします

ファセット機能によりフォーマット、主題、出版年などによる絞り込み検索を効率的に実行できます。また、360Link などのリンクリゾルバと連携して該当の資料に確実にたどり着くことができます。

360 360 LINK

お問い合わせ先

Content Solutions Company  
**SUNMEDIA 株式会社サンメディア e-Port カンパニー** e-mail : e-port@sunmedia.co.jp

本社 〒164-0012 東京都中野区本町 3-10-3 PORT ビル 大阪オフィス 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-3-3 肥後橋パークビル4F  
Tel : 03-3299-1575 Fax : 03-3374-1410 Tel : 06-6444-7720 Fax : 06-6444-7730



## 図書館ソリューション営業部プロフィール

図書館を取り巻く環境が大きく様変わりするなか、ナカバヤシはソフト・ハードの両面から、図書館の持つ可能性を最大限に生かすためのご提案を続けます。

### 製 本

創業以来の豊富なノウハウと高い技術力で、さまざまな製本に小ロットから大量発注まで柔軟に対応します。

- 雑誌合冊製本  論文製本  新聞製本  カルテ製本  簡易製本  図書改装製本
- 貴重書・古書修理製本  行政文書製本  和綴じ製本  帙・四方帙

### 資料保存

資料の劣化・保存状況、目的・ご要望に合わせて適切な保存処置・環境の整備をご提案しています。

- 中性紙保存箱の作製  脱酸性化処理  裏打ち・すきはめ  軸装・額装の再仕立て
- 劣化要因の除去  カビ・紫外線対策  環境調査・除塵防黴施工・燻蒸

### 図書館サービス

図書館のパートナーとして、業務の効率化、図書館サービス・利用者満足度の向上に取り組みます。

- 雑誌受入整理・遡及入力  製本準備・受入  図書受入整理・遡及入力  装備
- 閲覧・カウンター業務  蔵書点検  書籍移動・配架シミュレーション  指定管理

### デジタル・ソリューション

コンテンツづくりから公開・運用まで、情報資産の保存・有効活用をサポートしています。

- 画像データ作成  テキストデータ作成  閲覧・公開システム・ホームページの構築
- 機関リポジトリサービス  電子書籍の制作

### 図書館システム・サプライ

運用に欠かせないシステム・アイテムを数多く取り揃えています。

- 図書館システム  自動貸出装置  無断持出し防止装置  磁気テープ
- RFIDシステム  什器・図書館用品  ラベル・カード作成  オンデマンド印刷

### N-CLASS

カメレオンコードを活用した、効果的・柔軟な図書館サービスの提供できる、新しい蔵書管理ソリューションをご提案しています。

## ナカバヤシ株式会社 図書館ソリューション営業部

東京本社 〒174-8602 東京都板橋区東坂下2丁目5-1 TEL:03-3558-1251 FAX:03-3558-1260  
 大阪支社 〒536-0005 大阪市城東区中央2丁目1-23 TEL:06-6930-6668 FAX:06-6935-2667  
 名古屋支店 〒456-0053 名古屋市熱田区一番2丁目2-6 TEL:052-661-3771 FAX:052-661-3775  
 福岡支店 〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭5丁目7-11 TEL:092-641-3661 FAX:092-641-3699  
 札幌営業所 TEL:011-846-7884 仙台営業所 TEL:022-284-3045 横浜営業所 TEL:045-952-0501  
 広島営業所 TEL:082-536-3200 高松出張所 TEL:087-831-5825

HP:<http://www.nakabayashi.co.jp/> E-MAIL:[toshokan@nakabayashi.co.jp](mailto:toshokan@nakabayashi.co.jp)





『創造的な学びを伸ばすラーニングcommons』

e-chair

イーチェア



よい品は結局おトクです

**大カムラ**  
株式会社 岡村製作所

お問い合わせ・ご相談は [お客様サービスセンター] へ… <http://www.okamura.co.jp/>  
フリーダイヤル ☎ 0120-81-9060 受付時間 / 9:00~17:20 (土・日・祝日を除く)

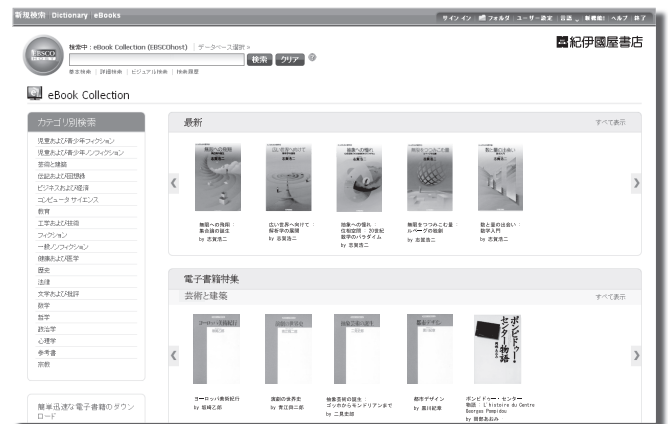
法人向電子書籍サービス

**NetLibrary**

<http://www.kinokuniya.co.jp/03f/oclc/netlibrary/>



表紙画像が並ぶ親しみやすいトップ画面。ロゴ等でのブランディングも可能です。



全文横断検索のほか、著作権範囲内で印刷 PDF ファイルのダウンロード、個人使用のデバイスでの閲覧も可能です。

- フルテキスト検索、コンテンツ間横断検索を実現！
- 搭載件数 66 万点、世界最大級のコレクション！ (2014 年 11 月現在)
- 1,500 社の優良出版社が参加！ (2014 年 11 月現在)
- 豊富な導入実績！全世界 32,000 以上の図書館が利用！ (2014 年 11 月現在)
- 紙の本と同じ、1 冊からの買切り方式！
- いつでもどこからでも…リモートアクセスが可能！
- NACSIS 形式の MARC レコードを標準無償提供！
- 書架スペースの確保に最適！

■ 紀伊國屋書店 福岡営業所

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街 2-1 博多バスターミナル 9F Tel : (092) 437-5353 Fax : (092) 437-5356



# ジュンク堂書店

淳久堂書店

お店で選書ツアーができます

☆学生・先生・司書の皆さんで学校企画としていかがですか？  
各階専門書・地下一階に1万 5000 冊の洋書売場も充実！  
B1～4 階フロア・140 万冊の店舗で選書が可能です(要予約)

お問い合わせ先 E-mail [fk-gai@junkudo.co.jp](mailto:fk-gai@junkudo.co.jp)

福岡市中央区天神 1-10-13 天神 MMT ビル

電話・092-738-3405 FAX・092-717-7321

## 広がります あなたの未来 政府刊行物

探したい本はここで見つかる。

政府刊行物のホームページ

<http://www.gov-book.or.jp/>

### 政府刊行物サービス・ステーション

天神:福岡市中央区天神 4-5-10(チサン天神 1F)

市役所:福岡市中央区天神 1-8-1(福岡市役所 B1F)

TEL(092)721-4846

TEL(092)722-4861

県庁:福岡市博多区東公園 7-7(福岡県庁 B1F)

TEL(092)641-7838

政府刊行物普及株式会社・福岡県官報販売所

福岡市中央区天神 4-5-17

TEL(092)761-1151 FAX(092)751-0385

# Auto Lib.

[自動化書庫]

## 蔵書点検システムをさらに充実

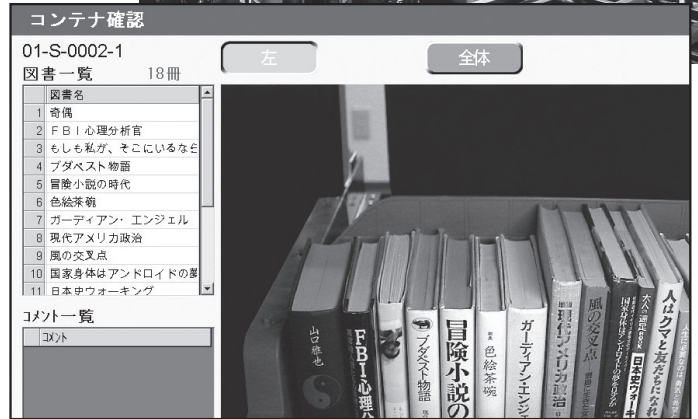
【見える化】を実現させた映像システムと、UHF・HF帯ICタグの完全自動読み取りとの独自システムにより、蔵書点検・棚卸し作業を確実にします。

うっかり  
ミス防止

返却した図書を瞬時に  
モニター画面で確認で  
き、うっかりミスを防止  
します。

### 自動化書庫オートライブの特徴

- 独自の運用システム・管理データにより、従来型書庫ではできなかった新しい多くの利用者サービスを提供。
- 出納作業及びカウンター業務の軽減による大幅な省力効果。
- 連続的な出庫作業では、25秒間隔で図書取り出し可能な利用者を待たせない高速出庫。
- スピーディな返却で貸出予約に素早く対応。



よりよい保管システムを提供する



日本ファイリング

日本ファイリング株式会社

本社 / 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2  
支店 / 大阪・名古屋 営業所 / 札幌・仙台・広島・福岡

ISO14001  
ISO9001  
認証取得企業

お申込み・お問い合わせ

<http://www.nipponfiling.co.jp>

# FUKUOKA KAIGAI LIMITED

洋書・洋雑誌・バックナンバー輸入販売



# 福岡海外株式会社

福岡市中央区天神4-1-18 〒810-0001

Tel: 092-741-2685 Fax: 092-741-8418

e-mail: fkaigai@lime.ocn.ne.jp



知を求める全ての人々に。

丸善は大学・図書館・企業など、あらゆる分野の方々へ学習情報と課題解決に向けたソリューションのご提供により、教育・研究を支援するベストパートナーを目指します。

書籍・学術資料の提供、大学キャンパス・学校施設・公共施設・図書館等各種施設のデザイン・設計・施工、図書館運営、アウトソーシング

**M MARUZEN**

**丸善株式会社 福岡支店**

〒815-0031 福岡市南区清水 2-15-11

Tel : 092-561-1831 Fax : 092-561-1854

URL <http://www.maruzen.co.jp/top/>

札幌 / 仙台 / 関東 / 名古屋 / 金沢 / 京都 / 大阪 / 神戸 / 岡山 / 広島 / 福岡

九州地区大学図書館協議会誌 第57号

平成27年2月発行

発行 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学附属図書館内  
九州地区大学図書館協議会

TEL (092) 642-2324

FAX (092) 642-2330

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/>